

# WAI 技法を用いた 自我の実証的研究 (4)

|                    |    |
|--------------------|----|
| 1. 序にかえて           | 5  |
| 2. 回答の出現順序の分析      | 11 |
| 3. 「自分らしい」回答の分析    | 25 |
| 4. WAI 反応の相互関連性の分析 | 37 |
| 5. 事例分析の試み         | 47 |
| 6. 総括と展望           | 57 |
| 7. 引用文献            | 61 |
| 8. WAI・SCT 事例集     | 63 |

本モノグラフに掲載されている研究成果は、多くの方々の協力によって得られたものです。データを提供して下さった被験者の方々とデータ収集に御協力いただいた方々に心より御礼申し上げます。特に、データ収集においては、多くの学校の先生方、企業の方々、様々な団体の方々、横田ゼミナールのOB、OGの方々に御協力をいただきました。これらの方々に対し、この場を借りて、心より感謝いたします。

北陸学園短期大学の星野命先生、慶應義塾大学の岩男寿美子先生、放送大学の星薫先生、慶應義塾大学の小林ポオル先生には、研究の過程において貴重な御助言を賜り、データ収集においても多大な御協力をいただきました。これらの方々に厚く御礼申し上げます。

このモノグラフに掲載されている「WAI・SCT 事例集」は、慶応パーソナリティ研究会において検討したケースをもとに作成されました。研究会メンバーの皆さんには、貴重な事例を提供していただきました。ここに記して感謝の意を表する次第です。

この研究プロジェクトは、慶應大学文学部人間科学専攻の横田ゼミナールの第14期生(1984年卒)から22期生(1992年卒)の、およそ10年にも及ぶ研究協力によって為し得たものです。ゼミ生の皆さんには、1万数千にも及ぶ膨大なデータの整理、分類評価、集計をしていただきました。これらの方々に心より御礼を申し上げるとともに、その永年にわたる努力に対し敬意を表したいと思います。

最後になりましたが、研究プロジェクト全般にわたって、御支援、御協力をいただいた伊藤隆一氏、小林和久氏、弘田直人氏、兼高聖雄氏に心より感謝いたします。

#### 執筆者紹介

- まきた ひとし (慶應義塾大学名誉教授)
- いわくま しろう (慶應義塾大学新聞研究所研究員)
- にしむら まゆみ

# 1

## 序にかえて

|                   |   |
|-------------------|---|
| 1. WAI 技法         | 5 |
| 2. 回答の出現順序        | 6 |
| 3. 自分らしさの〇        | 7 |
| 4. WAI 技法による個人の理解 | 8 |

われわれは、10年以上にわたり WAI 技法による自我の実証的分析を進めてきた。しかし、まだやり残されている課題もある。本稿では、このような課題に焦点をあてて分析を試みる。まず、本章では、どのような課題が残されているかについて述べることにするが、その前に WAI 技法について簡単に触れておく。なお、われわれのこれまでの成果については、「組織行動研究」の No. 25 (Vol. 16) (楨田・岩熊, 1990), No. 28 (Vol. 19) (岩熊・楨田, 1991b), No. 30 (Vol. 21) (楨田・岩熊・西村, 1992) に掲載されているので参照されたい。

### 1. WAI 技法

WAI 技法は、Kuhn と McPartland (1954) によって考案された技法である。この技法において被験者は、「自分は誰でしょう? (Who am I?)」という問に自問自答して、思いついた回答を自由に 20 個記述する。そのため、得られる反応は、被験者自身によって筆記された言語反応となる。また、WAI 技法では 20 の回答が得られるところから、20 答法 (TST: Twenty Statements

Test) とも呼ばれている。ここでは、われわれの用いている WAI 用紙と施行手順を示しておく。

#### [WAI 用紙]

WAI 技法を施行する際に必要となる WAI 用紙は、中学生以上の被験者を対象とした「一般用 WAI 用紙」、小学生を対象とした「小学生用 WAI 用紙」、老人を対象とした「老人用 WAI 用紙」、そして、施行状況により記名させることが難しい場合のための「無記名 WAI 用紙」の 4 種類が用意されている。「一般用 WAI 用紙」には、B4 版の紙が用いられ、左半分にはフェイス・シートと被験者への教示が印刷され、右半分に被験者が反応を記入するスペースが設けられている。左半分のフェイス・シートには、氏名、性別、調査日時、生年月日、年齢、現住所、未婚・既婚、職業、学歴を記入する欄があり、その下には、以下のような被験者への教示が印刷されている。

「私は誰でしょう?」(Who Am I?) という問いに対し、あなたのことについて、20 通りの異なる答えを右のページの 1 番から順に書いていってください。思いつくままに、自由に書いて

ていってください。書き終わったら、1 から 20 までの答えを見て、特に自分らしいと思われる答えの番号を○で囲んでください。○はいくつつけてもかまいません。もし、どうしても最後 (20 番) まで答えを思いつかない場合は、思いつくところまでで結構ですので、そこまでの内容で、自分らしいと思われる答えの番号を○で囲んでください。

用紙の右半分の反応を記入する欄は、20 本の罫線が引かれ、各行の先頭に 1 から 20 の番号が付けられただけのものである。被験者は、これらの各行に 1 答ずつ反応を記入していき、最終的に 20 の回答を記入することになる。

「小学生用 WAI 用紙」は、一般用と同じ大きさの紙を用い、形式もフェイス・シートと教示を除いて同じになっている。小学生用のフェイス・シートの項目は、氏名、性別、調査日時、生年月日、年齢、現住所、親の職業、学校名、学年である。教示は、以下のように、一般用よりも平易なものになっている。

「私はだれでしょう?」という問いを自分に見てみてください。そして、その問いに対する、20 通りのそれぞれちがう答えを、右のページの 1 番から順番に書いていってください。思いつくままに、自由に書いていって下さい。もし、20 番まで答えを思いつかないときは、思いつくところまででかまいません。答えを書きおえたら、あなたがかった答えを見て、特に自分らしいと思う答えの番号を○でかこんでください。○は、いくつつけてもかまいません。

「老人用 WAI 用紙」は、字を大きくして縦書きに印刷したもので、大きさは B4 版であるが、フェイス・シートと反応の記入欄の 2 枚綴りになっている。また、「無記名 WAI 用紙」は、フェイス・シートの記入欄を年齢と性別だけに限ってある。

#### 【施行手順】

WAI 用紙は、被験者や施行状況に合わせて、上

記の 4 種類の中から適切なものが選択される。小学生の被験者 (3 年生以上) に対しては小学生用を用い、それ以上の被験者に対しては一般用を用いるが、老人の一部には老人用も用いている。また、記名式の WAI 用紙では施行がむずかしい場合に限り、無記名の WAI 用紙を使用する。

施行手順は、2 つの手続きのいずれかで行なわれている。最も一般的なものは集団施行によるものである。この手続きは、授業時間や集会・会合において施行する場合に用いられる。この場合、用紙を配布し、被験者全員に対し口頭で教示を行ない、その後、被験者からの質問を受けつける。反応に要する時間には個人差があるため、各自が自分のペースで反応するよう教示し、20 分から 40 分程度の時間をとって施行する。もう 1 つは、個人的に被験者に依頼して反応を求めるものである。この場合、用紙を手渡して口頭で教示を行ない、自宅で記入して提出するよう求める。

われわれは、以上のような方法で約 14,000 名の WAI 反応を収集している。そして、反応の内容分析を中心に分析を進めてきた。これは、WAI 技法によって具体的にどのような反応が得られるかを、KJ 法 (川喜田, 1967) を用いて分類・整理し、その結果に基づいて「基準書」と呼ばれる反応カテゴリーを作成するというものである。さらに、基準書を用いてすべての反応を分類評定し、反応頻度の分析も行なっている。基準書は、数回にわたる改訂が重ねられ、1992 年に 168 のカテゴリーから成る「最終版基準書」が完成されている (楨田・岩熊・西村, 1992)。

## 2. 回答の出現順序

残された課題の 1 つは、回答の出現順序の分析である。WAI 技法において被験者は、「私は誰でしょう?」という問に自問自答して 20 の回答を反応する。回答の出現順序とは、各回答が 20 答のうちの何答目に現れたかということである。われわれの研究では、反応の内容分析が中心に行なわれてきたが、出現順序との関連は詳細に検討されていない。しかし、出現順序と内容との関連を

分析することは、WAI 技法に反応する際、個人の中にどのようなプロセスがあるのかについての示唆を与えてくれるものと思われる。また、20 の回答がすべて 1 人の被験者の“私”を表していることを考慮すれば、個人内のダイナミックスに関する知見が得られることも期待できる。これらは、WAI 技法の特性を理解する上でも、また、自我あるいはパーソナリティというものを理解する上でも、意味ある分析と言えるであろう。

既に内外の先行研究において、回答の内容と出現順序との間に関連があることが示されている (e.g., 古沢・星野, 1962; Kuhn & McPartland, 1954; 高垣, 1974)。例えば、WAI 技法の考案者である Kuhn と McPartland (1954) は、回答を反応内容によって consensual な言及と sub-consensual な言及との 2 つに分類し、出現順序との関連を分析している。consensual な言及とは、例えば、性別、職業、役割などについての記述のような、自他が共に客観的に認めることができる反応である。一方、subconsensual な言及とは、自分の心理状態、自己評価、性格についての記述のような、反応者自身による解釈を含む反応である。分析の結果、WAI 技法では consensual な言及が初めに現れて、その後 subconsensual な言及に移行することが確認された。さらに、consensual から subconsensual へ移行するまでの回答数 (locus score) と被験者の宗教との間に関連があることも示されている。つまり、WAI 技法では、初めに客観的に明確な属性などが現れ、その後より主観的な評価を含んだ反応が現れる。そして、両者の回答数には明確な個人差があるということになる。

このように、回答内容と出現順序の間に何らかの関係があることは確かであるが、その関係を明確にするためには、より詳細な回答内容の分析を行なう必要がある。われわれは、前節でも述べたように、WAI 反応の内容分析を通じて、「基準書」と呼ばれる反応カテゴリーの作成を行ってきた。そして、1992 年度には、数回にわたる改訂の結果、「最終版基準書」が完成されている (楨田・岩熊・西村, 1992)。この基準書は 168 のカテゴリーから構成されており、回答内容の詳細な

分析が可能となる。そこで、第 2 章では、この基準書を用いて、回答の内容と出現順序の関係について体系的に検討を加えることにする。

### 3. 自分らしさの○

もう 1 つの課題は、われわれが「自分らしさの○」と呼んでいるものの分析である。われわれは、WAI 技法を施行する際、被験者に、書き終えたすべての回答を見て、特に自分らしいと思う回答の番号に○を付けるよう教示している。被験者自身が特に自分らしいと考える回答の特徴を理解することは、自我・自己を考える上で意味深い。

ところで、これは、従来、回答の心理的負荷の分析と呼ばれてきたものに含めて考えることができる。WAI 技法の心理的負荷に関する分析では、被験者が各回答に対してどのような感情や評価を持っているか、あるいは、回答する際にどのような心理的な特性があるかを検討している。このような研究では、例えば、「スラスラと出てきたかどうか」「日頃の行動に影響しているかどうか」「ハッキリ自覚しているかどうか」などの複数の項目を設け、それらについて被験者自身に評定を行なわせている (e.g., 高垣, 1974)。

多くの項目について評定を行なわせることで、より詳細な分析が可能となるが、その一方で、被験者の負担が大きくなる。実は、われわれも、研究の当初、複数の項目についての評定を行なわせていたが、被験者の負担と用紙のレイアウトを考慮して、「自分らしさの○」に限ることにした。これだけならば、被験者の負担はさほど大きくなり、用紙に評定のためのスペースを設ける必要もない。評定項目として「自分らしさ」を選択した理由は、われわれの研究目的が自我・自己の実証的な分析にあるためである。WAI 技法に現れた 20 の回答は、すべて被験者にとっての自分を表しているわけだが、その中でも特によく自分を表している回答を知ることによって、“自己の感覚”や自我・自己の“中心”の問題に接近できると考えた。

ところが、これまでは回答の内容分析に時間を要したため、この問題も詳細に検討することがで

きなかった。しかし、先にも述べたように、基準書が一応完成し、一般的な内容分析も一段落ついたため、懸案であった「自分らしさの○」について検討を加えることにした。本稿の第3章では、自分らしい回答の特徴を内容的な側面から分析する。具体的には、出現順序の分析と同様に、「最終版基準書」を用いて、○の付いた回答の内容の検討を行なうことにする。

#### 4. WAI 技法による個人の理解

残された課題として最も重要なものは、WAI 技法を個人のパーソナリティを理解するために活用することである。われわれは、WAI 技法以外にも個人のパーソナリティを理解するための心理学的技法の開発を行ってきた (e. g., 榎田・小林・兼高, 1992; 榎田・中野・伊藤, 1990; 榎田・佐野, 1965; 佐野・榎田, 1960; 佐野・榎田・坂部, 1985)。WAI 技法についても、個人のパーソナリティの中心的な部分である自我・自己を理解するのに有効な技法であると考え、その研究に着手した。従って、われわれの最終的な目的は、自我・自己の心理学的な理解と、WAI 技法を個人のパーソナリティ理解に役立つ tool として確立することの両者にあると言える。

この2つの目的は相互に関連し合っており、一方だけを達成することはできない。即ち、WAI 反応の分析から自我・自己の一般的な理解が進み、そこで得られた知見に基づいて WAI 技法を個人理解にどう役立つかが明確になってくるのである。このような理由から、われわれは、内容分析を中心とする WAI 反応の分析に力を入れ、自我・自己についての一般的な理解を目指してきた。そしてこれは、WAI 技法の特性の理解にもつながると考えた。

しかし、WAI 技法をパーソナリティ把握のための道具として確立するためには、このような一般的な分析だけでは十分とは言えない。WAI 技法を用いて個人のパーソナリティを把握するための具体的な方法を確立しておく必要がある。そのために、われわれは、いくつかの試みを行なっている。その1つが「WAI 事例集」(岩熊・榎田,

1991b; 榎田・岩熊, 1990; 榎田・岩熊・西村, 1992) である。これは、これまでに収集された約 14,000 名の WAI 反応から、年齢・性別を考慮して典型的なものや特殊なものを 133 事例選び出し、その反応をほぼそのままの形で掲載したものである。事例集では、短いコメントが付けられているだけで、個人のパーソナリティについての解釈は行なわれていない。しかし、個人の反応をトータルに見て、さらに、個人間のパリエーションを知ることは、WAI 技法をパーソナリティ理解に活用する上でも役立つものと思われる。

もう1つは、WAI 技法によって得られた回答間の関連性を被験者自身に評定させる実験で、大学生 50 名を被験者として行なわれた (岩熊, 1986; 岩熊・榎田, 1989)。個人の 20 の回答は、それぞれ内容が異なっても、相互に関連しあい、1人の“私”を構成している。従って、回答間の関連性を分析することによって、個人の self-image の構造や、自我・自己の構造についても有益な知見が得られるものと考えられる。また、自分が記述した回答に対する被験者自身の意見や感想を聞くことによって、WAI 反応の個人にとっての意味づけも明確になってくる。これらの知見は、個人のパーソナリティ全体における WAI 反応の意味づけを行なう上でも重要と言えるであろう。そこで、第4章では、この実験について述べることにする。

そして最後は、実際に個人のパーソナリティの把握を必要とする場面において用いられる、WAI 技法の施行・分析の手続きを確立する試みである。このような場面は、臨床的な相談、企業の人事評価、教育相談など様々で、制約条件や目的も異なる。従って、画一的な手続きを設定することは難しい。しかし、どのような場面であれ、個人のパーソナリティが正確に把握でき、施行や分析に高度な知識や多大な労力を必要としないものが望ましい。WAI 技法自体は、施行が比較的簡単な技法であり、しかも、他の技法ではわからない部分を把握できる。そういう意味では、実際のパーソナリティ診断における有効性も期待できる。われわれは、多くの個人の分析を積み重ねることにより、なるべく多様な場面で用いることの

できる施行・分析の手続きの確立を目指してきた。ところが、WAI 技法で把握できる情報には限りがあるため、他の技法も含めたテスト・バッテリーを構成することが必要となる。そこで、第5章では、文章完成法テスト (SCT) と WAI 技法による事例分析について述べることにする。

これら3つの試みによって、WAI 技法による個人のパーソナリティ把握がある程度可能になるものと考えられる。しかし、われわれが行なう事例分析には、数においてもその多様性において

も、自ずと限界がある。WAI 技法をパーソナリティ把握のための技法として確立するためには、多様な個人、多様な場面、多様な分析者による事例を積み重ね、その中からよりよい方法を作り上げていく必要がある。

以上、われわれに残された課題について述べた。次章以降ではそれぞれの問題についての分析を示すことにする。

# 2

## 回答の出現順序の分析

|       |    |
|-------|----|
| 1. 目的 | 11 |
| 2. 方法 | 12 |
| 3. 結果 | 14 |
| 4. 考察 | 22 |

### 1. 目的

WAI 技法では被験者が 20 答のそれぞれ異なる回答を反応する。回答の出現順序とは、各回答が 1~20 答のうちの何答目に現れるかということである。出現順序には反応時における被験者の心理過程が反映されており、これを分析することによって、被験者内のダイナミックスを知る手がかりを得られると考えられる。さらに、このような手がかりから、自我・自己の構造についても何らかの知見が得られるものと期待される。そこで、本章では、回答の出現順序と内容との関係进行分析し、反応時の心理過程や自我・自己の構造について検討を加える。

前章でも述べたように、Kuhn と McPartland (1954) は、回答の出現順序と内容との間に明確な関連があることを示している。彼らは、回答内容を consensual な言及と subconsensual な言及とに分類し、出現順序との関連を見ている。consensual な言及とは、「その成員性の制限や条件が常識であるような、グループやクラスに言及している記述」(Kuhn & McPartland, 1954, p. 69)

で、例えば、「学生である」「女の子である」「夫である」といった反応が分類される。一方、subconsensual な言及とは、「正確にするため、あるいは、他者との比較をするために、反応者自身による解釈を必要とするであろう、グループ、クラス、属性、特性、その他の事柄に言及している記述」(Kuhn & McPartland, 1954, p. 69) で、例えば、「幸せだ」「退屈している」「かなり良い学生である」といった反応が分類される。

分析の結果、consensual な言及が初めに現れて、その後 subconsensual な言及へ移行することが確認されている。その際、各被験者ごとに consensual から subconsensual へ移行するまでの回答数を、最も誤差が少なくなるように求めた。それをもとに算出された再現性係数は、全体で .903 で、誤差は 10% 未満であった。つまり、consensual から subconsensual への移行はかなり明確で、移行する前に subconsensual な言及が現れることや、移行後に consensual な言及が現れることがあまりないということになる。さらに、locus score と呼ばれるこの移行点と、被験者の宗教との関連を分析した結果、ローマ・カトリックが 11.89 で最も高く、無宗教が 5.75 で最

も低いことも示された。日本でも locus score を用いた研究がいくつかあるが、例えば、古沢と星野 (1962) は高校生と大学生を比較して、高校生の方が高い locus score を示すという結果を得ている。

この結果は、WAI 技法において、初めに自他が共に認めるような客観的な反応が現れ、その後主観的な解釈や評価を含む反応が現れる傾向が顕著にあることを示唆している。また、両者の割合には個人差があり、それが宗教や年齢などの個人属性と関連していることも示されている。

このように、Kuhn と McPartland (1954) の consensual-subconsensual な言及という分類は、出現順序と明確に関連していると言える。しかし、この2分類は、かなりおおまかな分類であるため、出現順序と内容の詳細な関係は明確とは言えない。高垣 (1974) は、consensual-subconsensual の分類も踏襲した、より詳細なカテゴリーを用いて、出現順序との関係を分析している。それによると、特に〈人間〉〈性〉〈学校、学生、学年等〉は第1~5答の間に現れる割合が高い。一方、〈生活態度〉〈全体的な自己についての規定〉〈對自己感情、評価〉は、後ろの回答ほど現れる割合が高くなっている。この結果は、consensual-subconsensual の分類によるものとも整合性を持っているが、詳細なカテゴリーを用いることによって、consensual-subconsensual 以外にも出現順序と関連するものが見つかる可能性も示唆している。出現順序と内容との関係を包括的に理解するためには、詳細なカテゴリーを用いた体系的な分析が必要と思われる。

そこで、われわれは、回答内容が出現順序によってどのように変化するかを、より詳細なカテゴリーと多変量解析技法を用いて体系的に分析することにした。内容を分類するカテゴリーとしては、「最終版基準書」(楨田・岩熊・西村, 1992)を用いることにした。基準書は、反応の内容分析の結果から帰納的に作成されたものであるため、WAI 反応の内容を比較的自然的な形で分類することができる。しかも、最終版基準書には168のカテゴリーがあり、反応内容の詳細な分類が可能である。解析技法としては、数量化 III 類を用いる

ことにした。数量化 III 類による WAI 反応の分析は既に試みられており、これによって、WAI 反応の内容を体系的に理解できることが示されている(岩熊, 1991; 岩熊・楨田, 1991a; 岩熊・楨田, 1991b)。このように、最終版基準書と数量化 III 類を用いることによって、出現順序と反応内容の関係を体系的に分析することが可能となる。さらに、広い年齢層の被験者の反応を分析することによって、発達的な変化についても考察を加える。

## 2. 方法

### [被験者]

分析には、最終版基準書による反応頻度の分析(楨田・岩熊・西村, 1992)に用いられたデータを用いることにした。これは、1980年前後から1991年までに収集された約14,000名のWAI反応から、年齢・性別を考慮して、約4,000名のデータを抽出したものである。データの抽出においては、発達段階やライフサイクルを考慮して、小学校4年、小学校6年、中学校2年、高校2年、20才、26才、35才、45才、55才、60才、65才、70才の12の年齢を選択した。そして、小学校4年から26才までは男女各250名、35才から55才までは男女各100名、60才から70才までは

表 2-1 性・年齢別の被験者数

| 年齢     | 男性    | 女性    | 計     |
|--------|-------|-------|-------|
| 小学校4年  | 248   | 240   | 488   |
| 小学校6年  | 272   | 247   | 519   |
| 中学校2年  | 248   | 297   | 545   |
| 高校2年   | 250   | 239   | 489   |
| 20~21才 | 246   | 252   | 498   |
| 25~27才 | 241   | 257   | 498   |
| 34~36才 | 108   | 98    | 206   |
| 44~46才 | 106   | 101   | 207   |
| 54~56才 | 115   | 106   | 221   |
| 60~62才 | 45    | 65    | 110   |
| 64~66才 | 45    | 53    | 98    |
| 70~72才 | 60    | 53    | 113   |
| 計      | 1,984 | 2,008 | 3,992 |

男女各 60 名をランダムに抽出することを考えた。しかし実際には、各年齢だけでは目標数を確保できない場合もあり、1~2 才の幅を持たせたところもある。最終的には、表 2-1 のように計 3,992 名のデータが抽出された。これは、目標数とは完全に一致していないが、かなり近いものとなっている。

### 【分析手続き】

**基準書による反応の分類評定:** 分析は、最終版基準書による分類評定の結果に基づいて行なわれる。最終版基準書は、小項目と呼ばれる 168 のカテゴリーによって構成され、小項目は、9 つの大項目のもとにまとめられている。最終版基準書は、「組織行動研究, No. 30 (Vol. 21)」(楨田・岩熊・西村, 1992) に掲載されているが、その概要は表 2-2 の通りである。小項目にはそれぞれ 3 桁の小項目番号が付けられており、この番号を用いて分類評定が行なわれる。なお、実際の分類評定は、最終版基準書の試作版に基づいて行なわれ、その後、最終版基準書の小項目番号に変換された。

表 2-2 最終版基準書の概要

|   | 大項目名 | 内 容   | 小項目数 |
|---|------|---|------|
| 1 | 社会   | 名前, 性別, 年齢, 住所, 出身・育ち, 職業, 学校, 所属団体, 経歴などについての記述。交友関係, 経済状態についての記述。                                       | 17   |
| 2 | 家庭   | 血縁的役割, 家族, 家庭についての記述。   | 11   |
| 3 | 身体   | 容姿・体格, 健康・体質, 身体機能・身体的能力についての記述。  | 3    |
| 4 | 能力   | 知的な能力, 個別の能力, 適応力, 一般的な能力, 資格・免許などについての記述。  | 9    |
| 5 | 情意   | 自分の性格についての記述のうち, 情意的側面について記述したもの。   | 42   |
| 6 | 力動   | 自分の性格についての記述のうち, 力動的側面について記述したもの。   | 27   |
| 7 | 指向   | 自己に対する感情・評価などについての記述。欲求, 願望, 希望などについての記述。態度, キャセクションなどについての記述。「私は私」, 「私は誰」, 実存的な記述, 生物学的・文化的規定, 隠喩的な表現など。 | 55   |
| 8 | その他  | WAI に対する批判, 無効回答など。該当する小項目のない回答。  | 3    |
| 9 | 無回答  | 無回答。  | 1    |

計 168

分類評定においては、評定者が回答の内容を見て、等価あるいは最も内容的に近い小項目の番号を各回答に割り当てていく。分類は、原則として回答単位で行なわれる。つまり、被験者の 20 の回答をそれぞれ独立に分類する。ただし、1 つの回答だけから分類ができない場合、その被験者の前後の回答を参考にして分類する。また、1 つの回答の中に、複数の内容が含まれている場合は、それぞれの内容を 1 つの反応として分類を行なう。そのため 1 人の被験者の反応数が 20 を越える場合もある。

分類評定は、大学生 21 人のグループと大学院レベルの 6 人のグループによって行われた。30 代までのデータについては大学生、40 代以上のデータについては大学院レベルの者が分類した。評定者は、分類に先立って数ケースの WAI 反応を用いたトレーニングを行なった。トレーニングでは、同一の反応をグループ全員がそれぞれ分類し、その結果についてグループで討議を行なう。このような討議を通じて、評定者全員が同一の基準で反応を分類できるようにした。実際の分類は、評定者が分担して行なったが、評定者が 1 人で判断できないものについては、グループで討議して判断するようにした。

小項目番号で分類評定されたデータは、回答の出現順序の情報、“自分らしさの○”の有無、被験者の属性(年齢, 性別, 職業など)などとともに大型計算機に入力された。

**数量化 III 類による反応パターンの分析:** 個人の反応は、出現順序に従って 4 つに分割され、それぞれの小項目反応パターンが数量化 III 類で分析された。各被験者の反応は、I. 第 1~5 答, II. 第 6~10 答, III. 第 11~15 答, IV. 第 16~20 答に分割された。ただし、回答数が 20 答に満たない被験者については、全回答を 4 等分した。

数量化 III 類では、分割された各領域における小項目反応パターンを分析した。そのためサンプル数は被験者数の 4 倍となる。分析された反応パターンは、4 つの領域ごとに各小項目の反応が 1 つ以上あったか否かを 1/0 で表現したものである。分析項目には、最終版基準書の小項目を用いたが、項目の意味があまり明確でない大項目くそ

の他〉の3項目と、小項目〈無回答〉を除外したため、分析に用いられた小項目の数は164項目となった。従って、数量化 III 類においては、15,968 (=3,992×4)×164 の1/0の行列が分析されたことになる。

数量化 III 類の結果得られたカテゴリー・ウェイトに基づいて小項目の布置を行ない、各次元の解釈を行なった。また、サンプル・スコアに対しては、出現順序、年齢、性別を要因とした分散分析が行なわれた。

**サンプル・スコアに基づく被験者の分類:** 数量化 III 類で得られたサンプル・スコアは、さらに、被験者の分類に用いられた。4つの出現順序ごとに得られたサンプル・スコアは、被験者単位に併合され、非階層クラスター分析(SAS FASTCLUS)によって、被験者の分類が行なわれた。その後、得られた各クラスターの特徴を理解するための分析が行なわれた。その1つは、サンプル・スコアの平均値による各クラスターの出現順序別の布置である。2つめは、各クラスターの被験者の出現順序別の小項目反応頻度の分析である。そして3つめは、クラスターと性・年齢との関係の分析である。

### 3. 結果

#### [数量化 III 類で得られた軸の解釈]

数量化 III 類では、各被験者の4つの出現順序における、最終版基準書の164の小項目に対する反応パターンが分析された。そして、その結果得られた軸のうち、固有値が.4以上の3つの軸がその後の分析に用いられた。3つの軸の固有値は、I軸が.601、II軸が.454、III軸が.404であった。

まず、各軸の解釈を行なうために、各小項目に与えられたカテゴリー・ウェイトを検討した。表2-3には、各軸で高いカテゴリー・ウェイトを得た正負各10の小項目が示されている。I軸のプラスの項目を見ると、いわゆる性格に関する項目がほとんどを占めており、マイナスの項目では〈名前〉や〈性別〉などの基本的な属性についての項目が多い。II軸のプラス項目にも性格についての記述が多いが、〈私は誰〉のような実存的な記述も含まれている。一方、II軸のマイナスには家族に関する項目が多く含まれている。

I軸とII軸で小項目を布置すると図2-1のようになる。これを見ると、第1象限(I軸+, II軸+)には性格と自己評価に関する項目が集中し

表 2-3 数量化 III 類で高いカテゴリー・ウェイトを得た小項目

| 正負<br>順位 | I 軸 ( $\eta^2 = .601$ ) |        | II 軸 ( $\eta^2 = .454$ ) |        | III 軸 ( $\eta^2 = .404$ ) |        |
|----------|-------------------------|--------|--------------------------|--------|---------------------------|--------|
|          | 小項目名                    | weight | 小項目名                     | weight | 小項目名                      | weight |
| + 1      | しつこい                    | 1.568  | まわりが気にならない               | 2.451  | 孫                         | 4.780  |
| 2        | 野心的                     | 1.523  | 隠喩的な表現                   | 2.338  | 配偶者                       | 3.871  |
| 3        | まわりが気にならない              | 1.481  | コンプレックス                  | 2.128  | 子供                        | 3.178  |
| 4        | 意志が強い                   | 1.460  | 私は誰                      | 2.113  | 政治指向                      | 3.018  |
| 5        | 責任感がある                  | 1.460  | 強情・頑固                    | 2.057  | 親戚・親族                     | 2.988  |
| 6        | 慎重                      | 1.451  | 気分屋                      | 1.992  | 社会指向                      | 2.959  |
| 7        | 度胸がある                   | 1.435  | 野心的                      | 1.900  | 隠喩的な表現                    | 2.881  |
| 8        | 強情・頑固                   | 1.419  | ひがみっばい                   | 1.879  | 健康に対する意識                  | 2.490  |
| 9        | 冷静・クール                  | 1.408  | しつこい                     | 1.871  | 年齢に対する意識                  | 2.458  |
| 10       | 自他の評価のズレ                | 1.383  | 繊細                       | 1.859  | 生死に対する意識                  | 2.341  |
| - 1      | 名前                      | -2.224 | 孫                        | -3.319 | 個別の能力がない                  | -1.923 |
| 2        | 生物学的・文化的規定              | -2.072 | 親戚・親族                    | -3.040 | 個別の能力がある                  | -1.915 |
| 3        | 人種・国籍                   | -1.890 | 配偶者                      | -2.391 | 理論指向                      | -1.383 |
| 4        | 性別                      | -1.736 | 子供                       | -1.919 | 身体的能力                     | -1.350 |
| 5        | 私は私                     | -1.863 | 母親                       | -1.808 | ニックネーム                    | -1.313 |
| 6        | 年令・世代                   | -1.530 | 学歴・職歴                    | -1.789 | 頭が悪い                      | -1.308 |
| 7        | 実存的記述                   | -1.381 | 父親                       | -1.787 | にぎやか                      | -1.201 |
| 8        | 学校                      | -1.372 | 資格・免許                    | -1.719 | 無神経                       | -1.201 |
| 9        | 住所                      | -1.369 | 暮らし方                     | -1.712 | 容姿・体格                     | -1.124 |
| 10       | ニックネーム                  | -1.338 | 健康に対する意識                 | -1.806 | 一般的な能力がない                 | -1.085 |

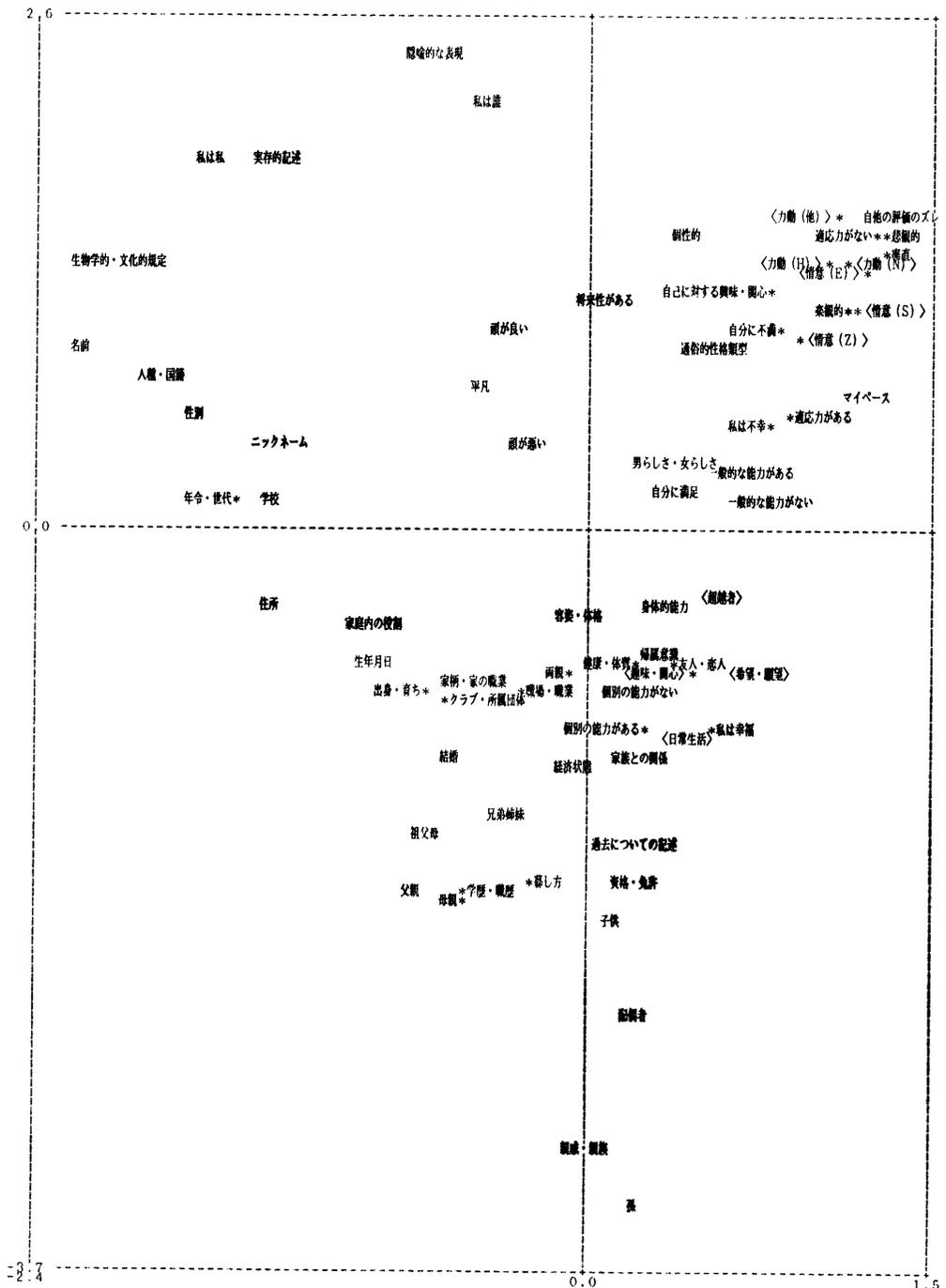


図 2-1 数量化 III 類による小項目の布置 (I 軸 [横軸]×II 軸 [縦軸])

“\*” が付けられているものは、その位置が小項目の位置を示す。それ以外は、小項目の中央で布置されている。“< >” 内に示されているのは、意味の類似した小項目をまとめたもので、そこに含まれた小項目の重心によって布置されている。

ており、第2象限 (I 軸-, II 軸+) には実存的な記述と基本属性に関する項目が多い。第3象限 (I 軸-, II 軸-) には家族やその他の所属集団に関する項目が目につく。第4象限 (I 軸+, II 軸-) には〈希望・願望〉や〈趣味・関心〉などの指向的な側面に関する項目が多い。これらから軸の解釈を行なうと、I 軸のマイナスには基本属性や所属集団などの客観的な属性に関するものが多いのに対し、プラスでは性格や指向などの被験者自身の主観的な解釈や評価を含む項目が多い。そこで I 軸は、「記述の主観性」の軸と判断した。一方、II 軸のプラスの性格、基本属性、実存的な記述は、自分自身に向けられた意識を反映したものであるのに対し、マイナスの所属集団や指向は自己を記述したものであるが、外的な対象に向けられた意識を反映したものと考える。そこで II 軸は、「自己-外的対象」の軸と解釈できる。

表 2-3 で III 軸の項目を見ると、プラスには〈孫〉や〈健康、年齢、生死に対する意識〉などの高齢者で反応の多い項目が見られる。それに対しマイナスには、〈ニックネーム〉や能力に関する項目など、年少者の反応に比較的多い項目が含まれている。従って、この軸は「加齢」に関する軸と判断できる。

[サンプル・スコアの分散分析]

数量化 III 類で得られた各軸のサンプル・スコアを従属変数として、性別、年齢、出現順序を要因とした分散分析を行なった。その結果をまとめたものが、表 2-4 である。まずこれを見ると、3

表 2-4 数量化 III 類のサンプル・スコアの分散分析の結果

| 要因         | df | F 値        |           |           |
|------------|----|------------|-----------|-----------|
|            |    | I 軸        | II 軸      | III 軸     |
| 性別         | 1  | 98.09***   | 17.10***  | 7.68***   |
| 年齢         | 11 | 293.85***  | 108.27*** | 388.25*** |
| 出現順序       | 3  | 1108.93*** | 128.48*** | 20.81***  |
| 性別×年齢      | 11 | 7.80***    | 9.62***   | 2.59**    |
| 性別×出現順序    | 3  | 0.87       | 0.36      | 0.15      |
| 年齢×出現順序    | 33 | 3.70***    | 8.75***   | 3.43***   |
| 性別×年齢×出現順序 | 33 | 0.97       | 0.82      | 0.58      |

\* : p<.05 \*\* : p<.01 \*\*\* : p<.001

つの要因の主効果はすべて、3つの軸において 0.1% 水準で有意となっている。それに対し交互作用は、性別×年齢と年齢×出現順序以外は有意となっておらず、有意になっているものについても比較的効果が小さい。

軸ごとに見ていくと、I 軸では出現順序の F 値が最も大きく、年齢がそれに次ぐ。I 軸のサンプル・スコアの平均の年齢による変化を出現順序別に図示すると図 2-2 のようになる。ほぼすべての

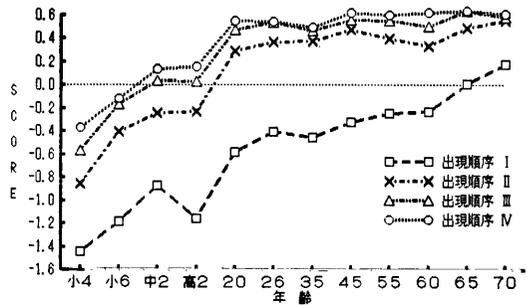


図 2-2 出現順序別に見た年齢によるサンプル・スコアの変化 (I 軸)

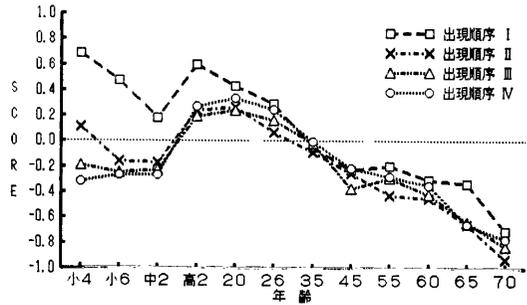


図 2-3 出現順序別に見た年齢によるサンプル・スコアの変化 (II 軸)

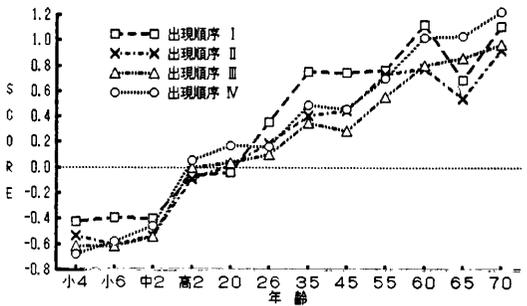


図 2-4 出現順序別に見た年齢によるサンプル・スコアの変化 (III 軸)

年齢で、出現順序が下がるにしたがって、サンプル・スコアが高くなっている。特に、出現順序の I (第 1~5 答) と II (第 6~10 答) の間の差が大きい。これは、第 6 答以降に、主観的な解釈や評価を含む回答が多くなる傾向があることを示唆している。また全体的に、年齢の上昇と共に、サンプル・スコアが高くなる傾向が認められる。出現順序の II~IV までは、小学校 4 年から 20 才まで上昇し、その後比較的安定しているが、出現順序の I では、高校 2 年と 35 才で下降するものの、全年齢を通して上昇している。従って、I と IV の差は、年齢の上昇とともに小さくなっている。全体的に見れば、年少者の回答には、客観的な記述が多いが、出現順序が下がるに従って主観性を増す。一方、高齢者の回答には、主観的な記述が多く、出現順序による主観性の違いは年少者に比べて小さいということになる。

II 軸の分散分析の結果は、I 軸の結果と類似した傾向を示しているが、主効果の  $F$  値が小さく、性別×年齢、年齢×出現順序の交互作用の  $F$  値が大きくなっている。図 2-3 は、II 軸のサンプル・スコアの平均の年齢による変化を出現順序別に示したものである。これを見ると、小学校 4 年から中学校 2 年までは、出現順序の I のサンプル・スコアが II~IV よりも高く、年齢の上昇に伴って下降する傾向を示している。しかし、中学校 2 年と高校 2 年の間では、すべての出現順序でサンプル・スコアが上昇している。それに対し 20 才以降は、全体的に下降傾向を示しているが、出現順序による違いは明確でない。この結果から、年少者においては、第 5 答まで自己に向かう意識が強く反映された回答が多く、それ以降的対象についての記述になる傾向が認められる。一方、20 才以降では、出現順序によるこのような違いが明確ではない。また、全体的に加齢に伴って外的対象についての記述が増加するが、中学校 2 年から高校 2 年という思春期の初期においては、逆に自己に向かう意識が強くなることも示唆されている。

III 軸の分散分析では、年齢の  $F$  値が最も大きく、他の軸と比べても年齢の効果が最も大きくなっている。図 2-4 には、III 軸のサンプル・スコ

アの平均の年齢による変化を出現順序別に示したものである。全体的に、年齢の上昇とともにサンプル・スコアも高くなっているが、出現順序による違いは明確ではない。これは、III 軸の解釈が「加齢」であることを考えれば、当然の結果と言えるであろう。

### [非階層クラスター分析による被験者の分類]

次に、数量化 III 類で得られたサンプル・スコアに基づいて、被験者の分類を試みた。数量化 III 類では、各被験者に対し、3 つの軸のサンプル・スコアが 4 つの出現順序ごとに与えられている。そこで、この 12 のサンプル・スコアに基づいて、非階層クラスター分析 (SAS FASTCLUS) によって被験者の分類を行なった。2 から 10 までのクラスター数を試みた結果、最も分類効果の高かった 4 クラスターを採用した ( $Pseudo F=862.3$ )

表 2-5 は、各クラスターの出現順序別の平均と標準偏差を示したものである。被験者数を見ると、クラスター B が最も多く、全体の 4 割を占めている。さらに、I 軸と II 軸でクラスターの平均を布置したものが図 2-5、I 軸と III 軸で布置したものが図 2-6 である。図 2-5 を見ると、すべてのクラスターにおいて、I から IV へ出現順序が下がるに従って I 軸のスコアが上昇しており、特に、I と II の間での上昇は大きい。一方、図 2-6 を見ると、III 軸のスコアの出現順序による変化は比較的小さい。

表 2-5 各クラスターのサンプル・スコアの平均と標準偏差

| クラスター                   | 出現順序 | I 軸    |       | II 軸   |       | III 軸  |       |
|-------------------------|------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
|                         |      | 平均     | SD    | 平均     | SD    | 平均     | SD    |
| A<br>N= 831<br>(20.8%)  | I    | -2.070 | 0.555 | 1.037  | 0.643 | 0.073  | 0.595 |
|                         | II   | -1.439 | 0.782 | 0.503  | 0.647 | 0.092  | 0.831 |
|                         | III  | -0.947 | 0.925 | 0.288  | 0.912 | -0.034 | 0.935 |
|                         | IV   | -0.702 | 0.954 | 0.185  | 0.983 | -0.050 | 0.989 |
| B<br>N=1,622<br>(40.8%) | I    | -0.735 | 0.888 | -0.057 | 0.731 | -0.398 | 0.735 |
|                         | II   | 0.088  | 0.801 | -0.538 | 0.872 | -0.698 | 0.898 |
|                         | III  | 0.288  | 0.509 | -0.574 | 0.870 | -0.705 | 0.689 |
|                         | IV   | 0.307  | 0.532 | -0.482 | 0.704 | -0.595 | 0.719 |
| C<br>N= 963<br>(24.1%)  | I    | 0.088  | 1.055 | 0.710  | 0.901 | 0.221  | 0.846 |
|                         | II   | 0.810  | 0.609 | 0.854  | 0.888 | 0.189  | 0.890 |
|                         | III  | 0.858  | 0.591 | 0.850  | 0.857 | 0.219  | 0.884 |
|                         | IV   | 0.880  | 0.576 | 0.800  | 0.928 | 0.338  | 0.953 |
| D<br>N= 576<br>(14.4%)  | I    | -0.421 | 0.829 | -0.838 | 0.927 | 1.156  | 1.133 |
|                         | II   | 0.243  | 0.580 | -1.009 | 0.919 | 1.124  | 1.308 |
|                         | III  | 0.374  | 0.545 | -0.875 | 0.905 | 1.136  | 1.289 |
|                         | IV   | 0.472  | 0.531 | -0.785 | 0.953 | 1.221  | 1.239 |

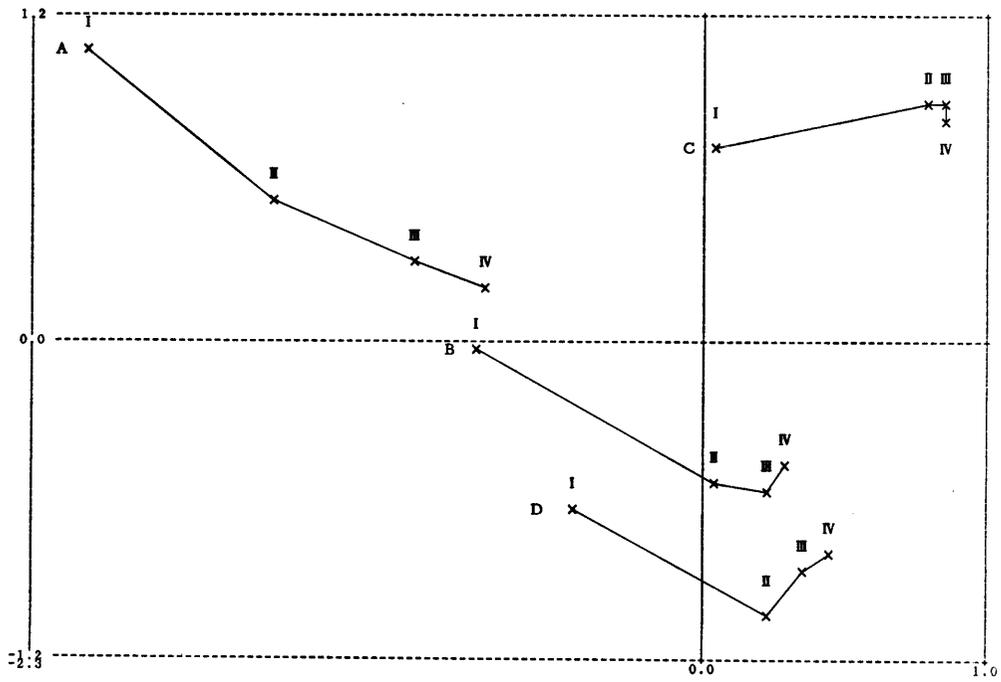


図 2-5 サンプル・スコアの平均によるクラスターの布置 (I 軸 [横軸]×II 軸 [縦軸])

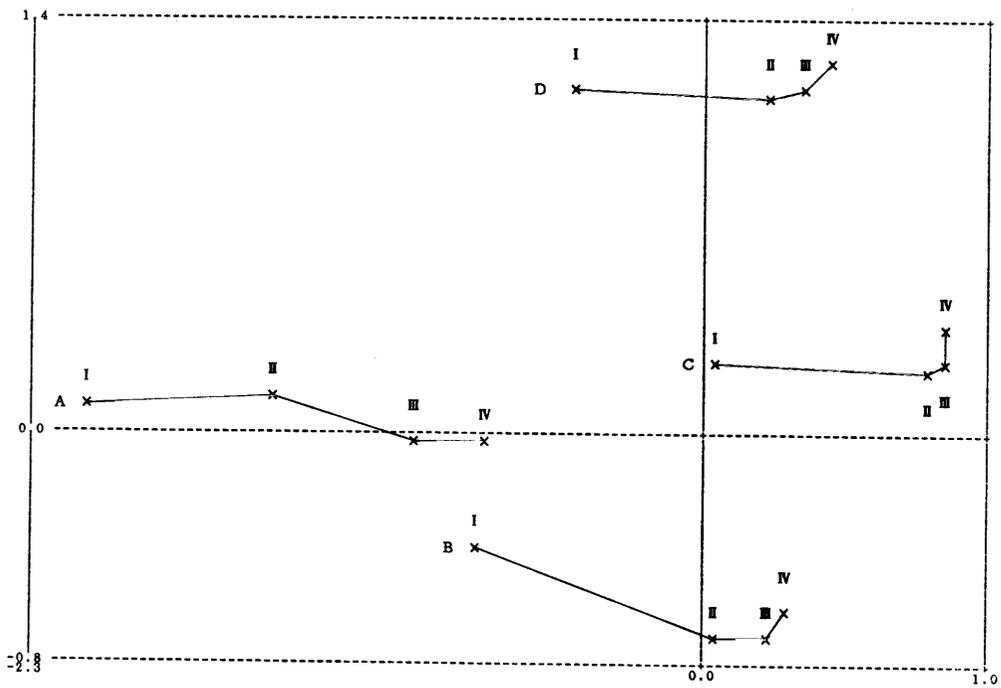


図 2-6 サンプル・スコアの平均によるクラスターの布置 (I 軸 [横軸]×III 軸 [縦軸])

クラスターAの特徴を見ると、I軸のスコアが、4つのクラスターの中で最も低く、出現順序が下がるに従って大きく上昇している。II軸のスコアは、全般に高く、出現順序に従い下降している。これは、主観的な解釈や評価を含む回答が少なく、自己に向かう意識が強いが、この傾向は出現順序が下がるに従って弱まることを示唆している。

クラスターBは、I軸とII軸の布置でほぼ中央に位置しており、出現順序のIにおける値がクラスターAのIVに近接している。出現順序によるI軸とII軸のスコアの変化は、クラスターAと類似しているが、出現順序のIIからIVの間での変化は小さい。III軸のスコアを見ると、4つのクラスターの中で最も低くなっている。この結果から見ると、出現順序のIでは主観的な評価をあまり含まず、自己を指向する傾向が若干見られるが、それ以外ではそのような傾向がないことを示唆している。また、III軸のスコアが低いことから、このクラスターには年少者が多く含まれると予想される。

クラスターCは、I軸とII軸のスコアが高く、III軸ではほぼ中央に位置している。出現順序による変化を見ると、IとIIの間でI軸のスコアが上昇する以外はあまり変化がない。これは、このクラスターの被験者の回答が、全般に主観的な解釈や評価を含み、自己を指向したものであることを示唆している。このクラスターの被験者は、おそらく性格についての記述を多くしているものと思われる。

クラスターDは、I軸ではほぼ中央に位置しているが、II軸のスコアは4つのクラスターの中で最も低く、III軸は最も高い。出現順序のIとIIの間でI軸のスコアが大きく上昇しており、II~IVでII軸の上昇が見られる。この結果から、このクラスターの被験者が外的な事象を指向した回答を多くしており、高齢者の割合が高いと考えられる。

**【各クラスターの小項目反応頻度】**

クラスターの特徴をより具体的に知るために、小項目の言及率をクラスター・出現順序別に見る

ことにした。言及率とは、該当する小項目に対する反応を1回以上している被験者の割合である。ここでは、クラスター・出現順序ごとに、言及率の高い10の小項目を挙げることにした。

クラスターAで言及率の高い小項目を出現順序別に挙げたものが、表2-6である。出現順序のIを見ると、〈生物学的・文化的規定〉の言及率が

**表 2-6 クラスター A で言及率の高い小項目**

| 出現順序 | 順位 | 小項目名       | 言及率  |
|------|----|------------|------|
| I    | 1  | 生物学的・文化的規定 | 70.2 |
|      | 2  | 性別         | 49.6 |
|      | 3  | 名前         | 35.9 |
|      | 4  | 学校         | 35.0 |
|      | 5  | 人種・国籍      | 29.6 |
|      | 6  | 年令・世代      | 17.7 |
|      | 7  | 家庭内の役割     | 10.0 |
|      | 8  | 住所         | 9.0  |
|      | 9  | 私は私        | 8.7  |
|      | 10 | 無効回答       | 4.9  |
| II   | 1  | 学校         | 32.6 |
|      | 2  | 生物学的・文化的規定 | 30.8 |
|      | 3  | 人種・国籍      | 25.3 |
|      | 4  | 年令・世代      | 23.0 |
|      | 5  | 性別         | 17.2 |
|      | 6  | 住所         | 16.5 |
|      | 7  | 家庭内の役割     | 15.4 |
|      | 8  | 名前         | 13.0 |
|      | 9  | 容姿・体格      | 9.0  |
|      | 10 | 無効回答       | 7.6  |
| III  | 1  | 学校         | 29.7 |
|      | 2  | 年令・世代      | 23.0 |
|      | 3  | 生物学的・文化的規定 | 22.6 |
|      | 4  | 家庭内の役割     | 15.5 |
|      | 5  | 住所         | 14.0 |
|      | 6  | 人種・国籍      | 13.8 |
|      | 7  | 容姿・体格      | 12.8 |
|      | 8  | 無効回答       | 9.4  |
|      | 9  | 名前         | 8.5  |
|      | 10 | 好み         | 8.2  |
| IV   | 1  | 学校         | 22.7 |
|      | 2  | 生物学的・文化的規定 | 20.7 |
|      | 3  | 年令・世代      | 14.3 |
|      | 4  | 容姿・体格      | 13.8 |
|      | 5  | 好み         | 12.2 |
|      | 6  | 住所         | 11.6 |
|      | 7  | 無効回答       | 11.4 |
|      | 8  | 家庭内の役割     | 11.2 |
|      | 9  | 人種・国籍      | 10.1 |
|      | 10 | 生年月日       | 7.3  |
|      |    | 健康・体質      | 7.3  |

高く、70.2%となっている。この小項目には、「人間」「ヒト」「生物」といった反応が分類され、クラスターAの被験者の7割が、第5答までにこのような反応をしていることになる。出現順序のIIからIVでは〈学校〉の言及率が最も高くなっているが、これには、学校生活に関する記述、例えば、「学生」「学校名」「学年」などが分類される。

表 2-7 クラスター B で言及率の高い小項目

| 出現順序 | 順位 | 小項目名       | 言及率  |
|------|----|------------|------|
| I    | 1  | 性別         | 42.1 |
|      | 2  | 学校         | 35.1 |
|      | 3  | 生物学的・文化的規定 | 23.1 |
|      | 4  | 容姿・体格      | 21.0 |
|      | 5  | 年令・世代      | 18.7 |
|      | 6  | 名前         | 18.0 |
|      | 7  | 好み         | 17.0 |
|      | 8  | スポーツへの指向   | 16.6 |
|      | 9  | 家庭内の役割     | 13.8 |
|      | 10 | 人種・国籍      | 13.7 |
| II   | 1  | 好み         | 33.8 |
|      | 2  | 容姿・体格      | 25.0 |
|      | 3  | スポーツへの指向   | 18.9 |
|      | 4  | 趣味         | 17.8 |
|      | 5  | 理論指向       | 15.7 |
|      | 6  | 学校         | 15.3 |
|      | 7  | 飲食への指向     | 14.9 |
|      | 8  | 日課・習慣      | 14.1 |
|      | 9  | 現在の気分・状態   | 14.0 |
|      | 10 | 健康・体質      | 13.3 |
| III  | 1  | 好み         | 42.8 |
|      | 2  | 容姿・体格      | 22.0 |
|      | 3  | 趣味         | 20.0 |
|      | 4  | 飲食への指向     | 19.0 |
|      | 5  | 現在の気分・状態   | 17.9 |
|      | 6  | スポーツへの指向   | 17.2 |
|      | 7  | 健康・体質      | 16.5 |
|      | 8  | 理論指向       | 14.4 |
|      | 9  | 日課・習慣      | 14.3 |
|      | 10 | 身体的能力      | 13.9 |
| IV   | 1  | 好み         | 41.4 |
|      | 2  | 容姿・体格      | 21.2 |
|      | 3  | 現在の気分・状態   | 19.9 |
|      | 4  | 飲食への指向     | 16.2 |
|      | 5  | 趣味         | 15.7 |
|      | 6  | 健康・体質      | 15.7 |
|      | 7  | 日課・習慣      | 15.6 |
|      | 8  | 理論指向       | 13.9 |
|      | 9  | スポーツへの指向   | 13.3 |
|      | 10 | 身体的能力      | 12.1 |

全体的に見ても、〈性別〉〈名前〉〈人種・国籍〉などの基本属性についての記述が多い。一方、IIIやIVでは、主観的な評価を含んだ〈好み〉も現れている。

表 2-7 のクラスター B を見ると、I では基本属性についての記述が多いが、II 以降では〈好み〉〈趣味〉〈スポーツへの指向〉〈飲食への指向〉

表 2-8 クラスター C で言及率の高い小項目

| 出現順序 | 順位     | 小項目名       | 言及率  |
|------|--------|------------|------|
| I    | 1      | 性別         | 28.7 |
|      | 2      | 学校         | 19.5 |
|      | 3      | 職場・職業      | 14.5 |
|      | 4      | 生物学的・文化的規定 | 14.4 |
|      | 5      | 家庭内の役割     | 13.5 |
|      | 6      | 好み         | 11.4 |
|      | 7      | 年令・世代      | 11.0 |
|      | 8      | 容姿・体格      | 9.7  |
|      | 9      | まじめ・誠実     | 9.0  |
|      | 10     | 明るい        | 8.4  |
| II   | 1      | 好み         | 14.8 |
|      | 2      | 趣味         | 10.8 |
|      | 3      | まじめ・誠実     | 9.8  |
|      | 4      | 自己中心的      | 9.2  |
|      | 5      | 悲観的        | 8.8  |
|      | 6      | 現在の気分・状態   | 8.7  |
|      | 7      | スポーツへの指向   | 8.2  |
|      | 8      | 同調的        | 7.4  |
|      | 9      | 容姿・体格      | 6.9  |
|      | 10     | ものぐさ       | 6.8  |
| III  | 1      | 好み         | 20.4 |
|      | 2      | 悲観的        | 8.8  |
|      | 3      | 現在の気分・状態   | 8.6  |
|      | 4      | まじめ・誠実     | 8.5  |
|      | 5      | 気が小さい      | 8.1  |
|      | 6      | 飲食への指向     | 7.9  |
|      | 7      | 容姿・体格      | 7.8  |
|      | 8      | 自己中心的      | 7.5  |
|      | 9      | 適応力がある     | 7.2  |
|      | 10     | 几帳面        | 6.8  |
| IV   | 1      | 好み         | 19.4 |
|      | 2      | 現在の気分・状態   | 9.2  |
|      | 3      | 趣味         | 9.0  |
|      | 4      | まじめ・誠実     | 8.8  |
|      | 5      | 健康・体質      | 7.6  |
|      | 6      | 悲観的        | 7.4  |
|      | 7      | 容姿・体格      | 7.2  |
|      | 8      | 身体的能力      | 6.8  |
| 8    | 自己中心的  | 6.8        |      |
| 8    | 依存心が強い | 6.8        |      |

といった趣味や好みに関する小項目が多く含まれている。特に〈好み〉は、III と IV において40%以上の言及率がある。また、身体や日常生活に関する小項目も多く含まれている。全体的に見ると、I では基本属性、II 以降では身辺的な記述が多いと言える。

表 2-8 を見ると、クラスター C で言及率の高

表 2-9 クラスター D で言及率の高い小項目

| 出現順序 | 順位 | 小項目名      | 言及率  |
|------|----|-----------|------|
| I    | 1  | 職場・職業     | 35.9 |
|      | 2  | 家庭内の役割    | 32.5 |
|      | 3  | 性別        | 31.3 |
|      | 4  | 子供        | 22.4 |
|      | 5  | 年令・世代     | 16.8 |
|      | 6  | 配偶者       | 12.5 |
|      | 7  | 出身・育ち     | 11.5 |
|      | 8  | 現在の気分・状態  | 9.9  |
|      | 9  | 人種・国籍     | 9.0  |
|      | 9  | 過去についての記述 | 9.0  |
| II   | 1  | 職場・職業     | 22.9 |
|      | 2  | 現在の気分・状態  | 20.1 |
|      | 3  | 子供        | 18.4 |
|      | 4  | 趣味        | 16.8 |
|      | 5  | 好み        | 14.1 |
|      | 6  | 過去についての記述 | 11.6 |
|      | 7  | 配偶者       | 11.1 |
|      | 8  | 家庭内の役割    | 10.4 |
|      | 9  | 健康・体質     | 10.1 |
|      | 10 | スポーツへの指向  | 9.2  |
| III  | 1  | 現在の気分・状態  | 26.6 |
|      | 2  | 職場・職業     | 17.2 |
|      | 3  | 子供        | 15.8 |
|      | 4  | 好み        | 15.3 |
|      | 5  | 趣味        | 15.1 |
|      | 6  | 健康・体質     | 12.0 |
|      | 7  | 生活目標・心掛け  | 10.9 |
|      | 8  | 家庭内の役割    | 10.1 |
|      | 9  | 飲食への指向    | 9.7  |
|      | 10 | 配偶者       | 9.0  |
|      | 10 | スポーツへの指向  | 9.0  |
| IV   | 1  | 現在の気分・状態  | 24.7 |
|      | 2  | 好み        | 16.5 |
|      | 3  | 生活目標・心掛け  | 15.8 |
|      | 4  | 職場・職業     | 15.3 |
|      | 5  | 子供        | 13.5 |
|      | 6  | 飲食への指向    | 12.2 |
|      | 7  | 健康・体質     | 12.0 |
|      | 8  | 趣味        | 11.6 |
|      | 9  | 将来        | 11.1 |
|      | 10 | 社会指向      | 9.9  |

い小項目には、くまじめ・誠実〈明るい〉〈自己中心的〉〈気が小さい〉などの性格に関する小項目が多く含まれている。I では、基本属性が上位にきているが、II 以降では、性格が多く、それ以外では趣味・好みや身体に関する小項目も含まれている。

表 2-9 のクラスター D で言及率の高い小項目を見ると、全体的にクラスター B と類似している。ただし、〈学校〉は含まれておらず、それに代わって〈職場・職業〉の言及率が高くなっている。また、「父」「長男」「主婦」といった記述が分類される〈家庭内の役割〉や〈子供〉〈配偶者〉といった家族・家庭に関する小項目が挙げられている。その他に〈出身・育ち〉〈過去に関する記述〉〈生活目標・心掛け〉〈将来〉〈社会指向〉は、他のクラスターでは挙げられていない小項目である。

[クラスターと年齢・性別との関係]

最後に、クラスターと年齢・性別の関係を見ることにする。まず、図 2-7 は、各クラスターの構成比を男女別に示したものである。クラスター A の割合は女性よりも男性で高く、クラスター B の割合は女性で高い。しかし、クラスター C と D はほとんど男女差が認められない。

それに対し図 2-8 は、各クラスターの構成比を年齢別に示したものであるが、クラスター構成比



図 2-7 男女別に見たクラスター構成比

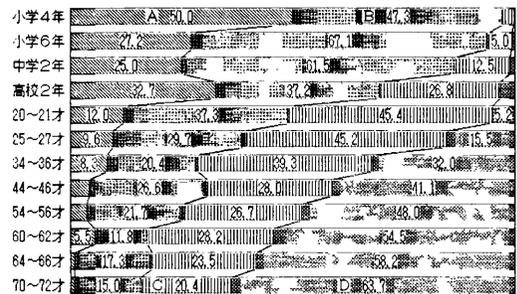


図 2-8 年齢別に見たクラスター構成比

が年齢によって大きく異なることがわかる。クラスターAは年少者で多く、小学校4年では半数を占めているが、25才以上では10%以下となっている。クラスターBは、サンプル・スコアの布置から予測された通り、年少者で多く、特に小学校6年と中学2年において高い割合を占めている。ただし、60才以上でも10%以上となっている。クラスターCは、全年齢を通して比較的安定しているが、年少者では少ない。クラスターDは、年齢の上昇とともに割合が増えており、60才以上では50%を超えている。それに対し20代前半以下では、10%以下となっている。

このように、クラスター構成比の性差と年齢差を比較すると、年齢差の方が顕著であることがわかる。サンプル・スコアの分散分析でも年齢の効果の方が大きく(表2-4参照)、WAI反応には、発達的な変化が反映されていることが示唆されている。

#### 4. 考察

##### 〔出現順序と内容〕

今回の分析結果を見ると、WAI反応の内容は、出現順序と明かに関連を持っていると言える。特に、数量化III類で得られたI軸は出現順序と明確に関連している。この軸で上位に位置づけられた基準書の小項目を見ると、いわゆる性格に関する記述が最も高く、次いで、希望・願望、好み関心といった指向的な側面についての記述が続く。一方、下位を見ると、名前、国籍、性別、年齢といった基本属性や実存的記述、次いで、家族、職場、サークルなどの所属団体が続く。下位のものは、客観的な事実として受け入れられる記述であるのに対し、上位のものは、広い意味での自己評価や内面的な事象についての記述である。そのため、われわれは、この次元を「記述の主観性」と解釈した。

ところで、この章の初めて触れたKuhnとMcPartland(1954)のconsensual-subconsensualな言及という分類は、ここで得られた「記述の主観性」の軸と内容的に類似している。consensualな言及は、他者からも常識的に認められ

るような属性についての記述であり、subconsensualな言及は、反応者の解釈や評価を含む記述ということになっている。従って、「記述の主観性」の弱い記述はconsensualな言及であり、「記述の主観性」の強い記述はsubconsensualな言及と言える。そして、分析結果を見ると、WAI反応は、後ろの回答ほど「記述の主観性」が強くなることが示されており、consensualな言及の後にsubconsensualな言及が現れるというKuhnらの主張ともほぼ一致している。そういう意味では、今回の分析結果は、Kuhnらが演繹的に導きだした仮説を帰納的な手続きによって実証したものとも言えるであろう。

しかし、分析結果にはそれ以上の成果も含まれている。その1つは、彼らが各回答をconsensual-subconsensualの2つに分類したのに対し、われわれは「記述の主観性」という次元上での相対的な変化を分析した点にある。つまり、「記述の主観性」は、「客観的一主観的」という2つのカテゴリーとしてではなく、「主観性の強さ」という特性として扱われている。そのため、個人内における回答内容の変化を相対的に捉えることが可能となった。分析結果では、クラスターAの被験者の第16~20答は、平均的に言えば、第1~5答に比べれば主観性の強いものであるが、クラスターCの被験者の第1~5答に比べれば主観性が弱い。これは、各個人内において後ろの回答が初めの回答よりも強い主観性を持つことを示唆しているが、後ろの回答が一般的な意味で主観的なものであることを必ずしも意味しない。あくまでも、個人内における相対的な変化として、主観性が増すということである。実際、クラスターAの第16~20答の内容を見ると、主観的なものとは見えないが、第1~5答と平均的に比較すれば、主観性が強いと言える。このように、出現順序によって回答内容の主観性が増すという変化は、各個人によって相対的なものと見るべきであろう。

もう1つの成果は、「自己一外的対象」という出現順序と関連する別の次元が発見されたことである。この次元における変化は、「記述の主観性」と比較すると出現順序との関連が弱く、また、すべての被験者において同様に現れるものではない。

しかし、クラスターCの被験者を除いて、第6答以降では、第5答までと比べて外的な対象を指向する傾向が強くなっている。これも個人内において相対的なもので、出現順序との関連が最も強いクラスターAの被験者においても、第16～20答は、クラスターDの第1～5答に比べて自己を指向する傾向が強い。しかし、クラスターAの被験者の終わりの回答は、初めの回答よりも、外に向けられた意識を反映する傾向があるとは言えるであろう。

ところで、ここで重要なことはクラスターCの存在である。このクラスターにおいては、出現順序と「自己一外的対象」の次元との間にほとんど関連が認められない。つまり、回答の内容と出現順序との関連の仕方には多様性があり、ほぼすべての個人に当てはまるものや、一部の個人に当てはまるものがあり、そしておそらく、各個人に固有のものもあると考えるべきであろう。WAI技法から個人を分析する際には、その個人の持つ固有性にも十分配慮することが必要となるであろう。

### 【WAI 反応時の心理過程】

今回の分析においては、出現順序と回答内容の関連について、いくつかの知見を得ることができた。出現順序には、WAI技法に反応している個人の時系列的な変化が刻まれている。もちろん、WAI反応にその時点の個人の意識のすべてが反映されているわけではないが、回答内容から窺い知ることができる部分もある。そこで、出現順序と回答内容との関連から、WAI技法に反応している時の心理過程について考察を加えることにする。

分析の結果、出現順序と最も明確な関連を示したのは「記述の主観性」である。WAIの回答は、終わりに近づくに従って、より主観的なものになる傾向がある。つまり、回答の初期において被験者は、自分にとって、他人からも疑いようなない属性、いわば“履歴書”的な記述を反応し、その後、自分自身に対する評価や解釈を含んだ、自己評価、性格、指向・願望などについての記述をしている。

ところで、WAI技法は、「私は誰でしょう？」という問に対する回答を記述するものであるが、この問に対する回答と厳密には言えない回答が含まれていることがある。例えば、「私は音楽が好きです」という回答は、「私は何が好きでしょう？」という問に対する回答ではあるが、「私は誰でしょう？」という問に対しては厳密な意味での回答と言えない。しかし、このような回答も「私は誰でしょう？」という問に対して間接的には意味を持っている。そして、これはあくまでも仮説に過ぎないが、この“間接性”は、被験者が1答ずつ回答を記入していくうちに、問自体が少しずつ変容するために生ずると考えられる。被験者は、初めは「私は誰でしょう？」という問に回答しているが、それ以上回答を思いつかなくなると、自らこの問を変容させて新たな問を生み出し、その問に対しての回答を記入していく。つまり、被験者の内部では、問を作りだしてはそれに回答するという、対話的なプロセスが存在しているという仮説が考えられる。

このような過程を想定した場合、出現順序による回答内容の変化は、自問する問の変容の結果と見ることができる。そこで「記述の主観性」の問題を問の側から考えてみると、客観的で主観性の弱い、名前、「人間」、性別といった回答は、「私は誰でしょう？」あるいは「私は何者か？」という包括的な問に対する直接的な回答と見てよいであろう。それに対して主観性の強い性格や指向に対応する問は、「私はどのような性質を持っているのか？」「私にとって大事なものは何か？」「私は何がしたいのか？」などのように、自己の特定の側面だけに焦点を当てた、ある意味で限定的な問に対する回答と見ることができる。つまり、回答の初めには包括的な自己規定が為され、その後、部分的な自己規定が為される。そして、包括的に自己を規定する場合には客観的な属性が用いられるが、自己の細部に目を向けると、より主観的な解釈や評価を含む記述となる。

自己の細部に注目すると記述の主観性が増すのは、自己の細部について知り得る人間が、多くの場合、自分自身だけであることを考えれば理解できる。逆に言えば、自分自身を主体的に解釈し、

評価することによって、自己の細部が形成されていくということになる。このように考えれば、形成された自己の細部が主観性を帯びていても不思議はない。分析結果を見ると、「記述の主観性」は年齢とも関連しており、特に小学校4年から成人までの変化を見ると、明確な上昇傾向を示している。また、この時期の WAI 反応の発達的变化としては、反応内容の多様性が増すことが確認されており（岩熊・楨田，1991b）、自我・自己は発達とともに分化していくと見られる。つまり、自我・

自己の発達過程において、分化と主観性の増加が同時に進行しており、自己の形成は主体的な自己評価や自己解釈に基づいていると考えることも可能であろう。

被験者の中には、一番初めの回答から指向や性格などの主観性を帯びた記述をする者もあり、上記のような心理過程をすべての被験者に想定することはできない。いずれにしても、自我・自己を理解する上では、このような主体的な側面を十分考慮していくことが必要と思われる。

# 3

## 「自分らしい」回答の分析

|       |    |
|-------|----|
| 1. 目的 | 25 |
| 2. 方法 | 27 |
| 3. 結果 | 28 |
| 4. 考察 | 34 |

### 1. 目的

WAI 技法において被験者は、「私は誰でしょう?」という問に対する 20 通りの回答を記述する。これらの回答はすべて、被験者の“私”を表現したものであり、被験者の self-image ということができる。しかし、各回答の内容はそれぞれ異なり、各被験者によってどのように意味づけられているかも、回答によって異なる。各回答は、例えば、「自分にとって重要である」とか、「自分の長所である」といった、様々な意味づけが為されている。このような意味づけを知る 1 つの手がかりとして、われわれは、WAI 技法の施行の際に「特に自分らしいと思う回答」の番号に○を付けるよう指示している。本章では、この“自分らしい”回答に焦点をあてて分析を行なう。

われわれが“自分らしさ”に注目したのは、これが自己あるいは自我を理解する上での重要な手がかりになると考えたからである。WAI 技法で得られる反応は、被験者が自分自身を記述したものであり、そういう意味では、すべてが“自分らしい”回答ということができる。しかし、1 人の

被験者においても 20 の回答内容は多様であり、それらすべてが全く同等に“自分らしい”ものであると考えるよりは、それらの間に微妙な意味づけの違いがあると考えべきであろう。そして、この中で特に“自分らしい”回答を見ることによって、self-image の核となるものを知ることができる。self-image は、主観的に構成された自我・自己の姿と見ることもできる。従って、self-image の核となるものを知ることによって、何が各個人の自我・自己の中心となっているかについての知見を得ることができると考えられる。

ところで、被験者の各回答に対する様々な意味づけは、WAI 技法あるいは 20 答法 (TST: Twenty Statements Test) を用いた研究において、回答の心理的負荷として分析されてきた。例えば、西村・星野 (1964) は、中学 3 年生の女子 20 名に 20 答法を施行し、各回答について適合性 (自分にぴったりしているかどうか)、重要性 (たいてつかどうか)、好悪カセクシス (気に入っているかどうか) を評定させている。彼らは、回答内容を 7 つのカテゴリーで分類し、心理的負荷との関連を見ている。その結果を見ると、適合性では「家族家庭」が最も高く、「特性」が最も低くな

っている。重要性は、「生活哲学」と「家族家庭」が高く、「特性」が低い。好悪カセススは、「家族家庭」が最も肯定的で、「特性」が最も否定的である。このように「家族家庭」に対して肯定的な心理的負荷が強く、「特性」に対しては否定的な心理的負荷が認められる。ここでは、自分らしさは特に問題とされていないが、少なくとも中学3年生の self-image においては、家族や家庭が大きな意味を持つことを示唆している。

また、Gordon (1968) は、大学生 53 名の被験者に 20 答法を施行し、各回答の重要度を評定させている。彼は 30 項目のカテゴリーで回答内容を分類し、その中でも「判断・好み」「能力」「他者に対する判断」「職業的役割」「人種・国籍」の重要性が高いことを見出している。この結果から彼は、被験者が自分の過去、現在、未来の行為の経過を意味づけ、理解しやすいものとするものに高い重要度を与えると述べている。分類カテゴリーが異なるため、西村・星野 (1964) の結果と直接比較することはできないが、Gordon (1968) の「判断・好み」は西村・星野 (1964) の「生活哲学」と重なる部分が多い。これは、態度的な側面が self-image の中で重要性を持つことを示唆していると言えるであろう。

“自分らしさ”を扱ったものとしては、高垣 (1974) の研究が挙げられる。彼は、女子の音大生 100 名に 20 答法を施行し、20 の回答の中から、それをとってしまうと「自分らしさ」あるいは「自分のイメージ」が崩れてしまう回答と、それをとっても「自分らしさ」あるいは「自分のイメージ」に大した変化を生じない回答を挙げさせている。回答内容を 39 項目のカテゴリーに分類して分析を行なった結果、「自分らしさ」が崩れてしまうとされる割合が最も高かったのは「姓名」で、その割合はこのカテゴリーに分類された反応の 48.0% であった。その他に割合の高いものとしては、「主義、意見、その他」(42.1%)、「対人態度」(41.3%) がある。一方、大した変化を生じないとされる割合が最も高いのは、「出身地、住所」(52.6%) であった。「自分らしさ」を維持するために不可欠とされた「姓名」「主義、意見、その他」「対人態度」は、相互にかなり異質のカテゴリ

ーのように見える。そのため、これらに共通する特徴は見出しにくい。

上記3つの研究は方法や被験者も異なり、また、得られた結果にも部分的に類似する点はあるけれども、明確な共通点は見出せない。しかし、そのことから、分析を進める上で解決すべき問題点を理解することができる。その1つは、個人差を考慮する必要性があることである。これらの研究では、比較的少数の同質的と見られる被験者を用いており、個人差については詳細に分析されていない。これらの研究間に明確な共通点が見出されない1つの原因は、おそらく被験者の属性(国籍、年齢、性別など)による違いがあるためであろう。また、同質的と見られる被験者群においても、反応内容の分類結果を見るとかなりの多様性があり、このような属性以外にも大きな個人差があることが示唆されている。従って、なるべく多様な被験者を用い、個人差を前提とした分析を行なう必要がある。

もう1つの点は、内容の分類カテゴリーの問題である。上記3つの研究では、それぞれ異なる分類カテゴリーが用いられており、カテゴリー数も異なっている。自由回答法の分析一般に言えることであるが、カテゴリー数が少ないと、異なる内容の反応が混同されて分析される可能性が高くなる。これは、結果を曖昧にしたり、研究間での結果の比較を困難にする原因ともなりうる。これを回避するためには、なるべく詳細な反応カテゴリーを用いる必要がある。一方、反応カテゴリーが細くなることによって、分析結果が煩雑になり、全体的な傾向が見えなくなる可能性も出てくる。この相異なる2つの要求をどのように解決するかが問題と言えるであろう。

さらに、WAI 技法の心理的負荷については、データを分析する上で大きな問題を含んでいる。それは、各被験者の言及した記述以外には心理的負荷のデータが得られないと言うことである。例えば、氏名の記述に対する心理的負荷に注目した場合、被験者全体ではなく、氏名を記述した者のみが分析の対象となる。結果的には、言及する被験者の少ない記述については、心理的負荷を分析することが不可能となり、かなり一般的に現れる

記述のみが分析対象となる。しかし、考えてみれば、被験者の“自分らしさ”は、まず、彼がどのような記述をするかに現れているはずである。従って、“何を記述しているか”ということと“それに対してどのような心理的負荷があるか”ということとを結び付けて分析を進める必要がある。

以上のような問題点を考慮した上で分析の方法を検討すると、まず、被験者はなるべく多数の多様な被験者を分析対象とする必要がある。幸いわれわれは、約 10 年にわたって WAI 反応の収集を行っており、この問題は解決することができる。反応カテゴリーについても、前章でも示したように、「最終版基準書」が得られている。これは、反応の内容分析を通じて帰納的に作成された反応カテゴリーで、168 の項目から成っている。最終版基準書は項目数が多いため詳細な分析を可能とするが、分析結果が煩雑になる恐れがある。そこで、多変量解析技法を用いて、言及内容と心理的負荷との関係を体系的に分析することにした。具体的には、各被験者の回答を最終版基準書によって分類し、その反応パターンを数量化 III 類によって分析する。その際、自分らしい回答として○を付けられたものとそれ以外を分離することによって、自分らしさと回答内容の関係も明かになる。数量化 III 類を用いる利点は、反応カテゴリーだけでなく、被験者の個人差も体系的に扱うことができる点である。数量化 III 類の結果に基づいて被験者を分類することによって、自分らしさに関する個人差も明確になるものと思われる。

## 2. 方法

### [被験者]

第 2 章で分析に用いた 3,992 名の被験者のうち、「特に自分らしいと思われる答えの番号を○で囲んでください」という指示に従って○を付けている者を分析対象とした。従って、○を1つも付けていない者と全ての回答に○を付けている者は分析から除外した。最終的に 3,383 名が分析対象となったが、その性・年齢別の内訳は表 3-1 の通りである。

表 3-1 性・年齢別の被験者数

| 年齢      | 男性    | 女性    | 計     |
|---------|-------|-------|-------|
| 小学校 4 年 | 224   | 212   | 436   |
| 小学校 6 年 | 243   | 229   | 472   |
| 中学校 2 年 | 219   | 257   | 476   |
| 高校 2 年  | 200   | 199   | 399   |
| 20～21 才 | 203   | 220   | 423   |
| 25～27 才 | 203   | 218   | 421   |
| 34～36 才 | 95    | 77    | 172   |
| 44～46 才 | 91    | 82    | 173   |
| 54～56 才 | 97    | 92    | 189   |
| 60～62 才 | 32    | 53    | 85    |
| 64～66 才 | 34    | 38    | 72    |
| 70～72 才 | 32    | 33    | 65    |
| 計       | 1,673 | 1,710 | 3,383 |

### [分析手続き]

**基準書による反応の分類評定:** 基準書による分類評定のデータは、第 2 章の出現順序の分析の際に大型計算機に入力されたものをそのまま用いた。最終版基準書の概要と評価手続きについては第 2 章を参照されたい。

**数量化 III 類による反応パターンの分析:** 168 の小項目のうち、大項目《その他》の 3 項目と小項目〈無回答〉を除いた 164 項目に対する反応パターンを数量化 III 類で分析した。その際、各被験者の回答を、自分らしさの○を付けられた回答と付けられていない回答に分け、それぞれの反応パターンを算出した。そして、それぞれの反応パターンを独立したサンプルとして数量化 III 類で分析した。そのためサンプル数は被験者数の 2 倍の 6,766 となる。

数量化 III 類の結果については、カテゴリー・ウェイトに基づき小項目を布置し、各次元の解釈を行なった。さらに、各次元のサンプル・スコアに対し、自分らしさの○の有無、性別、年齢を要因とした分散分析が行なわれた。

**サンプル・スコアに基づく被験者の分類:** 数量化 III 類で得られたサンプル・スコアに基づいて、非階層クラスター分析 (SAS FASTCLUS)

によって、被験者の分類を行なった。各被験者に対しては、自分らしさの○の有無ごとにサンプル・スコアが与えられているため、これを被験者単位に併合してクラスター分析が行なわれた。

各クラスターの特徴を理解するために、まず、クラスター別のサンプル・スコアの平均値が分析された。また、各小項目の反応頻度と○の付く割合をクラスターごとに算出した。最後に、クラスターと性・年齢との関係を分析した。

### 3. 結果

#### [数量化 III 類で得られた軸の解釈]

数量化 III 類では、基準書の 164 の小項目に対する、自分らしさの○の有無別の反応パターンが分析された。その結果得られた軸のうち、固有値の高い 3 つの軸をその後の分析に用いることにした。各軸の固有値は、I 軸が .431, II 軸が .314, III 軸が .273 であった。

表 3-2 は、各軸で高いカテゴリー・ウェイトを得た小項目を示したものである。I 軸を見ると、プラスの 10 項目はほとんど性格についての項目で占められている。一方、マイナスには〈名前〉〈人種・国籍〉などの基本属性に関する項目が多い。II 軸のプラスの 10 項目には、〈私は私〉〈私

は誰〉などの実存的な記述と性格に関する項目で占められ、マイナスには、家族に関する記述が多く含まれている。I 軸と II 軸で小項目を布置すると図 3-1 のようになる。この布置を見ると前章の図 2-1 と類似していることがわかる。従って、前章と同様に、I 軸は「記述の主観性」、II 軸は「自己-外的対象」の軸と解釈した。III 軸についても、小項目の布置が前章の分析結果と類似しており、「加齢」と関連する軸と判断した。

#### [サンプル・スコアの分散分析]

次に、数量化 III 類で得られた各軸のサンプル・スコアを従属変数として、性、年齢、自分らしさの○の有無を要因とした分散分析を行なった。その結果をまとめたものが表 3-3 である。まず I 軸を見ると、すべての要因の主効果および性別×年齢と年齢×自分らしさの交互作用が 0.1% 水準で有意となっている。特に、年齢と自分らしさの主効果が顕著である。I 軸のサンプル・スコアの平均をグラフ化すると図 3-2 のようになる。これを見ると、小学 4 年から 20 才にかけてサンプル・スコアの急激な上昇が認められる。また、中学 2 年以上では男女共に自分らしい回答がそれ以外の回答より高いスコアを得ている。これは、児童期から青年期にかけて self-image が主

表 3-2 数量化 III 類で高いカテゴリー・ウェイトを得た小項目

| 正負<br>順位 | I 軸 ( $\eta^2 = .431$ ) |        | II 軸 ( $\eta^2 = .314$ ) |        | III 軸 ( $\eta^2 = .273$ ) |        |
|----------|-------------------------|--------|--------------------------|--------|---------------------------|--------|
|          | 小項目名                    | weight | 小項目名                     | weight | 小項目名                      | weight |
| + 1      | 野心的                     | 2.134  | 私は私                      | 3.408  | 孫                         | 4.184  |
| 2        | ひがみっぽい                  | 2.060  | 私は誰                      | 3.275  | 私は誰                       | 3.703  |
| 3        | 自信家                     | 1.960  | 隠喩的な表現                   | 3.053  | 隠喩的な表現                    | 3.424  |
| 4        | 率直                      | 1.957  | 実存的記述                    | 2.286  | 配偶者                       | 3.398  |
| 5        | 強情・頑固                   | 1.940  | 生意気                      | 2.162  | 私は幸福                      | 2.988  |
| 6        | 責任感がある                  | 1.879  | あまのじゃく                   | 1.887  | 私は私                       | 2.978  |
| 7        | 慎重                      | 1.865  | 気分屋                      | 1.661  | 子供                        | 2.795  |
| 8        | 悲観的                     | 1.851  | 無神経                      | 1.612  | 年齢に対する意識                  | 2.686  |
| 9        | 意志が強い                   | 1.846  | 自己に対する興味                 | 1.589  | 親戚・親族                     | 2.563  |
| 10       | せっかち                    | 1.832  | ひがみっぽい                   | 1.584  | 自分に満足                     | 2.543  |
| - 1      | 名前                      | -1.849 | 孫                        | -3.663 | 生意気                       | -1.613 |
| 2        | ニックネーム                  | -1.801 | 配偶者                      | -2.770 | 個別の能力がある                  | -1.585 |
| 3        | 私は私                     | -1.698 | 親戚・親族                    | -2.465 | 個別の能力がない                  | -1.561 |
| 4        | 生物学的・文化的規定              | -1.616 | 年齢に対する意識                 | -2.362 | にぎやか                      | -1.468 |
| 5        | 祖父母                     | -1.603 | 健康に対する意識                 | -2.329 | 理論指向                      | -1.347 |
| 6        | 人種・国籍                   | -1.496 | 子供                       | -2.242 | おつちよこちよい                  | -1.319 |
| 7        | 住所                      | -1.414 | 資格・免許                    | -1.827 | 身体的能力                     | -1.282 |
| 8        | 生年月日                    | -1.381 | 学歴・職歴                    | -1.631 | ニックネーム                    | -1.277 |
| 9        | 年齢・世代                   | -1.322 | 暮らし方                     | -1.609 | 頭が悪い                      | -1.275 |
| 10       | 父親                      | -1.281 | 過去についての記述                | -1.585 | 一般的な能力がない                 | -1.239 |

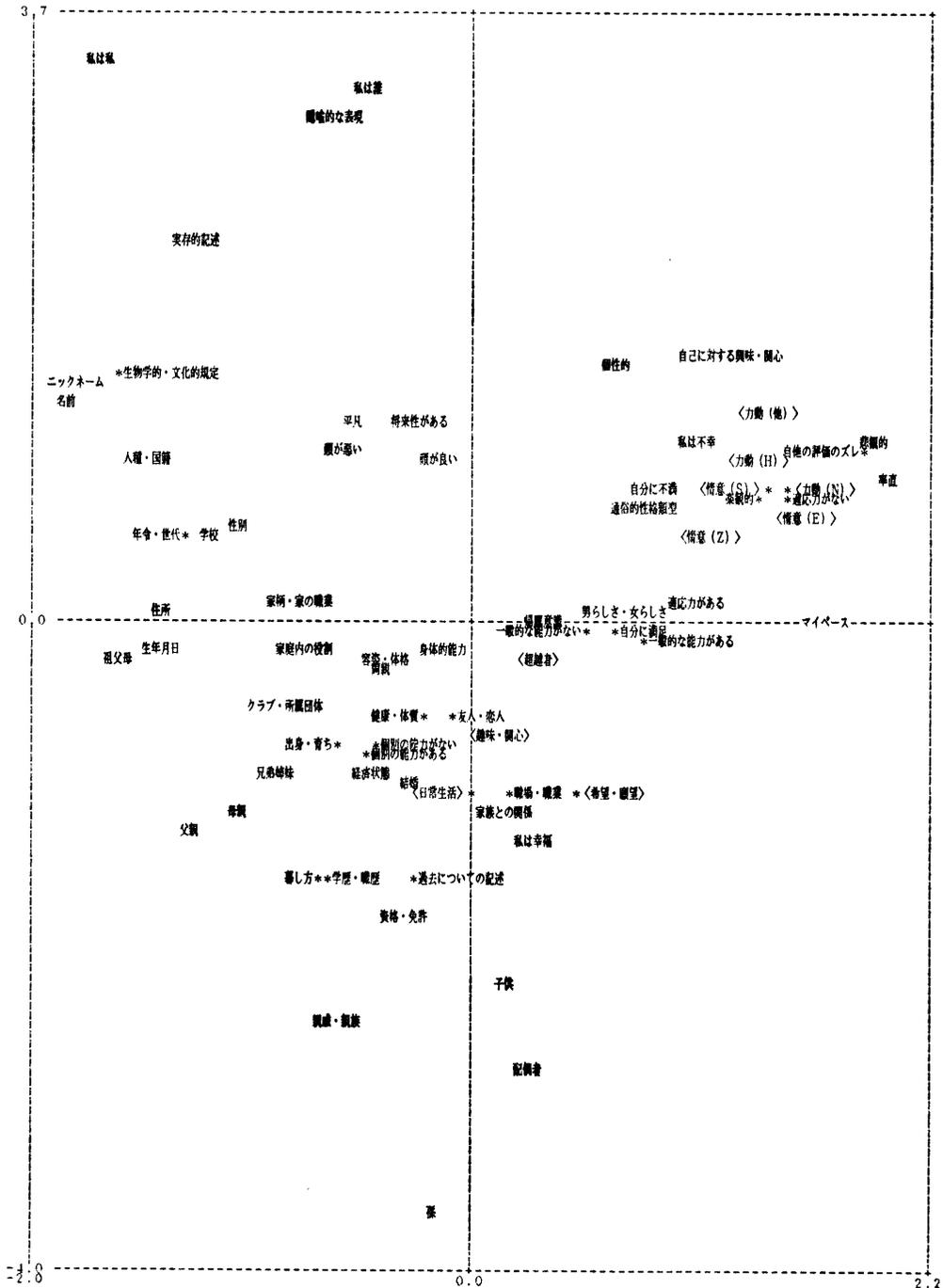


図 3-1 数量化 III 類による小項目の布置 (I 軸 [横軸]×II 軸 [縦軸])  
 “\*” が付けられているものは、その位置が小項目の位置を示す。それ以外は、小項目の中央で布置されている。“< >” 内に示されているのは、意味の類似した小項目をまとめたもので、そこに含まれた小項目の重心によって布置されている。

観性を帯びるようになり、また、児童期を除いて自分らしい回答がより強い主観性を帯びていることを示している。

II 軸の分散分析の結果では、傾向としては I 軸と類似しているが、全体的に  $F$  値は小さくなっている。図 3-3 を見ると、高校 2 年から 70 才にかけて緩やかなスコアの上昇傾向が認められ、また、中学 2 年以上では自分らしい回答がより高

表 3-3 数量化 III 類のサンプル・スコアの分散分析の結果

| 要因          | df | F 値      |         |          |
|-------------|----|----------|---------|----------|
|             |    | I 軸      | II 軸    | III 軸    |
| 性別          | 1  | 48.89**  | 9.93**  | 6.74**   |
| 年齢          | 11 | 168.61** | 71.54** | 122.17** |
| 自分らしさ       | 1  | 106.45** | 81.12** | 0.29     |
| 性別×年齢       | 11 | 6.98**   | 4.39**  | 3.62**   |
| 性別×自分らしさ    | 1  | 2.98     | 1.22    | 0.84     |
| 年齢×自分らしさ    | 11 | 6.54**   | 2.58*   | 2.94**   |
| 性別×年齢×自分らしさ | 11 | 1.30     | 0.73    | 0.70     |

\*:  $p < .05$  \*\* :  $p < .01$  \*\*\* :  $p < .001$

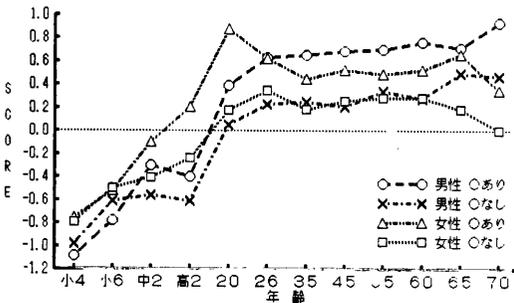


図 3-2 ○の有無別に見た年齢によるサンプル・スコアの変化 (I 軸)

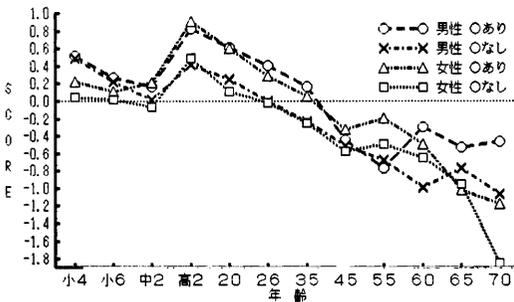


図 3-3 ○の有無別に見た年齢によるサンプル・スコアの変化 (II 軸)

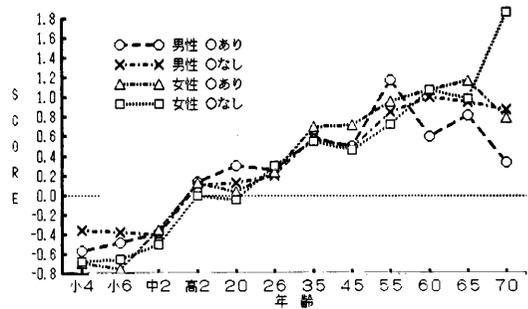


図 3-4 ○の有無別に見た年齢によるサンプル・スコアの変化 (III 軸)

いスコアを得ている。この結果は、加齢に伴い self-image が外的な対象に関するものになり、自己についての self-image がより自分らしいとされる傾向があることを示唆している。

III 軸の分散分析の結果では、年齢の主効果と年齢×自分らしさの交互作用が 0.1% 水準で、その他に性別の主効果と性別×年齢の交互作用が 1% 水準で有意となっている。 $F$  値を見ると年齢の主効果が顕著となっている。図 3-4 を見ると、性別と自分らしさについては明確な傾向は認められないが、スコアが加齢とともに上昇する傾向が見られる。この軸は、小項目の布置から見ても加齢に関連していると見られ、この結果はそれを裏付けるものと言える。

[非階層クラスター分析による被験者の分類]

数量化 III 類で得られたサンプル・スコアに基づいて被験者の分類を行なった。自分らしい回答とそれ以外の回答に与えられたサンプル・スコアを被験者ごとに併合し、非階層クラスター分析 (SAS FASTCLUS) によって被験者の分類を行なった。2 から 10 までのクラスター数を試みた結果、最も分類効果の高かった 5 クラスターを採用した ( $Pseudo F=1029.3$ )。

表 3-4 は、その結果得られたクラスターのサンプル・スコアの平均と標準偏差を示したものである。まず、各クラスターの被験者数を見ると、クラスター B が最も多く、全被験者の 38.2% を占めている。それに対し、クラスター C は 2.7% に過ぎない。これはクラスター C の被験者がかなり特殊であることを示唆している。

表 3-4 各クラスターのサンプル・スコアの平均と標準偏差

| クラスター        | ○  | I 軸    |       | II 軸   |       | III 軸  |       |
|--------------|----|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
|              |    | 平均     | SD    | 平均     | SD    | 平均     | SD    |
| A<br>N= 810  | あり | -1.570 | 0.727 | 1.288  | 0.805 | 0.214  | 0.848 |
|              | なし | -1.143 | 0.843 | 0.830  | 1.097 | 0.243  | 1.030 |
| B<br>N=1,292 | あり | -0.185 | 0.638 | -0.429 | 0.690 | -0.886 | 0.662 |
|              | なし | -0.402 | 0.637 | -0.408 | 0.749 | -0.577 | 0.732 |
| C<br>N= 91   | あり | -1.298 | 0.897 | 4.416  | 1.500 | 4.946  | 1.482 |
|              | なし | -0.710 | 0.841 | 1.517  | 1.434 | 1.445  | 1.788 |
| D<br>N= 929  | あり | 1.401  | 0.673 | 0.797  | 0.706 | -0.103 | 0.796 |
|              | なし | 0.657  | 0.839 | 0.303  | 0.791 | 0.009  | 0.717 |
| E<br>N= 461  | あり | 0.382  | 0.689 | -1.232 | 0.923 | 1.640  | 1.291 |
|              | なし | -0.010 | 0.638 | -0.978 | 0.913 | 1.093  | 1.012 |

クラスター間の関係を見るために、サンプル・スコアの平均によってクラスターを布置したものが図 3-5 (I 軸×II 軸) と図 3-6 (I 軸×III 軸) である。まず、クラスター A の特徴は、I 軸のスコアが最も低いことである。また、自分らしい回答の方がそれ以外の回答よりも低くなっている。これは、このクラスターが最も主観性の低い回答をしており、自分らしい回答においてその傾向が強

いことを示している。

クラスター B は、全般的に中央に位置しているが、III 軸のスコアは他のクラスターに比べて低い。また、自分らしい回答とそれ以外の回答の間に大きな差が認められない。この結果は、このクラスターの被験者に年少者が多く、自分らしい回答とそれ以外の回答の区分が明確でないことを示唆している。

それに対しクラスター C は、自分らしい回答とそれ以外の回答の差が最も大きいクラスターとなっており、特に II 軸と III 軸において差が大きい。また、II 軸と III 軸のスコアが最も高くなっている。これは、このクラスターの被験者において、自分らしい回答とそれ以外で回答内容に違いがあり、自己を指向する傾向が強いことを意味している。また、III 軸のスコアが高いことから高齢者が多いことが予想されるが、後述する年齢とクラスターとの関係を見ると、そのような傾向は認められない。

クラスター D の特徴は、II 軸と III 軸ではほぼ中央にあるが、I 軸のスコアが高いことである。しかも、自分らしい回答においてスコアが高

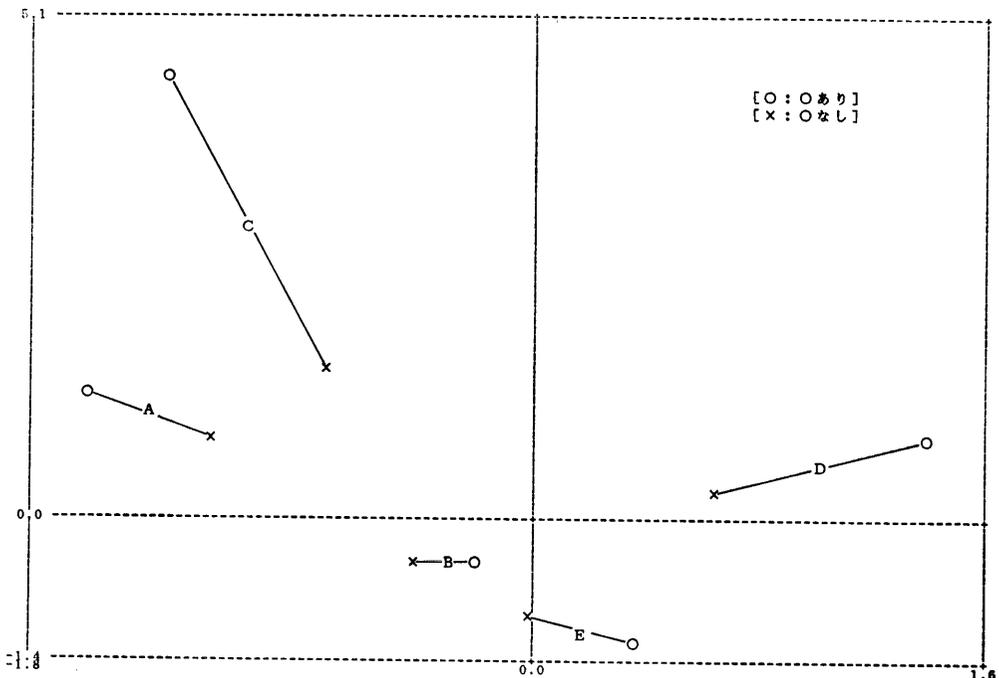


図 3-5 サンプル・スコアの平均によるクラスターの布置 (I 軸 [横軸]×II 軸 [縦軸])

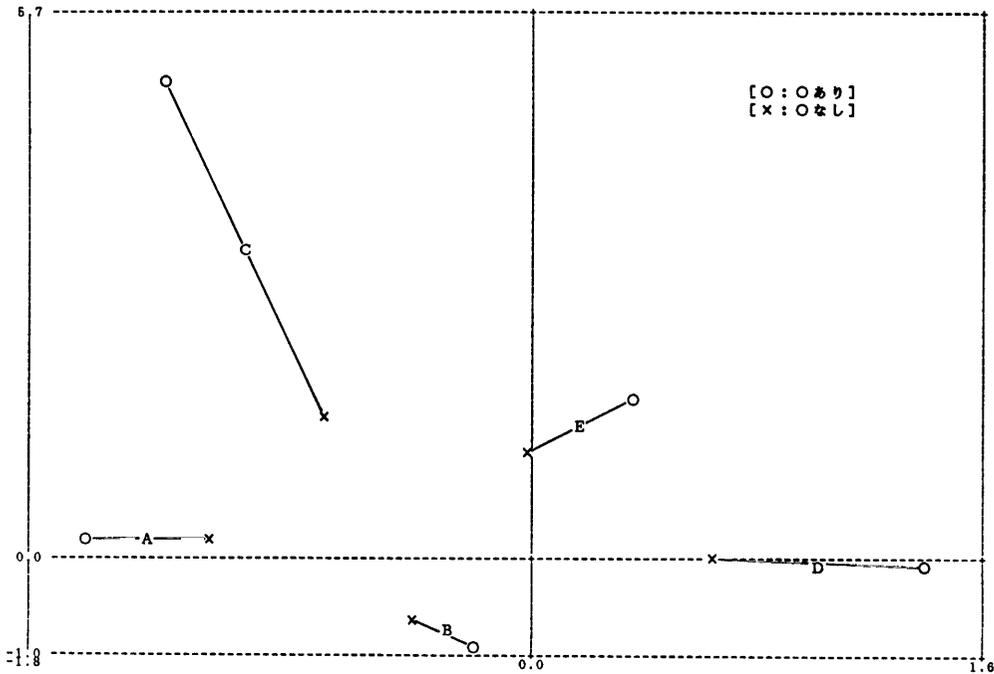


図 3-6 サンプル・スコアの平均によるクラスターの布置 (I 軸 [横軸]×III 軸 [縦軸])

くなっている。従って、このクラスターの被験者の回答は、強い主観性を帯びており、主観性の強いものに自分らしさを感じる傾向があることを示している。

クラスター E は、II 軸のスコアが最も低く、III 軸は比較的高いスコアを得ている。I 軸においてはほぼ中央に位置しているが、自分らしい回答の方が高いスコアを得ている。この結果は、クラスター E の被験者が、外的な対象についての回答を多くしており、高齢者の割合も高いことを示唆している。また、より強い主観性を帯びた回答に自分らしさを感じる傾向があると考えられる。

#### [小項目の反応頻度から見た各クラスターの特徴]

次に、各クラスターの特徴をより具体的に理解するために、各クラスターにおいて反応頻度の高い小項目を見ることにした。表 3-5 は、各クラスターで高い言及率を得た上位 10 位までの小項目について、平均反応数と、その小項目に分類された反応のうち、自分らしい回答として○の付けられた反応の割合を示したものである。通常、平均

反応数は該当集団の被験者数を分母として算出するが、ここでは各小項目に言及した被験者数を分母として算出している。従って、平均反応数は、すべての小項目において 1 以上となっている。

クラスター A を見ると、「人間」「生物」「地球人」といった反応が分類される〈生物学的・文化的規定〉の言及率が最も高くなっている。それ以外を見ても、〈性別〉〈年齢・世代〉〈名前〉などの基本的な属性に関する小項目が多い。自分らしい回答として○の付けられる割合が最も高いのは〈名前〉で、〈生物学的・文化的規定〉〈性別〉が続いている。これらの結果は、このクラスターの被験者の self-image において、基本属性が大きな意味を持っていることを示唆している。

クラスター B では、〈好み〉の言及率が最も高く、〈スポーツへの指向〉〈趣味〉などの趣味・好みや興味・関心についての項目が多い。自分らしい回答とされる割合は、スコアの平均からも予測されたように高低の差が比較的小さいが、指向的な小項目で高くなっている。これは、クラスター B の被験者の self-image が指向的な側面を中心に構成されていることを示唆していると言えるで

表 3-5 各クラスターで高い言及率を得た小項目

| クラスター    | 小項目名       | 言及率(%)     | 平均反応数 | ○の割合(%) |
|----------|------------|------------|-------|---------|
| A        | 生物学的・文化的規定 | 83.8       | 2.22  | 63.2    |
|          | 性別         | 77.8       | 1.06  | 58.5    |
|          | 学校         | 73.8       | 2.03  | 53.1    |
|          | 人種・国籍      | 63.8       | 1.25  | 52.2    |
|          | 年齢・世代      | 58.0       | 1.41  | 54.5    |
|          | 名前         | 56.4       | 1.44  | 80.8    |
|          | 家庭内の役割     | 40.3       | 1.73  | 49.2    |
|          | 住所         | 39.0       | 1.61  | 32.4    |
|          | 容姿・体格      | 31.3       | 1.70  | 38.7    |
|          | 好み         | 23.4       | 1.59  | 38.5    |
|          | B          | 好み         | 70.4  | 2.52    |
| 容姿・体格    |            | 58.2       | 2.01  | 55.7    |
| 学校       |            | 56.1       | 1.69  | 44.4    |
| 性別       |            | 51.0       | 1.04  | 44.6    |
| スポーツへの指向 |            | 50.4       | 1.48  | 60.6    |
| 趣味       |            | 47.1       | 1.64  | 59.4    |
| 飲食への指向   |            | 44.8       | 1.54  | 52.5    |
| 理論指向     |            | 44.4       | 1.57  | 53.8    |
| 健康・体質    |            | 41.5       | 1.43  | 45.0    |
| 日課・習慣    |            | 38.1       | 1.58  | 42.7    |
| C        |            | 生物学的・文化的規定 | 64.8  | 2.39    |
|          | 私は私        | 58.0       | 1.29  | 78.4    |
|          | 性別         | 54.9       | 1.16  | 4.0     |
|          | 隠喩的な表現     | 54.9       | 4.78  | 66.0    |
|          | 学校         | 46.2       | 1.45  | 2.4     |
|          | 私は誰        | 45.1       | 1.61  | 65.9    |
|          | 人種・国籍      | 42.9       | 1.21  | 2.6     |
|          | 実存的記述      | 31.9       | 2.28  | 72.4    |
|          | 家庭内の役割     | 29.7       | 1.89  | 0.0     |
|          | 年齢・世代      | 26.4       | 1.54  | 8.3     |
|          | D          | 好み         | 48.4  | 1.83    |
| 性別       |            | 36.8       | 1.02  | 22.6    |
| 学校       |            | 31.0       | 1.32  | 14.9    |
| 趣味       |            | 30.6       | 1.39  | 28.2    |
| 容姿・体格    |            | 29.4       | 1.67  | 23.8    |
| スポーツへの指向 |            | 29.2       | 1.18  | 29.2    |
| 現在の気分・状態 |            | 29.0       | 1.60  | 30.5    |
| まじめ・誠実   |            | 28.7       | 1.28  | 50.9    |
| 健康・体質    |            | 25.7       | 1.31  | 26.4    |
| 家庭内の役割   |            | 25.4       | 1.38  | 21.2    |
| E        |            | 職場・職業      | 56.0  | 2.21    |
|          | 現在の気分・状態   | 54.4       | 2.16  | 47.4    |
|          | 子供         | 44.9       | 1.60  | 36.2    |
|          | 好み         | 43.2       | 2.07  | 38.2    |
|          | 家庭内の役割     | 42.3       | 1.78  | 39.0    |
|          | 趣味         | 39.7       | 1.48  | 37.2    |
|          | 健康・体質      | 38.2       | 1.32  | 26.7    |
|          | 性別         | 37.5       | 1.08  | 17.9    |
|          | 飲食への指向     | 32.1       | 1.35  | 27.7    |
|          | 生活目標・心掛け   | 30.2       | 1.71  | 66.2    |

注：平均反応数は、各小項目に言及した者1人あたりの反応数を示す。

あろう。

クラスター C で最も言及率が高いのは〈生物学的・文化的規定〉であるが、〈私は私〉〈隠喩的な表現〉〈私は誰〉〈実存的記述〉のように、自己の存在の根元を問うような実存的な項目が多く含まれている。また、〈隠喩的な表現〉の平均反応数は5反応近くあり、この小項目に言及する被験者が、このような表現を多用することが示されている。一方、自分らしさの○については、実存的な項目については、すべて60%を超えており、それ以外では〈生物学的・文化的規定〉を除いてすべて10%未満となっている。〈生物学的・文化的規定〉は、基本属性とも考えられるが、実存的なニュアンスも強い小項目とも見ることができる。そういう意味では、このクラスターの被験者のself-imageは、実存的な意識を強く反映してい

ると見られる。

クラスター D の10項目を見ると、クラスター B とかなり重なっている。異なるのは〈現在の気分・状態〉〈まじめ・誠実〉〈家庭内の役割〉の3項目だけである。いわゆる性格の記述にあたる小項目は全般に言及率が低いため、他のクラスターでは言及率の上位20位まで見ても1項目もない。しかし、クラスター D では、〈まじめ・誠実〉を含めて5項目が含まれている。また、自分らしさの○の割合を見ると、〈まじめ・誠実〉が最も高くなっており、他の4項目もすべて40%以上となっている。このようなことから、このクラスターの被験者が性格に関するself-imageを重視していることが理解できる。

クラスター E では、〈職場・職業〉の言及率が最も高い。その他に〈子供〉〈家庭内の役割〉といった家族・家庭に関する小項目や、〈現在の気分・状態〉〈生活目標・心掛け〉といった日常生活に関する小項目が含まれている。特に〈生活目標・心掛け〉は自分らしいとされる割合が最も高くなっている。これらの項目はすべて日常生活と深く関連しており、このクラスターの被験者は日常生活と密接に結び付いたself-imageを抱いていると考えられる。

#### 【クラスターと性・年齢の関連】

各クラスターと性・年齢との関係を見るために、性・年齢別にクラスターの構成比を算出した。図3-7は男女別のクラスター構成比を図示したものである。これを見ると、クラスター A の割合が男性で高く、クラスター D の割合が女性で高いことがわかる。これは、男性に基本属性を重視するものが多く、女性に性格を重視するものが多いことを示唆しているが、全体的には大きな男女差は認められない。

図3-8は、年齢別にクラスター構成比を示したものである。これを見るとかなり明確な年齢差が認められる。特に、クラスター A は、年少者ほど構成比が高い傾向があり、クラスター E は高齢者ほど構成比が高くなっている。つまり、基本属性を中心に回答している者は加齢とともに減少し、日常生活に関する記述を中心としている者は

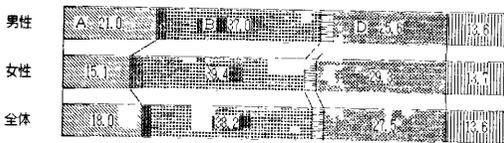


図 3-7 男女別に見たクラスター構成比

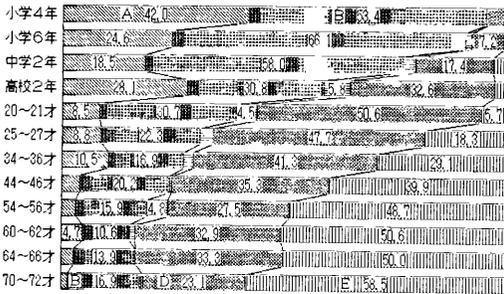


図 3-8 年齢別に見たクラスター構成比

増加している。一方、クラスター B も年少者での構成比が高いが、70代でも約17%の比率を占めている。クラスター D は、いずれの年齢層でも比較的安定した比率を占めているが、高校2年以降の比率が高い。これは、指向や性格を中心として self-image を構成する者が広い年齢層に見られることを示唆している。それに対し、クラスター C の比率は、いずれの年齢層でも低く、64才以上には全くいない。これは、実存的な self-image を中心とする者の特殊性を示しているといえる。これらの結果を全体的に見ると、クラスター構成比が加齢に伴って漸進的に変化しており、self-image の発達のな変化を反映していると見ることもできるであろう。

#### 4. 考察

##### [自分らしさと self-image]

今回の分析結果に考察を加える前に、自分らしい回答、即ち、○を付けられた回答が何を意味しているのかについて検討しておく。先にも述べたように、われわれは、特に自分らしいと思う回答に○を付けさせることによって、self-image の核となるものを捉えることができるであろうと考えた。このような前提の妥当性を直接的に実証することはむずかしいが、今回の結果からある程度の

傍証を得ることはできた。

その1つは、数量化 III 類で得られた「記述の主観性」の軸が、自分らしさと最も明確な関連を示したことである。この軸については、中学2年生以上において自分らしい回答がそれ以外の回答を上回っており、全体的には自分らしい回答がより強い主観性を帯びることが示唆された。強い主観性を帯びていることが必ずしも self-image の核となっていることを意味してはいないが、強い主観性は何らかの心理的負荷のあることを示している。当然、中核となる self-image にも何らかの心理的負荷があると考えられる。そういう意味では、○の付けられた回答が self-image の中核を成している可能性を示唆する結果と言える。

さらに、各クラスターで反応頻度の高い小項目を見ると、各クラスターで高い反応を得た小項目はある程度の意味的なまとまりを持っている。しかも、自分らしさの○を付けられた割合を見ると、それらの意味上の中心となる項目で高くなっている。例えばクラスター A では、基本属性の言及率が高く、その中でも〈名前〉〈生物学的・文化的規定〉〈性別〉が自分らしいとされる割合が高くなっている。これは、○の付けられた回答が self-image の、少なくとも意味的な中核を成していることを示していると言えるであろう。

このように、自分らしい回答は、心理的負荷を持っており、意味的な中心にもなっている。これは、自分らしい回答が self-image の中核を成していることを間接的に示していると言えるであろう。

##### [自分らしい回答の個人差]

自分らしい回答は、一般的に言えば、強い主観性を帯び、意味的にも中心性の高いものと言える。しかし、より詳細に見ると、大きな個人差も存在している。クラスター分析の結果を見ると、5つのクラスターのうちクラスター A と C では、I 軸において自分らしい回答の方が低くなっている。つまり、I 軸のスコアに即して見る限り、自分らしい回答の方が主観性が弱いということになる。この2つのクラスターは、クラスター全体の平均が低く、言及内容の全体に主観性があまり

ないことが示されている。言及内容を見ると、クラスター A では基本属性に関する言及が多く、その中でも、「人間」あるいは「生物」などの生物学的・文化的規定、名前、性別が自分らしいとされている。クラスター C では、実存的な内容と基本属性が多く、実存的なものが非常に高い割合で自分らしいとされている。この2つのクラスターで自分らしいとされる内容はいずれも、個人の基底を成す条件や自己の存在の根本に関わるものと言うことができる。この2つのクラスターについて言えば、このような根元的なものに自分らしさを感じていると見ることができるであろう。

ところで、残りの3つのクラスターは、数量化 III 類の解釈に基づいて言えば、主観性の強い回答内容に自分らしさを感じているということになる。しかし、クラスターごとに言及内容も異なり、実際に自分らしいとされる内容にも違いがある。そこで、具体的な回答内容から、これらのクラスターにおける自分らしさを検討して見る。クラスター B では、趣味、好み、関心などの回答内容が自分らしいとされる割合が高く、クラスター D では、いわゆる性格の記述が自分らしいとされている。そして、クラスター E では、生活目標や心がけが自分らしいとされている。趣味・好みと生活目標は、指向的側面に含めて考えることができ、性格の記述は、広い意味での自己評価と見することもできる。これらは、確かに主観性を帯びたものと言うことができるが、それぞれのニュアンスはかなり違う。そういう意味では、全体的に見て自分らしい回答は主観性が強いということよりも、このような多様性が存在するということの方

が大きな意味を持つように思われる。

### 〔自分らしさの発達的变化〕

今回の分析結果では、年齢が重要な意味を持つことが示された。数量化 III 類の分散分析の結果においては、すべての軸が年齢と関連を持つことが示されている。特に I 軸との関連は最も強く、スコアの平均値を見ると、発達に伴い反応が主観性を帯びることが示されている。これについては、前章の出現順序の分析においても同様の結果が示されている。

また、クラスターと年齢との間にも強い関連が認められ、これから自分らしさの発達の変化についても大きな示唆を得ることができる。まず、各クラスターの特徴を言及内容と自分らしさの○の割合からまとめると、クラスター A は基本属性、クラスター B は指向、クラスター C は実存的意識、クラスター D は性格、クラスター E は日常生活に、それぞれ自分らしさを感じていると見ることができる。そして、クラスター構成比の変化を全体的に見ると、加齢に伴いクラスター A, B からクラスター D, E に移行している。これは、自分らしさを感じるものが、発達とともに基本属性や指向から性格や日常生活へと移行することを示唆している。今回のデータは継時的なものではないことや、いずれの年齢層においてもクラスター B と D がある程度の比率を占めていることを考慮すると、この結果から結論を下すことはできないが、このような発達傾向も十分に考えられる。

# 4

## WAI 反応の相互関連性の分析

|          |    |
|----------|----|
| 1. 目的    | 37 |
| 2. 方法    | 38 |
| 3. 結果と考察 | 40 |
| 4. まとめ   | 44 |

### 1. 目的

われわれは、約 10 年にわたって、基準書を用いて WAI 技法で得られる反応の内容と頻度の分析を行なってきた (e.g., 岩熊・榎田, 1991b; 榎田・岩熊, 1990; 榎田・岩熊・西村, 1992)。このような分析によって、self-image の多様性や、被験者の性別や年齢などの属性による self-image の違いが示された。ところで、1 人の個人だけを見ても、そこには多様な self-image が存在する。これは、多くの個人が、WAI 技法に対して内容の異なる複数の回答を書いていることから明白である。しかも、個々の self-image は、すべて、1 人の個人の“私”であり、それらは、個人の中で相互に関連していたり、ほとんど無関係であったりしながらも、1 人の“私”を構成している。つまり、self-image は、1 人の個人の中で何らかの構造を持っていると考えられる。そして、このような構造を捉えることができれば、個人のパーソナリティを理解する上で非常に有益であり、自我や自己について考える上でも有効であろう。しかしながら、自我や自己に関して構造を問題とす

る場合には、視点の違いによって構造の意味するものが大きく異なる。ここで問題としている構造とは、被験者自身が様々な self-image をどのように認知的に関連づけているか、あるいは、被験者の中で self-image のどれとどれが近く、どれとどれが遠いかということである。これは、言わば、被験者の心の中にある self-image の“地図”のようなものと言えるであろう。そこでわれわれは、WAI 反応の相互関連性に基づいて、このような self-image の個人内での構造を把握する試みを行なった。これについては、以前に他でも触れたが (岩熊, 1986; 岩熊・榎田, 1989)、個人のパーソナリティを理解する方法の 1 つとして、本章で改めて取り上げることにした。

この研究では、個人の持つ多様な self-image の相互関連性を、その個人自身に評定させることによって、その構造を捉えようとしている。当然、相互関連性を評定させる前に、その個人の self-image を捉えておく必要がある。そこで、WAI 技法を用いて、各個人の self-image を収集することにした。ここで WAI 技法を用いた理由の 1 つは、WAI 技法によって広い領域の self-image を得られるということである。個人の持

つ self-image は広い領域に及んでいる。そのため、self-image の全体的な構造を調べるためには、個人の多様な self-image を収集する必要がある。2 つめの理由は、WAI 技法によって自発的な self-image が得られるということである。個人が自発的に記述した self-image は、その被験者にとって何らかの意味を持っている。被験者にとって何の意味も持たないようなものについて関連性の評定をさせても、意味のある結果は得られない。そして3つめの理由は、基準書による反応頻度の分析でも示されたように、WAI 技法で得られる self-image が、被験者にとって比較的重要なものだということである。個人の持つ self-image は膨大なものと思われるが、それらすべてを分析の対象とすることはできない。膨大な self-image から分析の対象を選択するとすれば、個人にとって比較的重要なものを分析すべきであろう。このように、WAI 技法で得られた反応は、個人の self-image の構造を分析するのに適していると考えられる。

self-image 間の関連性の評定方法についても検討しておく必要がある。ここで目的としているのは、個人が抱えている self-image の認知的な構造の分析である。しかし、それがどのような基準で構造化されているのかは未知であり、また、それは個人ごとに異なった独自のものである可能性も高い。従って、構造化の基準を研究者の側から呈示するような評定方法は避けるべきであろう。そこで、WAI の回答を自然に感じるように分類させる方法と、回答を2つずつ対呈示して、2つの回答の間の関連の強さを評定させる方法の、2種類の評定方法を用いることにした。これは、2つの方法を併用することによって、より信頼性の高い結果を得るためでもある。また、後者の方法で得られた回答間の関連の強さについては、クラスター分析や多次元尺度法を用いることによって、視覚的な構造分析が可能となる。

しかし、このようにして得られる self-image の構造は、個々人に独自なものであり、そこから直接的に被験者間で共通する self-image の構造の特徴を抽出することはむずかしい。そこで、得られた構造を被験者間で比較分析できるように、

被験者自身に、共通の項目を用いてそれぞれの WAI の回答を評定させることにした。複数の被験者の反応を計量的に分析するためには、被験者の各反応を何らかのカテゴリーで分類し、相互に比較可能なものにする必要がある。第2章では、基準書を用いて、評定者が反応を分類する方法をとったが、このような第三者による分類では各反応が被験者にとってどのような意味づけを持っているかを分析することはできない。しかし、被験者自身が評定を行なうならば、このような意味づけを分析することも可能となる。この場合には、反応内容以外に、反応内容に対する態度や感情などもカテゴリーに含める必要がある。その一方で、被験者自身が評定を行なう場合、訓練を必要としたり、分類に多くの時間を要するような複雑なカテゴリーは使用できない。このようなことを考慮した結果、反応をいずれか1つのカテゴリーに分類させるよりも、反応が該当する場合には複数のカテゴリーに分類させる方が、分類も容易で、カテゴリー数の割に得られる情報も多いと判断した。実際には、複数のカテゴリーを項目として呈示し、各項目について、該当するか否かを評定させることによって、このような分類が為されることになる。

われわれは、このような考察に基づき、個人の self-image の構造を把握する試みを行っている。以下、具体的な方法と結果について述べる。

## 2. 方法

### [被験者]

大学3, 4年生の男女各25名、計50名が被験者として実験に参加した。これらの被験者は、すべて同じ大学の同じ専攻に所属し、この専攻のいずれかのゼミナールに所属している。

### [共通項目の選択]

self-image の構造を被験者間で比較分析するために、20の共通項目を用意した。これは、WAI の各回答が関連する生活領域と、回答が表現している感情・情緒についての項目で構成されている。被験者は、それぞれの回答について、項目が

該当するか否かを評定する。項目の選択に際しては、基準書による WAI 反応の内容分析の結果と頻度分析の結果や、被験者の生活状況を考慮した。その結果、選択された共通項目は、〈家族のこと〉〈友達のこと〉〈ゼミのこと〉〈サークルのこと〉〈学業のこと〉〈趣味のこと〉〈アルバイトのこと〉〈日常生活のこと〉〈あなたの身体〉〈あなたの性格〉〈あなたの能力〉〈あなたの考え方〉〈あなたの自信〉〈あなたの劣等感〉〈あなたの幸福感〉〈あなたの不満〉〈あなたの願望〉〈あなたの後悔〉〈あなたのあきらめ〉〈あなたの自分らしさ〉の 20 項目である。

### 【手続き】

**1. WAI の施行:** 実験の 1~2 週間前に、被験者に個別に一般用 WAI 用紙を配布し、その際に、WAI に反応する際の教示を行なった（第 1 章参照）。WAI 用紙は持ち帰りとし、実験前日までに提出するよう指示した。このようにすることによって、WAI 記入日と実験日の間隔を短くすることができ、被験者の負担も軽減できる。WAI 技法の場合、被験者の施行時の態度が反応にもあらわれるが、反応を見る限り、今回の被験者の施行態度や教示の理解に問題はなかった。

**2. 実験:** WAI 用紙の回収後、各被験者に対し個別に実験を行なった。この実験の目的は、WAI 反応の間の関連性と被験者にとっての反応の意味づけを調べることに、さらに、これらの情報に基づき被験者自身にインタビューを行なうことである。反応間の関連性を調べるためには、回答の分類を被験者自身に分類させる方法と、回答のすべての組合せについて関連の強さを評定させる方法の 2 つを用いた。従って、実験は、回答の分類、回答の相互関連性の評定、共通項目による回答の評定、インタビューの 4 つのセッションから構成されることになる。所用時間は最初の 3 つのセッションがおおよそ 1 時間で、最後の解析結果のフィード・バックとインタビューがおおよそ 30 分である。被験者の負担は軽いとは言えないが、結果のフィード・バックがあったため、多くの被験者が面白かったと感想を述べている。4 つのセッションの手続きを以下に示す。

**(a) 回答の分類:** 被験者が WAI 用紙に記入した回答を 1 答ずつ別々に印刷した 20 枚のカードをテーブルの上にし、それらのカードをもっとも自然に感じるように分類するよう被験者に求めた。分類時のグループ数は、2 個以上 19 個以下とし、20 の回答を 1 つにまとめたり、全部をばらばらにすることのないよう教示した。時間制限は設けず、被験者が納得するまで行なわせた。

**(b) 回答の相互関連性の評定:** 被験者に 20 の回答を 2 答ずつ対呈示して、回答間の関連の強さの評定を行なわせた。これにはパーソナル・コンピュータが用いられ、被験者はコンピュータの前にすわり、CRT を見ながらキーボードで評定の結果を入力する。CRT には回答が 2 答ずつ対呈示され、被験者自身が感じる 2 つの回答の関連の強さを、1 の「関連が弱い」から 5 の「関連が強い」までの 5 段階で評定し、ファンクション・キーを使って入力するよう教示した。評定結果が入力されると、CRT に別の回答の対が呈示される。このような試行が、すべての試行が終るまで繰り返される。呈示は、20 答のすべての対について 2 回ずつ行なわれ、最終的には 380 試行となる。呈示順序や CRT 上の呈示位置の効果を除くために、ランダムな順序で呈示し、同じ回答の対は、1 回目と 2 回目とで回答の CRT 上での呈示位置が入れ替わるようにした。

**(c) 共通項目による回答の評定:** WAI 反応を被験者間で比較できるようにするために、各回答を共通項目を用いて被験者自身に評定させた。これは、各回答が共通項目に示された事柄を表しているかどうか“○×”で評定するもので、回答が項目を表していれば“○”，表していなければ“×”を選択するよう教示した。評定にはパーソナル・コンピュータが用いられ、被験者は CRT 上に呈示された各回答と 20 個の共通項目のリストを見ながら、カーソル・キーを使って CRT 上で項目リストに示された○または×を選択する。1 つの回答について 20 個の項目の評定が終ると、別の回答と項目のリストが呈示される。このような試行がすべての回答について行なわれた。

**(d) 解析結果のフィード・バックとインタビュー:** 上記の 3 つのセッションの終了後、直ちにデ

ータの入力と解析が行なわれ、その結果が出力された。そして、被験者に出力結果を示しながら、結果に対する被験者の感想、解釈等についてインタビューを行なった。

### 3. 結果と考察

#### [個人の self-image の構造]

得られたデータは、はじめに各個人ごとに解析され、各個人の self-image の構造が分析された。その結果の一部は実験の (d) で被験者自身に示され、インタビューが行なわれた。ここでは、男女

表 4-1 男子大学生 (一例) の回答とその分類結果

|        |  |
|--------|--|
| グループ1  | ①とても 一口ではいけませんね。<br>②実は自分でもよくわかりません。                                     |
| グループ2  | ③学生です。   |
| グループ3  | ③酒好きな男です。<br>④誘われると断られません。<br>④要領が悪いんです。<br>⑤人が好きです。                     |
| グループ4  | ④まじめです。  |
| グループ5  | ⑤やるときはやります。<br>⑥慎重すぎるところもあります。<br>⑥何事も切羽詰まらないとやりません。                     |
| グループ6  | ⑥楽天的です。<br>⑥気は長い方です。   |
| グループ7  | ⑦ややさめてます。  |
| グループ8  | ⑩優柔不断です。<br>⑩お調子者です。<br>⑬はつきり言ってバカです。<br>⑬話をしている時、考えていることをうまく言葉で表現できません。 |
| グループ9  | ⑪お金に不自由しています。  |
| グループ10 | ⑫もう24才になってしまいました。  |

各1名の被験者のデータを分析した結果を示すことにする。

まず、男性被験者の分析例から見ることにしよう。構造分析のためには、2種類のデータが用いられた。1つは、実験の (a) で得られた回答の分類結果であり、もう1つは実験の (b) で得られた回答間の相互関連性の評定結果である。まず、この両者の統計的な整合性を確認するために、(a) の分類において同じグループに分類された回答間の関連性が、異なるグループに分類された回答間の関連性より有意に高いかどうかを、1要因の分散分析で検定した。この被験者の場合、同じグループに分類された回答間の関連性の評定は、平均すると4.06、異なるグループに分類された回答間の評定は2.80で、分散分析の結果も有意であった ( $F_{(1,378)}=41.57, p<.001$ )。以上のことから、同じグループに分類された回答間の関連性が有意に高いことが認められ、2種類のデータの間の整合性が確認された。全被験者に同じ分析を行なった結果、50名中48名で有意な結果が得られた (i.e.,  $p<.001$ : 40名;  $p<.05$ : 8名; ns: 2名)。

次に、実際にこの2種類のデータを用いて、この被験者の self-image の構造の分析を行なった。表4-1が、回答の分類結果である。相互関連性の評定結果については、Ward法による階層ク

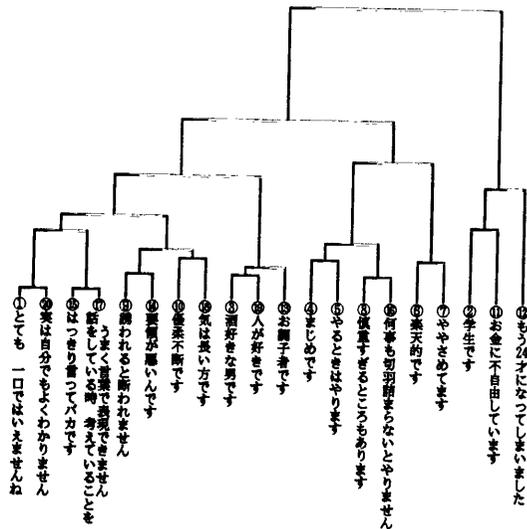


図 4-1 男性被験者 (一例) の回答のデンドログラム

クラスター分析を用いて、回答のデンドログラム(樹系図)が作成された。クラスター分析の結果得られた回答間の距離と、相互関連性の評定結果との相関係数は  $-0.770$  で、 $R^2$  は  $.593$  であった。図 4-1 は、クラスター分析によって得られた回答のデンドログラムである。分類とデンドログラムの間には、大まかな対応が認められる。デンドログラムの左側の①—⑬のクラスターは、分類のグループ 1, グループ 3, グループ 8 に、⑬を加えたものである。デンドログラム中央の④—⑦のクラスターは、⑬を除く、グループ 4, グループ 5, グループ 6, グループ 7 に対応する。そして、デンドログラム右側の②—⑫は、グループ 2, グループ 9, グループ 10 に対応する。被験者自身はインタビューにおいて、このデンドログラムを「全体的に違和感は全然感じない。納得できる」と述べ、さらに、①—⑬のクラスターを「人間っぽい部分」、④—⑬を「行動と結び付いた部分」とであると述べている。⑥の「楽天的です。」と⑦の「ややさめています。」については、「自分の中でこの2つが共存している」と述べた。また②—⑫のクラスターは、「付属的で、内面と関係ないもの」であり、それに対して①—⑦のクラスターが「内面」とであると述べた。

この被験者の self-image の構造を空間的に表現するため、回答間の関連性を多次元尺度法(SAS ALSCAL 中の ASYMSCAL)で解析し、回答の布置を求めた。2次元での  $R^2$  は  $.979$ 、ストレスは  $.083$  であった。この結果に基づいて回答を布置したものが、図 4-2 である。この図の右上には、被験者が「付属的なもの」と述べた回答群が他の回答から離れて布置されている。中央の原点付近には、「人間っぽい部分」の回答群が位置している。そして、この中で⑩の「人が好きです。」のような対人指向的なイメージは右上に集まり、⑫の「実は自分でもよくわかりません。」のような自己の潜在的な広がりを示すイメージが左に位置している。また、中央から下の方にかけて被験者が「行動と結び付いた部分」と述べた回答群がある。しかし、クラスター分析で1つのクラスターを形成していた⑥と⑦は、中央付近と最下部とに離れて布置されている。

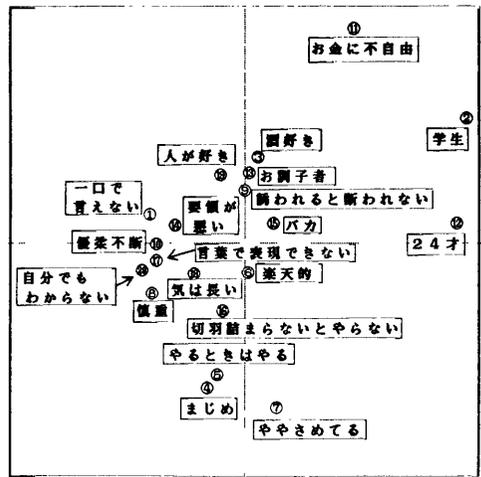


図 4-2 多次元尺度法による男子大学生(一例)の回答の布置

横軸は第1次元、縦軸は第2次元である。回答は簡略化されて示されているので、回答の原文については表 4-1 を参照

これらの結果をまとめてみると、回答の分類と相互関連性の評定との間には、統計的に有意な整合性が認められ、分類、クラスター分析、多次元尺度法の結果の間にも大まかな対応が見られる。しかし、これらの間には、細部において矛盾する点もある。この原因としては、分類と相互関連性の評価とが、被験者にとって性質の違う課題であったこと、クラスター分析や多次元尺度法が評定結果を完全に表現し得なかったことなどが考えられる。このようなことを考慮して、これらの方法で得られた結果を総合して考察を進めて行くことにする。まず目に付くのは、被験者が「付属的なもの」と呼んだ回答②, ⑩, ⑫と他の回答との関連が弱く、この3つの回答間の関連もあまり強くないということである。これは、回答の分類、クラスター分析、多次元尺度法のいずれにおいても見られる傾向である。これらの回答は、彼の言うように「付属的なもの」であり、彼にとっては周辺的な意味しか持たないイメージ群と考えられる。それに対し重要なのは、彼が「内面」と呼ぶ部分である。この中で中心に位置するのは、「人間っぽい部分」と言われたイメージ群であり、これは、分類のグループ 1 に代表されるような、自己の潜在的な広がりを示すイメージ群と、グルー

プ3に代表されるような対人指向的なイメージ群とに分かれている。また、その他にグループ5に代表されるような「行動に結び付いた」イメージ群があり、これが中心的なイメージよりやや周辺に位置しているものと考えられる。

女性被験者の結果については、回答の分類結果(表 4-2 参照)と多次元尺度法による回答の布置(図 4-3 参照)を示すにとどめる。多次元尺度法の結果は、2次元での  $R^2$  が .961, ストレスが .116 であった。図 4-3 には、この被験者の性格や両親に対する態度が構造としてよくあらわれている。他の被験者についても、その多くがインタ

表 4-2 女子大学生 (一例) の回答とその分類結果

|                                    |
|------------------------------------|
| グループ1                              |
| ①私は■ゼミに所属しています                     |
| グループ2                              |
| ②私は夏休みに1カ月間アメリカに行って来ました            |
| ⑩私は英会話を2年半習っています                   |
| グループ3                              |
| ③私は父を尊敬しています                       |
| ④私はもっと勉強して医学部に行けばよかったと後悔しています      |
| ⑯私は両親にとっても気を遣います                   |
| ⑮私は大学に入ってからすっかり根性がなくなりました          |
| ⑨私は早く社会に出たいです                      |
| グループ4                              |
| ④私は友人がみな就職が決まり、取り残された気持です          |
| グループ5                              |
| ⑤私は私らしさは内面と外面のギャップだと思っています         |
| ⑥私は1人であるのが好きです                     |
| ⑦私は完全主義だと思っています                    |
| ⑧私の欠点は、先々まで決まらないうと行動に移せないところです     |
| ⑪私は人見知りをする                         |
| ⑮私は爰きようがありません                      |
| ⑭私は生意気だと思っています                     |
| ⑫私は子供が嫌いです                         |
| グループ6                              |
| ⑨私は料理が好きです                         |
| ⑫私は車の運転が好きで、レースに出たいのでB級ライセンスを取りました |
| グループ7                              |
| ⑬私は低血圧で体力に自信がありません                 |

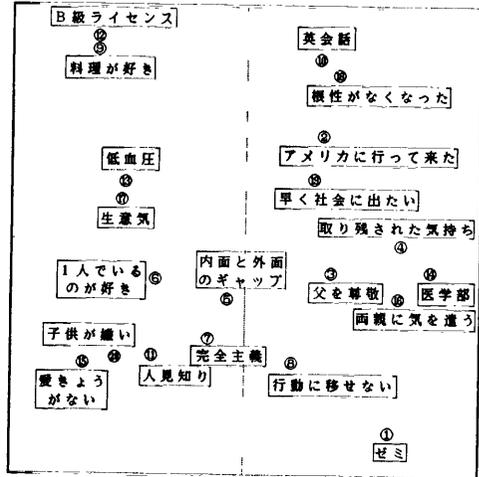


図 4-3 多次元尺度法による女子大学生 (一例) の回答の布置

横軸は第1次元、縦軸は第2次元である。回答は簡略化されて示されているので、回答の原文については表4-2を参照

ビューにおいてクラスター分析の結果を納得できると述べている。また、結果に違和感を感じると述べた被験者も積極的に結果に対する批判や解釈を述べており、インタビュー結果を含めた総合的な分析によって被験者の self-image の構造を把握することができた。

[被験者間の self-image の構造の比較分析]

全被験者に共通する self-image の構造の特徴を見るために、共通項目間の関連性を分析した。これには、実験の (c) で得られた各回答の共通項目による評定結果と、(b) の回答間の関連性の評定結果から算出される、被験者ごとの共通項目間の関連の強さを用いた。具体的には、ある項目を表していると評定されたすべての回答と、別の項目を表していると評定されたすべての回答との間の関連の強さを平均し、これを2つの項目間の関連の強さとしたのである。このようにして被験者ごとに共通項目間の親近性行列を作成し、それを多次元尺度法の1つである INDSCAL (SAS ALASCAL 版) で分析して、共通項目の布置を求めた。2次元から6次元までの次元数を試みた結果、4次元以上は  $R^2$  の大きな改善がみられないため、4次元を採用することにした。4次元で

表 4-3 INDSICAL での共通項目の座標

| 共通項目      | 次元    |       |       |       |
|-----------|-------|-------|-------|-------|
|           | 1     | 2     | 3     | 4     |
| 家族のこと     | 0.35  | -0.88 | -0.12 | -1.82 |
| 友達のこと     | -0.76 | -0.29 | -0.13 | 1.65  |
| ゼミのこと     | -0.30 | -0.66 | -1.14 | 1.34  |
| サークルのこと   | -1.07 | -0.12 | -0.44 | 1.31  |
| 学業のこと     | -0.67 | -0.94 | -1.30 | 0.88  |
| 趣味のこと     | -1.71 | -0.15 | 0.46  | -0.26 |
| アルバイトのこと  | -1.39 | 0.45  | -0.79 | -0.68 |
| 日常生活のこと   | -0.23 | 0.34  | -1.02 | -1.49 |
| あなたの身体    | 0.09  | 3.76  | 0.09  | 0.01  |
| あなたの性格    | 0.42  | 0.06  | 1.25  | 1.30  |
| あなたの能力    | 0.15  | 0.57  | -1.66 | -0.36 |
| あなたの考え方   | 0.49  | -0.75 | 1.59  | -0.39 |
| あなたの自信    | -0.40 | -0.38 | 1.73  | -0.21 |
| あなたの劣等感   | 1.74  | 0.54  | 0.25  | 0.11  |
| あなたの幸福感   | -0.84 | -0.65 | 1.16  | -1.00 |
| あなたの不満    | 1.66  | -0.74 | -0.42 | -0.54 |
| あなたの願望    | -0.86 | 0.27  | 0.79  | -1.25 |
| あなたの後悔    | 1.01  | -0.91 | -1.31 | -0.06 |
| あなたのあきらめ  | 1.92  | 0.28  | -0.05 | 0.03  |
| あなたの自分らしさ | 0.41  | 0.20  | 1.06  | 1.43  |

の  $R^2$  の被験者平均は .336, ストレスの平均は .240 であった。得られた共通項目の各次元での座標値を表 4-3 に示す。

INDSCAL においては、座標軸の回転を行なわなくても、有意味な軸を得られることが多い (Kraskal & Wish, 1978)。今回の結果でも、回転を行わずに各次元を解釈することができた。第 1 次元では、高い座標に〈あなたのあきらめ〉〈あなたの不満〉などの否定的意味あいを持つ項目があり、一方、〈あなたの幸福感〉〈あなたの願望〉などの肯定的意味あいを持つ項目は、負の座標値を持っている。また、一番低い座標値を持つ〈趣味のこと〉も、被験者にとって肯定的な意味あいを持つと考えられることから、第 1 次元は、好悪や自己評価などを含めた一般的な評価の次元と判断される。第 2 次元は、〈あなたの身体〉だけが極端に高い座標値を持ち、他の項目は -1 から +1 の間にあるので、身体性の次元と見てよいだろう。第 3 次元では、正の座標値を持つ項目はほとんど自己の内界を指し示す項目であり、負の座標値を持つ項目には自己にとって外的な事象に関わる項目が多い。この次元は内面世界—外的事象

の次元と解釈される。第 4 次元においては、〈友達のこと〉がもっとも高い座標値を持ち、その他に、友人関係と関連深い大学関係の項目も高い座標値を持つ。一方、負の座標値を持つ項目には、〈家族のこと〉をはじめ友人関係と関連の薄い項目が多いので、第 4 次元は友人関係の次元と考えられる。

INDSCAL では、被験者ごとに算出された共通項目の関連性が解析され、項目の各次元での座標と、被験者の各次元のウェイトが得られた。得られた布置における項目の近さは、項目間の関連の強さを意味するが、項目の布置は、被験者が各次元にどのようなウェイトを持つかによって、被験者ごとに異なる。例えば、第 2 次元だけに大きなウェイトを持つ被験者の項目関係は、〈あなたの身体〉だけが他の項目から隔たっていて、他の身体と関連の薄い項目はまとまっている。このような被験者は、身体的なものとは非身体的なものを分け、両者を相互に関連づけずに分離して self-image の中に組み込んでいるものと考えられる。従って、各次元は、その次元を重視する被験者が self-image を構造化する際に用いる、self-image の分離基準と考えられる。

そこで、重視する次元の違いによって被験者の分類を行ない、被験者間に見られる共通性と差異を分析することにした。このような目的のためには、INDSCAL で得られた被験者ウェイトを、次元間の優劣関係を示す指標に変換する必要がある (Young & Lewycky, 1978)。ここでは、各被験者の  $R^2$  に対する各次元の寄与率を用いることにした。 $R^2$  は INDSICAL のモデルが各被験者の構造をどの程度説明しているかを示す指標であり、それに対する各次元の寄与率を求めれば、各被験者がどの次元を相対的に重視しているかがわかる。そしてこれは、各次元の被験者ウェイトの二乗をその被験者の  $R^2$  で除することによって求められ、その和はすべての被験者において 1.0 となる。このように各次元の寄与率を被験者ごとに求め、非階層クラスター分析 (SAS FASTCLUS) で被験者の分類を行なった。クラスター数は 2 個から 10 個まで試みた結果、最終的に 6 クラスターを採用することにした。表 4-4 に、各クラスターの各次元の寄与率と  $R^2$  の平均を示す。この中

表 4-4 クラスター別の各次元の寄与率と  $R^2$  の平均

| クラスター | N  | 次元   |      |      |      | $R^2$ |
|-------|----|------|------|------|------|-------|
|       |    | 1    | 2    | 3    | 4    |       |
| A     | 3  | .321 | .406 | .150 | .123 | .648  |
| B     | 27 | .333 | .054 | .334 | .279 | .152  |
| C     | 3  | .752 | .054 | .092 | .102 | .676  |
| D     | 10 | .278 | .050 | .293 | .379 | .269  |
| E     | 4  | .015 | .966 | .007 | .012 | .876  |
| F     | 3  | .128 | .734 | .071 | .067 | .835  |
| 全体    | 50 | .309 | .188 | .258 | .245 | .336  |

で特に特徴的なクラスターは、クラスター E である。このクラスターでは、第 2 次元の寄与率が非常に高く、他の次元の寄与がほとんどない。つまり、self-image の構造に身体-非身体の分離という特徴があるということになる。また、このクラスターに属する被験者の  $R^2$  は高く、INDSCAL のモデルがこれらの被験者によくあてはまっていることが示されている。これと類似したウェイト・パターンは、クラスター F に見られるが、第 2 次元の寄与率と  $R^2$  がクラスター E よりも低い。クラスター C は第 1 次元の寄与率が高く、他の次元の寄与が比較的低い。つまり、好き-嫌い、幸福感-不満、自信-劣等感などが構造的に分離しているものと考えられる。第 2 次元と第 1 次元の寄与がともに大きいクラスター A の被験者は、クラスター E とクラスター C の特徴を合わせ持っているものと見られる。クラスター B とクラスター D は、第 1 次元、第 3 次元、第 4 次元の寄与が大きいので、一般的評価に加え、内面世界-外的事象、友人関係-非友人関係の分離基準が self-image の構造化において意味を持っているものと思われる。しかし、この 2 つのクラスターでは、 $R^2$  の平均が非常に低く、INDSCAL のモデルによって項目関係がうまく表現されていないことが示されている。

このような結果から見て、一部の被験者にとって、身体性と一般的評価の次元が特別な意味を持っていると言えるであろう。これらの被験者の  $R^2$  が高いことから、これらの次元は self-image の分離基準としてかなり決定的なものと考えられ

る。その一方で、内面世界-外的事象、友人関係の次元については、これらの次元だけを重視する被験者はいない。つまり、これらの次元は、他の分離基準と複合して self-image の構造化に関与している。しかも、この 2 つの次元を比較的重視するクラスター B, D の被験者の  $R^2$  が低いことから、これらの被験者の構造は、今回得られた 4 つの次元以外の次元によって説明されるどころが大きいように思われる。おそらく、このような多数の次元のいずれか、あるいは、その組合せによって、各個人の self-image の構造は説明されるものと考えられる。

最後に、問題点をまとめてみると、第 1 にあげられるのは、INDSCAL での  $R^2$  が低かったことである。 $R^2$  が 0.5 以上の被験者は 50 人中 15 人であり、全体の約 70% の被験者は、INDSCAL のモデルでは半分以下の説明しか為されなかったことになる。もう 1 つの問題は、すべての被験者によって重視される次元が発見されなかったことである。つまり、全被験者に共通する self-image の構造の特徴は発見できなかったことになる。この 2 点は、各被験者の self-image の構造が非常に多様性を持っており、今回被験者間の比較に用いられた方法では、それを十分に捉えることができなかったということを意味している。今回得られた 4 つの次元以外の次元を発見することができれば、より多くの被験者の構造を説明できるようになるものと思われるが、それには共通項目の選択を含めた方法の改善が必要であろう。

#### 4. まとめ

本章では、WAI 技法で得られた回答の間の関連性を調べ、そこから各個人の self-image の構造を分析する試みを紹介した。回答間の関連性を調べるためには、回答を被験者自身に分類させる方法と、被験者に回答を対呈示して関連の強さを評定させる方法がとられた。さらに、これらのデータに基づく解析結果を被験者に示して、インタビューが行なわれている。その結果、多くの被験者において、2 種類の方法で得られた回答間の相互関連性に整合性が認められた。この結果は、2

つの方法の妥当性を示すと同時に、self-image が個人の中で構造化されていることを示唆している。また、相互関連性の評価のデータを階層クラスター分析によって解析した結果について、多くの被験者が納得できると述べていることも、これを支持している。その他に、多次元尺度法による回答間の関係の分析も行なわれ、これらの方法を総合的に用いることによって、被験者の self-image の構造が把握されることが示された。

ところで、個人の自我やパーソナリティの構造を客観的に分析する試みは、従来あまりなされてこなかった。それは、このような研究では一般化可能な結果が得られないことや研究手法が十分に発達していないことによるところが大きい。しかし、個人を研究対象として分析することにより、たとえ一般化できなくても、貴重な知見が得られることも事実である。さらに、客観的な方法でデータを得ることができれば、研究者間の理解にも役立つであろう。Baldwin (1942) は、統計的な手法でパーソナリティの構造を分析し、これを“個人的構造分析 (Personal Structure Analysis)”と呼んだ。しかしこの分析は、計算機や統計手法が当時未発達だったことや、膨大な書簡を分析対象としていたために、1人の分析に100~200時間という大変な時間と労力を必要とした。今回の研究では、WAI技法とパーソナル・コンピュータを用いることにより、データ収集やインタビューを含めても数時間で self-image の構造分析を行なうことができるようになった。また、多数の被験者のデータ収集や、被験者へのフィード・バックも可能となった。データの収集・解析技法をさらに発達させることで、多くの被験者の self-image の構造をより正確に捉えることが可能となるであろう。

一方、各被験者はそれぞれの回答について、共

通項目による評定を行っており、それを用いて全被験者に共通する self-image の構造の特徴の分析が行なわれた。共通項目間の関連性を被験者ごとに求め、それを INDSCAL によって解析した結果、好悪や自己評価などを含めた一般的な評価の次元、身体性の次元、内面世界一外的事象の次元、友人関係の次元の4つの次元が得られた。これらは、self-image を構造化する際の特徴基準と考えられるが、すべての被験者によって重視される次元は発見されなかった。これは、すべての被験者に共通する self-image の特徴が見出せなかったことを意味している。また、各被験者の構造を INDSCAL のモデルが説明する割合も低かった。

このように、個人間の比較分析については、今回必ずしも満足できる結果は得られていない。これは、self-image の構造の個人差が大きく、被験者の構造を十分に捉えられなかったことが主な原因となっている。今後 self-image の構造の比較分析を進めて行くには、データ収集・解析技法の改善が必要と思われる。特に、ここでの共通項目の数は個人の多様性を表現するには少なく、項目の内容も、大学生を被験者としていたため限定されたものであった。このようなことを考慮すると、幅広い層の被験者を対象として研究を行なう場合、今回よりもかなり多くの項目数が必要になると思われる。しかし、項目数の増加によって被験者の負担も増加するため、被験者の評定能力を越える項目数が必要ならば、被験者以外の評定者が WAI 反応の評定を行なう方法も考えられる。このように研究手法を改善し、多数の被験者を対象とした研究が進められれば、より説明力のある self-image の構造の一般的なモデルが構築できるであろう。

# 5

## 事例分析の試み

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 1. 個人のパーソナリティ把握のための枠組み    | 47 |
| 2. WAI 技法と SCT (文章完成法テスト) | 48 |
| 3. 事例                     | 49 |
| 4. まとめ                    | 55 |

### 1. 個人のパーソナリティ把握のための枠組み

われわれのこれまでの分析は、おもに、WAI技法を集団に対して施行し、そこから self-image あるいは自我・自己に関する一般的な傾向を捉えようとするものであった。しかしその一方で、われわれは WAI 事例集を作成し、WAI 反応から個々人のパーソナリティを把握する試みも続けてきた(岩熊・楨田, 1991b; 楨田・岩熊, 1990; 楨田・岩熊・西村, 1992)。このようなパーソナリティの把握は、WAI 技法が自由回答法を用いており、個人の生きた姿が反応に現れているからこそ可能となったものである。しかし、WAI 反応から個々人のパーソナリティを把握するためには、何らかの枠組みが必要となる。そこで本節では、このような枠組みについて述べることにする。

パーソナリティの把握と言っても目的によって様々なものが考えられる。例えば、臨床的な場合では、おもに個人の抱える心理的な問題に焦点が置かれ、企業における人事考査の場合には、個人の職務遂行上の能力に焦点が置かれることになる

であろう。しかし、どちらも個人を理解するという意味においては、共通した目的を持っている。実際、人事考査において個人の抱える心理的な問題を把握したり、臨床場面において個人の能力的な側面を理解することも大きな意味を持つことがある。そういう意味では、目的によってその最終的な焦点は異なるにしても、まず個人の全体像を把握しておくことが必要と言えるであろう。

このような個人のパーソナリティの全体像を把握する上で、WAI 技法がある程度の有効性を持つことが、われわれの研究の過程で明らかになっている。その1つは、WAI 反応の内容分析の結果得られた基準書の大項目と、多くのパーソナリティ研究者 (e.g., Allport, 1937; Allport, 1961; Cattell, 1946; Eysenck, 1947; Lewin, 1935; Murray & Kluckhohn, 1953) の知見に基づき作成されたパーソナリティ・スキーム (楨田・佐野, 1965) との間に対応関係が認められたことである (e.g., 楨田・岩熊, 1990)。これは、WAI 反応にパーソナリティのほぼすべての側面についての記述が現れることを示している。さらに、基準書の小項目に対する個人の反応パターンを分析した結果、基準書の大項目とパーソナリティ・スキーム

の両者に対応する小項目のクラスターが得られた(岩熊・楨田, 1991a; 岩熊・楨田・1991b)。この2つの結果は、パーソナリティ・スキームに実証的な根拠を与えるだけでなく、WAI 技法がパーソナリティ把握において有効性を持つことも示唆している。

そこでわれわれは、これらの結果に基づき、パーソナリティ・スキームに手を加え、パーソナリティ把握に有効な枠組みとして用いることにした。表5-1に示されているように、このスキームでは、パーソナリティの全体が“社会・生物的基础”，“性格”，“指向”の3つに大きく分けられ、細かく分けると，“社会”，“家庭”，“身体”，“知能”，“気質”，“力動”，“指向”の7つになる。このスキームに従って、個人のパーソナリティを押し

さえて行けば、個人の大きな全体像が捉えられることになる。具体的には、スキームに従って、個人の情報を集め、最終的にそれらを総合的に分析するという方法をとる。このようにして個人のパーソナリティ・スケッチを描き出すことによって、個人のパーソナリティを包括的に把握することが可能となる。

## 2. WAI 技法と SCT (文章完成法テスト)

上記のようなパーソナリティ・スケッチを詳細に描くためには、様々な技法を用いる必要がある。例えば、知能を知るために知能検査を行ったり、身体についての情報を得るためには生理学的な測定を行なう必要があるかも知れない。もし、このような情報を詳細に集めるとすれば、膨大な時間と労力が必要となる。しかし、パーソナリティのすべての側面について、そのような詳細な情報が必要となる場合は少ない。むしろ、目的に応じて必要なものだけを詳細に捉え、それ以外は、大まかに押さえておけばこと足りることの方が多い。従って、このような大まかな全体像をなるべく簡便に捉える方法を考える必要がある。

このような目的のために有効な技法の1つがWAI 技法である。先にも述べたように、WAI 反応には、スキームのほぼすべての側面についての記述が現れることが示されており、しかも、WAI 技法は施行が比較的容易である。WAI 反応をスキームに従って整理していけば、ある程度のパーソナリティ・スケッチを描くことができる。また、WAI 技法で得られる反応は、被検査者が自発的に記述した内容である。従って、反応内容には被検査者が特に関心を持っている事柄が記述され、被検査者が“何に生きているか”ということも、そこに現れることになる。ところが、WAI 技法がこのような特性を持っているために、それが短所となる場合がある。それは、個々人の20 答の中にあらゆる側面についての記述が現れるのではなく、被検査者の関心に従って特定の側面に偏ることがあるということである。多くの個人のWAI 反応を全体的に見た場合には、スキームの

表 5-1 パーソナリティ・スキーム

|                                 |  |                                 |                                      |  |   |
|---------------------------------|--|---------------------------------|--------------------------------------|--|---|
| パ<br>ー<br>ソ<br>ナ<br>リ<br>テ<br>ィ | (社<br>会<br>ク<br>ラ<br>ス<br>・<br>生<br>物<br>的<br>A<br>基<br>礎) | 社<br>会                          | 社会的地位<br>経済的水準<br>住居の地域<br>親の職業      | 文<br>化<br>的<br>(<br>環<br>境<br>)        |   |
|                                 |  | 家<br>庭                          | 家族構成<br>家族と本人の関係<br>親のスタイル<br>家庭の雰囲気 |  |   |
|                                 |  | 身<br>体                          | 健康<br>体力<br>容姿<br>特技                 |  |   |
|                                 | ナ<br>リ<br>テ<br>ィ   | ク<br>ラ<br>ス<br>(<br>性<br>格<br>) | 知<br>能                               | 知能 (IQ) の程度<br>評価の客観性<br>見通し<br>精神的分化度 | 生<br>物<br>的<br>(<br>遺<br>伝<br>)                     |
|                                 |  |                                 | 気<br>質                               | 精神感性と気分要因<br>精神のテンポ<br>精神運動性           |   |
|                                 | イ  | ク<br>ラ<br>ス<br>(<br>指<br>向<br>) | 力<br>動                               | 安定 - 不安定<br>劣等感<br>欲求不満<br>頭躍性         | ラ<br>イ<br>フ<br>(<br>生<br>き<br>ざ<br>ま<br>イ<br>ル<br>) |
|                                 |  |                                 | 指<br>向                               | 願望<br>興味<br>生活態度<br>価値観<br>人生観         |   |

あらゆる側面についての記述が現れても、個々人の反応にあらゆる側面が現れるとは限らない。そのため、WAI 反応だけから描かれるパーソナリティ・スケッチは、個人の全体像とは言えない不完全なものとなることもある。

このような短所を補うためには、複数の技法を組合せて用いるテスト・バッテリーを構成することが有効である。われわれは、WAI 技法、SCT (精研式文章完成法テスト) (佐野・楨田, 1960), PRT (絵画空想法) (楨田・中野・伊藤, 1990), Dosefu (基本生活領域診断技法) (楨田・佐野, 1965) という4つの技法を組合せて施行し、パーソナリティの把握を行なっている。このうち、PRT は、TAT (主題統覚検査) を発展させたもので、スキームで言えばおもに力動的な側面を理解する上で有効な技法である。Dosefu は、Daily life, Objective, Social interest, Emotional, Fine and arts, Unique の頭文字をとったもので、これらに対する関心の強さを測定するように作られている。これは、スキームで言えば、指向的な側面を狙ったものと言える。

それに対して SCT は、パーソナリティをなるべく包括的に捉えられるように作成されている。例えば、成人用 SCT には、スキームのそれぞれの側面を狙った計 60 の刺激文が配置されている。被検査者はこれらの刺激文に続けて自由に文を書いて文章を完成させる。成人用 SCT の刺激文をスキームに従って便宜的に分類すると表 5-2 のようになる。SCT はあくまでも被検査者が自発的に反応するため、必ずしも狙った側面についての情報が得られるとは限らず、別の情報が得られることも多い。特に、知能や気質については、他の刺激文や反応の全体的な特徴 (e.g., 文体、筆跡) からも多くの情報を得ることができる。これによって、多少浅くとも、スキームのすべての側面についての情報が得られることになる。SCT には成人用の他に小学生用と中学生用があり、対象者に合わせて刺激文が設定されている。

もちろん、パーソナリティをより深く把握するためには、これら4つの技法に加えて、知能検査や面接などを施行する必要もある。しかし、パーソナリティのおおまかな全体像をより簡便に把握

表 5-2 成人用 SCT の刺激文

| スキーム | 刺激文   |  | 刺激文数 |
|------|---|--|------|
|      | Part I  | Part II  |      |
| 社会   | 1 子供の頃、私は<br>13 人々<br>18 仕事<br>20 童の中<br>28 職場<br>29 女  | 3 友だち<br>8 男<br>10 学校では<br>11 恋愛<br>18 金   | 11   |
| 家庭   | 3 家の暮らし<br>5 家の人を私は<br>9 私の父<br>17 もし私の母が<br>21 夫<br>25 私の兄弟 (姉妹)                             | 1 家では<br>6 私の母<br>12 もし私の父が<br>18 妻<br>23 結婚<br>26 家の人   | 12   |
| 身体   | 15 運動<br>27 私の顔   | 9 私の眼力<br>20 私の健康  | 4    |
| 知能   | 14 私ができないことは  | 15 私の頭脳  | 2    |
| 気質   | 2 私はよく人から<br>22 時々私は  | 4 私はよく<br>22 大部分の時間を   | 4    |
| 力能   | 4 私の失敗<br>6 私が得意になるのは<br>7 争い<br>24 私の不平は<br>30 私が悪いのは  | 2 私は不安にするのは<br>18 私の気持ち<br>21 私が残念なのは<br>24 調子のよい時<br>25 どうしても私は<br>30 私が忘れられないのは                      | 11   |
| 指向   | 8 私が知りたいことは<br>10 私がきらいなのは<br>11 私の服<br>12 死<br>16 将来<br>19 私がひそかに<br>23 私が心ひかれるのは<br>28 今までは | 5 もし私が<br>7 もう一度やり直せるなら<br>13 自殺<br>14 私が好きなのは<br>17 私の野心<br>27 私が羨ましいのは<br>28 年をとった時<br>29 私が努力しているのは | 16   |

計 60

する上では、WAI 技法と SCT だけからでもかなりの情報を得ることができる。われわれは、情報の必要性 (質・量)、時間的条件、被検査者の条件 (個人か集団か、年齢など) などにより、種々の組合せを行なっているが、簡便で効率的なのは WAI 技法と SCT の組合せである。

そこで本章では、WAI 技法と SCT による事例分析の例を示すことにする。

### 3. 事例

本節では、WAI 技法と SCT の両者を施行した事例を示し、そこから実際にパーソナリティ・スケッチを作成してみる。なお、巻末の「WAI・SCT 事例集」には、小学生から老人までの 22 の事例が掲載されているので参照されたい。

まず事例として、女子大学生の WAI と SCT の反応を示す。この事例では、なるべく原文に忠実に反応を掲載したが、被検査者のプライバシー保護のため、そのまま掲載できない固有名詞等は《 》の中に内容を示し省略した。WAI の番号に○が付けられているのは、被検査者自身が“自分らしい回答”として番号に○を付けたものである。SCT の反応でアンダーラインが引いてある部分は、SCT の刺激文である。

### 事例 22 才 女性 大学4年生

#### WAI

- 1 私は日本人です。
- ② 私は下町生まれ下町育ちの江戸っ子です。
- 3 私は《専攻名》の学生です。
- 4 私はもう子供ではないけれども、おとなでもありません。
- 5 私は女の子ですが、男の子っぽい女の子です。
- 6 私は甘えん坊です。
- ⑦ 私は人と友だちになるのが上手な方です。
- 8 私は、年齢を問わず幅広く人とつきあいます。
- ⑨ 私は子供と遊んでいる時の私が一番私らしいと思っています。
- 10 私はうそをつくのが下手です。
- 11 私は自分のことしか考えないわがままな人が嫌いです。
- ⑫ 私は容量が悪い方です。
- 13 私は頭が悪い方ではないけれども、決してよくありません。
- 14 私は自分に自信がなくなることが多いです。
- ⑮ 私は強い面の方が外に出やすいのですが、以外ともろい面もあります。
- 16 私はわりと意地っ張りです。
- 17 自信あるときの私は、本当に意気揚々としています。
- ⑯ 私は、気分のいい時と悪い時のギャップがはげしい方です。
- 19 私は地味な面と派手な面とどちらが本当の私かわからなくなることがあります。
- 20 私は自分が好きです。(といえるようになったのは最近ですが。)

#### SCT

##### Part I

- 1 子供の頃、私は 近所の友だちと、路地や空き地で遊んだ。
- 2 私はよく人から 元気だといわれる。
- 3 家の暮し は人並である。
- 4 私の失敗 は、数知れずあるが、長い目でみるとかえってそれでよかったということも多い。
- 5 家の人は私を まだまだ子どもだと思っているようだ。
- 6 私が得意になるのは 私のやってきたことを、まわりが評価してくれたときだ。
- 7 争い ごとは きれいです。
- 8 私が知りたいことは 私の 5 年後はどうなっているか ということだ。
- 9 私の父 は 子どものような人です。
- 10 私がきれいなのは 自分勝手な人です。
- 11 私の服 はカジュアルなものばかりですが、そんな格好が最も私らしくていいと思っています。
- 12 死 について 深く考えたことはあまりありません。
- 13 人々 の関心は、今 政界にあつまっているようです。
- 14 私のできないことは たった 1 人で生きていくことです。
- 15 運動 ならば何でも大好きです。
- 16 将来 , 素敵な母親になり、素敵な家庭をつくりたい。
- 17 もし私の母が 病気でたおれたりしたら、私は何よりも最も悲しい。
- 18 仕事 に夢中になっている自分が目にうかびます。
- 19 私がひそかに 思いを寄せている人がいます。
- 20 世の中 すべて思いどおりにいくとは限らないものだと改めて実感している今日この頃です。
- 21 夫 は、家庭を大事にし、子供が好きな人でないとイヤです。
- 22 時々私は ひどくむなしくなることがあります。

- 23 私が心をひかれるのは 子どもたちと自然の中で遊んでいる仲間たちの姿です。
- 24 私の不平は 今 思いきりあそべないことです。
- 25 私の兄弟(姉妹) とは最近ほとんど 話をしません。
- 26 職場では 楽しいことは あるのでしょうか。
- 27 私の顔 は笑っていないと こわい顔といわれてしまいます。
- 28 今までは 本当にいい友人に恵まれていたと思う。
- 29 女性として生まれて よかったかもしれない。
- 30 私が思いだすのは 過去一年間の楽しさです。

## Part II

- 1 家では 父と兄のけんかがしょっちゅうおこり、困ってます。
- 2 私を不安にするのは 母と父がつかれている時です。
- 3 友だち がたくさんいることが私の自慢です。
- 4 私はよく 少年のようだと いわれます。
- 5 もし私が 今 何をしてもいいといわれたら、自由気ままな旅がしたい。
- 6 私の母 は 働き者です。
- 7 もう一度やり直せるなら 大学生をもう一度やり直したい。
- 8 男 の人ってたいへんだなと思います。
- 9 私の眠り につく早さは なかなかのものです。
- 10 学校では いつも 元気に飛びはねていると言われている。
- 11 恋愛 は、いくつになっても し続けられたらいいと思う。
- 12 もし私の父が もう少し若かったら、一諸にスキーに行きたい。
- 13 自殺 したいと思ったことは あまりない。
- 14 私が好きなのは 子どもとあそぶことです。
- 15 私の頭脳 がもう少し よかったらな としばしば思う。
- 16 金 はあるにこしたことはないけど、それより今は時間がほしい。

- 17 私の野心 は あまりない方かもしれない。
- 18 妻 とよばれる日が来るのかな? と心配になることもある。
- 19 私の気持 をホッとさせてくれる友人に恵まれている。
- 20 私の健康 は いたって 良好です。
- 21 私が残念なのは、大学 4 年生の前期を就職活動で費やしてしまったことです。
- 22 大部分の時間を 今は就職活動につかっていることが悲しいけど、後期になったらこの時間をとりもどすつもりだ。
- 23 結婚 したいけど仕事もしたい——将来 私はこの問題にぶつかり続けるように思う。
- 24 調子のよい時 と悪い時のギャップがはげしいのが私の欠点でもあり、長所でもある。
- 25 どうしても私は 自分にうそがつけない。
- 26 家の人は 私のことを実はよくわかっていないのではないかと思うことがたびたびある。
- 27 私が羨ましいのは 容量のいい人です。
- 28 年をとった時 も、まだ子供たちと元気に遊んでいられるような、年を感じさせないおばあちゃんになりたい。
- 29 私が努力しているのは 私らしさを忘れないことです。
- 30 私が忘れられないのは 去年の充実した毎日です。

この事例に関して、フェイス・シート等から得られたサイド・インフォメーションを補足すると、1989 年の 4 月に施行されたもので、東京都内の大学の文学部に在籍する 4 年生である。住居は、ずっと東京都内であるが、22 才で都内で転居している。家族構成は、58 才の父、51 才の母、23 才の兄がいる。体格は、身長 156 cm、体重 49 kg となっている。このように、利用できる情報は積極的に用いた方がよい。

さて、この WAI と SCT の反応から、パーソナリティ・スケッチを作成してみよう。ここでは、パーソナリティ・スキームに従って WAI と SCT の反応を整理して、スケッチを作成していくことにする。なお、整理した反応は見やすくするために簡略化されており、文末の ( ) 内に反応番号

が示されている (W-: WAI; S-1-: SCT の Part I; S-2-: SCT の Part II)。

### 【社会】

基本属性:

- ・日本人 (W-1)
- ・子供ではないけれども, おとなでもない (W-4)
- ・男の子っぽい女の子 (W-5)
- ・女性として生まれてよかったかもしれない (S-1-29)
- ・《専攻名》の学生 (W-3)

生育環境:

- ・下町生まれ下町育ちの江戸っ子 (W-2)
- ・近所の友だちと, 路地や空き地で遊んだ (S-1-1)
- ・家の暮らしは人並 (S-1-3)

交友関係:

- ・友だちになるのが上手 (W-7)
- ・年齢を問わず幅広く人とつきあう (W-8)
- ・本当にいい友人に恵まれていた (S-1-28)
- ・友だちがたくさんいることが私の自慢 (S-2-3)
- ・気持ちをホッとさせてくれる友人に恵まれている (S-2-19)
- ・ひそかに思いを寄せている人がいる (S-1-19)

大学生活:

- ・大学生をもう一度やり直したい (S-2-7)
- ・学校ではいつも元気に飛びはねている (S-2-10)
- ・思いだすのは過去一年間の楽しさ (S-1-30)
- ・忘れられないのは去年の充実した毎日 (S-2-30)
- ・残念なのは, 大学4年生の前期を就職活動で費やしてしまったこと (S-2-21)

職業・結婚:

- ・大部分の時間を就職活動につかっている (S-2-22)
- ・仕事に夢中になっている自分が目にうかぶ (S-1-18)
- ・職場では楽しいことはあるのでしょうか (S-1-26)
- ・素敵な母親となり, 素敵な家庭をつくりたい (S-1-16)
- ・結婚したいけど仕事もしたい (S-2-23)

社会への関心・態度:

- ・人々の関心は, 今政界にあつまっている (S-1-13)
- ・世の中, 思いどおりにいくとは限らない (S-1-20)

基本属性では, 大人でも子供でもないという年齢的な不安定さを感じさせ, 性的な同一性についても, 女性であることに肯定的ではあるが, 男の子のように振舞っていることがうかがわれる。生育環境は下町であり, 経済的には特に問題はないようだ。交友関係は広く, 友人に対して肯定的な感情を持っていることがわかる。また, 好きな異性もいるようだ。従って, 就職活動に費やされた大学4年生の前半を除いて, 大学生活に対して肯定的である。社会に対する関心はあまり強いようではないが, 政治的な問題についての言及もわずかに見られる。そして, おそらく就職活動をしたの実感として, “世の中思いどおりにいかない” という反応が出たものと思われる。

### 【家庭】

父母:

- ・私の父は子どものような人 (S-1-9)
- ・もし私の父がもう少し若かったら, 一緒にスキーに行きたい (S-2-12)
- ・私の母は働き者 (S-2-6)
- ・母が病気でたおれたりしたら, 何よりも悲しい (S-1-17)
- ・私を不安にするのは母と父がつかれている時 (S-2-2)

兄弟:

- ・兄弟(姉妹)とは最近ほとんど話をしない (S-1-25)

家族関係:

- ・家の人はまだまだ子どもだと思っている (S-1-5)
- ・家的人是私のことを実はよくわかっていないのではないか (S-2-26)
- ・父と兄のけんかがしょっちゅう (S-2-1)

将来の家族像:

- ・将来, 素敵な母親になり, 素敵な家庭をつくりたい (S-1-16)

- ・結婚したいけど仕事もしたい (S-2-23)
- ・妻とよばれる日が来るのか心配になる (S-2-18)
- ・夫は、家庭を大事にし、子供が好きな人でないとイヤ (S-1-21)
- ・できないことはたった1人で生きていくこと (S-1-14)

父母の具体的な職業は不明であるが、父は子供っぽく、母親は働き者のようだ。兄弟は兄がいるが、あまり親密ではない。父と兄がよくけんかをするようだ。両親に対しては概ね肯定的で、依存性も見られるが、自分をよく理解していないという不満もある。将来は、子供好きであるため、結婚して家庭を大事にしたいが、仕事もしたいとアンビバレントであり、まだ明確な将来像はできていないようだ。

#### 【個体】

健康:

- ・元気だといわれる。(S-1-2)
- ・眠りにつく早さはなかなかのもの (S-2-9)
- ・健康はいたって良好 (S-2-20)

容姿:

- ・男の子っぽい女の子 (W-5)
- ・少年のようだといわれる (S-2-4)
- ・笑っていないとこわい顔といわれる (S-1-27)
- ・私の服はカジュアルなものばかり (S-1-11)

運動:

- ・運動ならば何でも大好き (S-1-15)
- ・もし私の父がもう少し若かったら、一緒にスキーに行きたい (S-2-12)

健康状態には全く問題なく、エネルギーがあることもうかがえる。容姿は少年のようだという記述があり、服装もそれに合わせたものと思われる。運動は全般に好きで、スキーもやるようだ。

#### 【知能】

- ・頭が悪い方ではないけれども、決してよくもない (W-13)
- ・頭脳がもう少しよかったらなと思う (S-2-15)
- ・容量が悪い方 (W-12)

- ・羨ましいのは容量のいい人 (S-2-27)

知能に関する自己評価は、「悪い方ではない」とあり、決して低くないことがうかがわれるが、まだ不満があるようだ。「容量（おそらく“要領”の誤字）が悪い方」とあるが、これは知能そのものと言うよりも **social skill** を指しているものと思われる。文章もしっかりしており、IQ も高いものと思われる。

#### 【気質】

対人指向:

- ・人と友だちになるのが上手 (W-7)
- ・年令を問わず幅広く人とつきあう (W-8)
- ・できないことはたった1人で生きていくこと (S-1-14)
- ・恋愛は、いくつになってもし続けられたらいい (S-2-11)
- ・私の気持ちをホッとさせてくれる友人に恵まれている (S-2-19)

子供好き:

- ・子供と遊んでいる時の私が一番私らしい (W-9)
- ・好きなのは子どもとあそぶこと (S-2-14)
- ・子供たちと元気に遊んでいられるようなおばあちゃんになりたい (S-2-28)

活動性:

- ・よく人から元気だといわれる (S-1-2)
- ・不平は今思いきりあそべないこと (S-1-24)
- ・学校ではいつも元気に飛びはねている (S-2-10)
- ・金より時間がほしい (S-2-16)

意欲:

- ・仕事に夢中になっている自分が目にうかぶ (S-1-18)
- ・結婚もしたいけど仕事もしたい (S-2-23)

適応の悪さ:

- ・容量が悪い方 (W-14)
- ・羨ましいのは容量のいい人 (S-2-27)
- ・わりと意地っ張り (W-16)
- ・どうしても自分にうそがつけない (S-2-25)
- ・うそをつくのが下手 (W-10)

男性的:

- ・男の子っぽい女の子 (W-5)

- よく少年のようだと いわれる (S-2-4)
- 顔は笑っていないとこわい顔といわれてしまう (S-1-27)

#### 自己指向:

- 得意になるのは私のやってきたことをまわりが評価してくれたとき (S-1-6)
- 自分が好き (W-20)
- 努力しているのは私らしさを忘れないこと (W-2-29)

対人指向が強く、子供好きで、活動性が高いという点からは循環気質とも見えるが、他の気質でも対人指向の強い場合は多い。また、活動性の高さはエネルギーがあることを示しているとも見ることができ、意欲の強さがそれを裏付けている。一方、適応があまりよくない点や自己を指向する傾向は、むしろ粘着気質や分裂気質の特徴と言える。ただし、分裂気質ではこれほどエネルギーがあるとは考えられない。さらに、容姿や行動が男性的なのは、粘着気質に時々見られる傾向である。これらを総合的に見ると、この事例は粘着気質が基本であることがわかる。

#### [力動]

##### 気分の波・不安定性:

- 気分のいい時と悪い時のギャップがはげしい方 (W-18)
- 調子のよい時と悪い時のギャップがはげしい (S-2-24)
- 自信あるときは、意気揚々としている (W-17)
- 時々私ひどくむなしくなる (S-1-22)
- 自分に自信がなくなることが多い (W-14)

##### 二面性:

- 強い面の方が外に出やすいが、以外ともろい面もある (W-15)
- 地味な面と派手な面とどちらが本当の私かわからなくなる (W-19)

##### 未成熟:

- 家の人は私をまだ子どもだと思っている (S-1-5)
- よく少年のようだと いわれる (S-2-4)

##### 依存性:

- できないことはたった 1 人で生きていくこと (S-1-14)
- 私を不安にするのは母と父がつかれている時 (S-2-2)
- 母が病気でたおれたりしたら、何よりも悲しい (S-1-17)

気分には波があり、不安定であることがわかる。一般に思春期には不安定性を示す場合がよくあるが、不安定性は強い方と言えるであろう。また、子供っぽく、依存的な傾向があり、未成熟な方と言える。これらの不安定性や未成熟性は、ヒステリー性格の特徴であるが、もう 1 つの特徴である顕耀性（自己顕示的な傾向）はあまり認められない。

#### [指向]

##### 自己態度:

- 自分が好き (W-20)
- 女性として生まれてよかったかもしれない (S-1-29)
- 得意になるのは私のやってきたことを、まわりが評価してくれたとき (S-1-6)
- 自殺したいと思ったことはあまりない (S-2-13)
- 頭が悪い方ではないけれども、決してよくもない (W-13)
- 頭脳がもう少しよかったらと思う (S-2-15)
- 自分に自信がなくなることが多い (W-14)
- 子供と遊んでいる時の私が一番私らしい (W-9)
- 服はカジュアルなものばかり、そんな格好が最も私らしくていい (S-1-11)
- どうしても自分にうそがつけない (S-2-25)
- 努力しているのは私らしさを忘れないこと (S-2-29)

##### 過去:

- 思いだすのは過去一年間の楽しさ (S-1-30)
- 忘れられないのは去年の充実した毎日です (S-2-30)
- 大学生をもう一度やり直したい (S-2-7)
- 失敗は数知れずあるが、長い目でみるとかえってそれでよかった (S-1-4)

現在:

- 不平は今思いきりあそべないこと (S-1-24)
- 金より今は時間がほしい (S-2-16)
- 自由気ままな旅がしたい (S-2-5)

将来:

- 知りたいことは私の5年後はどうなっているかということ (S-1-8)
- 仕事に夢中になっている自分が目にうかぶ (S-1-18)
- 結婚したいけど仕事もしたい (S-2-23)
- 夫は、家庭を大事にし、子供が好きな人でないとイヤ (S-1-21)
- できないことはたった1人で生きていくこと (S-1-14)
- 子供たちと元気に遊んでいられるようなおばあちゃんになりたい (S-2-28)
- 野心はあまりない方かもしれない (S-2-17)

子供:

- 好きなのは子どもとあそぶこと (S-2-14)
- 子供と遊んでいる時の私が一番私らしい (W-9)
- 心をひかれるのは子どもたちと自然の中で遊んでいる仲間たちの姿 (S-1-23)

友人:

- 本当にいい友人に恵まれていた (S-1-28)
- 友だちがたくさんいることが私の自慢 (S-2-3)
- 気持ちをホッとさせてくれる友人に恵まれている (S-2-19)
- 心をひかれるのは子どもたちと自然の中で遊んでいる仲間たちの姿 (S-1-23)

対人的好み:

- 自分のことしか考えないわがままな人が嫌いです。(W-11)
- きらいなのは自分勝手な人です (S-1-10)

運動:

- 運動ならば何でも大好き (S-1-15)
- 父がもう少し若かったら、一緒にスキーに行きたい (S-2-12)

自己に対しては概ね肯定的な態度を持っており、女性であることにも肯定的である。自己の能力にもある程度の自信を持っているが、自信をなくすこともあるようだ。また、自分らしくありた

いという欲求もある。過去に対しても肯定的で、特に大学生活に対しては愛着がある。ただし、現在の状況には、就職活動のために自分の時間が持てないという不満がある。将来像は、仕事に生きることと家庭を築くこととの両者に対しアンビバレントな感情を持っており、明確な将来像が描けていないようだ。対人関係に関心があり、友人と子供に対して肯定的な態度を持っているが、わがままな人間は嫌いなようだ。その他に、運動も好きである。

以上、スキームに従ったパーソナリティ・スケッチの作成例を示した。この例を見てもわかるように、WAI 技法と SCT によって個人の全体像がある程度把握できると言えるであろう。もちろん、部分的には不明な点や疑問点も残ることもある。しかし、もし必要ならば、これらに焦点を絞って、他の方法で情報を収集すれば、これらを補足することはできる。そういう意味では、まず、WAI 技法と SCT を施行し、その後、不足した情報を他の手段で補うという手続きが効率的と言えるであろう。

#### 4. まとめ

本章では、WAI 技法と SCT を用いた個人のパーソナリティ把握について述べた。そして、WAI 技法と SCT を併用することによって、比較的簡便に個人のパーソナリティの全体像を把握できることが示された。本節では、WAI 技法と SCT によるパーソナリティ把握について簡単にまとめておく。

われわれは、まず、個人のパーソナリティを把握するための枠組みとしてパーソナリティ・スキームを示した。これは、多くの研究者の知見とわれわれの分析結果に基づいて作成されたもので、パーソナリティを全体的に捉える上で考慮すべき側面が示されている。この枠組みに従って、個人を把握していくことによって、個人の全体像を捉えることができる。

このスキームに従って個人を把握するためには、個人の様々な情報が必要となる。そこで、様

々な検査技法を施行する必要も出てくるが、多少浅くとも、より簡便に全体的な情報を得る上では、WAI 技法と SCT を組合せて施行することが有効と言える。WAI 技法では、個人の自発的な反応による個人の記述が得られ、SCT では、スキームのあらゆる側面に関する情報が得られるように刺激文が配置されている。しかも、これらを施行するのは比較的簡単で、被検査者が自宅で施行することも可能である。施行時間も WAI 技法が 15~30 分程度、SCT が 1 時間程度である。

得られた反応を分析する手続きは、スキームの各側面に関連する情報を反応の中から集め、それを整理して、各側面ごとにまとめていくというものである。このようにして、個人像を描き出していけば、個人の全体像が浮かび上がってくる。また、不明な点や疑問点も自ずと明らかになる。そして、必要があれば、さらに情報を収集すれば、効率的に個人のパーソナリティを把握できる。

一方、問題点も残されている。例えば、スキームの指向は漠然としているため、下位の項目が必要と思われる。例えば、「自己評価」「価値観」「関心」などの項目を設定することも考えられるが、別の枠組みとしては、Murray (1938) が TAT の分析に用いた欲求のリストや、われわれが別の調査に用いている《自己》《プライマリー・グループ》《セカンダリー・グループ》《自然 (モノ)》《超越者》という態度対象についてのスキームなども考えられる (榎田・小林・渡辺・岩熊・西村, 1992)。また、知能や性格 (気質・力動) などは、反応からこれらに関する情報を抽出する手続きがあまり明確でないという問題もある。しかし、これらの問題点も、今後事例分析を重ねることにより、次第に改善されていくものと思われる。また、様々な目的に従って、分析手続きにバリエーションを作り出すことも可能であろう。

# 6

## 総括と展望

|              |    |
|--------------|----|
| 1. 研究の総括     | 57 |
| 2. 分析結果の意味づけ | 58 |
| 3. 今後の展望     | 60 |

このモノグラフでは、これまでのわれわれの研究において残されていた課題に注目し、これらに対する分析を行なった。その課題とは、回答の出現順序の問題、「自分らしい」回答の問題、そして、WAI 技法による個人理解の試みである。本章では、まず、今回の研究で得られた結果を総括し、さらに、今後の展望について述べる。

### 1. 研究の総括

まず、第2章では、回答の出現順序についての分析を示した。数量化 III 類による分析の結果、出現順序による回答内容の変化を反映した3つの次元が得られた。それは、「記述の主観性」の軸、「自己一外的対象」の軸、「加齢」に関連する軸であった。この中では特に、記述の主観性と回答の出現順序の関係が強く、WAI 技法では、最後(第20答)に近づくに従って、回答内容が被験者の評価や解釈を含んだものとなることが示された。また、これらの次元は、年齢とも強く関連しており例えば、記述の主観性は加齢に伴って強くなることが示された。さらに、これらの次元に基づきクラスター分析を行なった結果、被験者は4つのク

ラスターに分類され、得られたクラスターは年齢とも明確な関連を示した。

第3章では、「自分らしい」回答、即ち、特に自分らしいものとして、被験者が○を付けた回答についての分析を行なった。ここでも数量化 III 類が用いられ、出現順序の分析で得られたのとはほぼ等価の次元を得た。これと自分らしさや年齢などとの関連を分析した結果、自分らしいとされる回答の方が記述の主観性が強いという結果を得た。また、各次元と年齢との関連についても、第2章と類似した結果を得ている。

WAI 技法による個人理解の試みの1つとして、第4章では回答間の相互関連性の分析を取り上げた。これは、大学生 50 名を被験者とした実験研究である。ここでは、各個人に自分の反応した20答間の関連の強さを、分類と親近性の一対評定という2種類の手続きによって測定し、個人内の self-image の構造の把握を試みた。その結果、2つの手続きで得られた結果は整合性を持つことが示された。また、得られた関連性データに基づいた構造分析の結果は、被験者自身にとっても納得できるものであり、このような方法が個人を理解する上で有効であることが示唆された。

第5章においても、WAI 技法による個人理解の試みとして、SCT（文章完成法テスト）を併用したパーソナリティ・スケッチについて述べた。ここでは分析の枠組みとして、多くのパーソナリティ研究者の知見とわれわれの self-image の分析結果に基づいて作成されたパーソナリティ・スキームが用いられている。これは、パーソナリティを包括的に捉えるために作成されたもので、社会、家庭、個体、知能、気質、力動、指向の7つの側面が含まれている。WAI 技法と SCT によって得られた反応をこのスキームに従って整理することによって、個人の全体像を包括的に捉えることができる。ここでは、パーソナリティ・スケッチの作成の具体的な手続きを女子大学生の1事例を用いて示したが、巻末の資料には、小学生から老人までの WAI と SCT の事例が 22 例掲載されている。

今回の分析結果を簡単にまとめると以上のようになる。次節では、これらの結果の持つ意味を考えてみたい。

## 2. 分析結果の意味づけ

今回の分析結果は、大きく分けて2つの視点から考えることができる。1つは WAI 反応の一般的傾向に関する問題、もう1つは WAI 技法による個人理解の問題である。1つめの視点には、出現順序の分析、自分らしい回答の分析があたり、2つめの視点には、回答の相互関連性の分析と SCT を併用した個人理解の試みがあたる。ここでは、この2つの視点から分析結果について考察を加える。

### 【WAI 反応の一般的傾向】

今回の出現順序の分析と自分らしい回答の分析においては、数量化 III 類が用いられ、多くの個人から得られた WAI 反応を構造的に理解する試みが為されている。この他にも数量化 III 類を用いたものとして、全体的な反応パターンの分析も行なわれている（岩熊，1991；岩熊・楨田，1991a；岩熊・楨田，1991b）。この分析では、個人を分析単位として、基準書の小項目の反応パターンを数

量化 III 類で分析している。これらの分析では、多くの個人から得られた反応を分析対象としており、WAI 技法で得られる反応全体を構造的に理解しようとしている。

数量化 III 類による一連の分析結果を見ると、軸の解釈は若干異なるが、得られた小項目の布置自体はかなり類似している。これは、類似した分析手続きが用いられていることが理由の1つとなっている。その分析手続きとは、各 WAI 反応を基準書によって分類し、小項目を分析カテゴリーとして数量化 III 類によって分析するというものである。しかし、分析単位はそれぞれ異なっている。出現順序の分析では、個人の全回答を出現順序に従って4分割したものであり、自分らしさの分析では、自分らしさの○の有無に従って2分割している。そして、全体的な反応パターンの分析では個人を分析単位としており、個人の全反応を分析単位としている。これらの結果が類似しているということは、分析単位が異なっても、反応パターンが総体的に見て類似していることを示している。

しかしこの結果だけからでは、個々人の反応パターンが異なる分析単位の間で類似しているとは言えない。それを確認するためには、各分析単位に与えられたサンプル・スコアを調べる必要がある。出現順序と自分らしさの分析結果を見ると、出現順序や自分らしさという個人内の要因の変動も有意ではあるが、個人差を反映したクラスターの方がより大きな変動を示している。これは、分析単位が異なっても、個人の反応パターンがある程度一貫していることを示唆している。そして、得られた構造は、このような個人内に一貫して見られる反応パターンを反映していると言うことができる。

ところで、このような構造は何を意味しているのであろうか。まず言えることは、この構造が WAI の反応内容の個人差を強く反映したものだということである。つまり、多様な反応内容のそれぞれを要素とし、1人の個人の反応内容がなるべく近接するように布置したものである。多様な反応内容とは、小学生から老人までの男女、数千～1万名以上にも及ぶ被験者から得られたもの

であり、あらゆる反応内容とは言えないまでも、一般化可能な多様性を持っている。しかも、この構造には、出現順序や自分らしさなどの個人内の変動もシステムティックに反映されている。

そういう意味では、この構造は *self-image* の全貌を一般的に理解する上で有効なものと言える。そこで、これまでに得られた結果を整理して、*self-image* の一般的な性質について考えてみよう。まず、年齢については、児童期から青年期にかけては記述の主観性が増し (e.g., 基本属性→性格・自己評価)、青年期以降は記述の内容が外的な対象 (e.g., 日常生活, 家族) に移っていく。また、これら以外にも年齢による記述内容には違いがある (e.g., 学校 *vs.* 職場・職業; 両親 *vs.* 孫)。性別については、年齢ほど明確ではないが、女性の方が記述の主観性が強い。また、出現順序が終わりの方の反応は、初めのものよりも強い主観性を帯びる。そして、自分らしい回答はそれ以外の回答と比べて強い主観性を帯びている。これらの結果を見てもわかるように、特に記述の主観性が様々な変数と関連を持っている。また、これは数量化 III 類で得られた構造において最も説明力を持った次元となっている。これは、*self-image* に主観性を強く帯びたものとそうでないものがあり、そこに個人差、発達差、性差が現れ、個人内においても大きな変動があることを示唆している。主観性の問題は、第 2 章の考察において述べたのでここでは詳しく触れないが、*self-image* や自我・自己を考える上で重要な意味を持っていると言えるであろう。

### [WAI 技法による個人の理解]

このモノグラフでは、WAI 技法による個人理解の試みとして、2つのアプローチを示した。1つは WAI 反応間の相互関連性の分析であり、もう1つは SCT を併用したパーソナリティ・スケッチである。この両者に共通することは、WAI 技法そのもの以外から得られた情報を利用している点である。WAI 技法だけで十分に個人を理解するのは難しいが、他の情報も利用することによってより包括的に個人を理解することができる。しかしそのためには、WAI 技法の特性をよく理解

した上で、どのような情報と組合せるべきかを検討しておく必要がある。

相互関連性の分析では、被験者自身の WAI 反応を刺激とした反応の分類や一対評定などに加えて、分析結果を呈示した面接も行なわれている。この分析において、個人理解を行なう上での WAI 技法の長所が示された。その1つは、被験者が自己の反応に対して強く自我関与していることである。例えば、反応の分類や面接において、被験者が積極的に反応することもそれを示している。WAI 反応は自発的に反応した *self-image* なので、これはある意味で当然のことと言えるが、これは個人理解においては非常に重要な特性と言える。Allport (1943) も指摘しているように、自我関与があるか否かはテストそのものの信頼性にも関わる問題でもある。それ以上に重要な点は、面接でも示されたように、自我関与のあることをテーマとすることによって、被験者は自発的に自分自身を表現するようになることである。そういう意味では、個人理解に WAI 技法を役立てる1つの方向は、WAI 反応を用いた面接と言えるであろう。ただし、面接の具体的な手続きについては、ここで示されたようなものが最もよいものとは言えない。目的やその他の条件も考慮して、より有効な手続きを考えていく必要があろう。

WAI 技法を含むテスト・バッテリーについては、第 5 章において SCT との併用によるパーソナリティ理解について述べた。情報量だけから言えば、明らかに WAI 技法よりも SCT の方が有効と言える。SCT はパーソナリティ・スキームを考慮して刺激文が配置されているため、多少浅くともパーソナリティ全体の情報を得ることができる。実際、SCT だけによるパーソナリティ診断も行なわれている。しかし、WAI 技法を加えることによって情報量は増し、パーソナリティ把握は SCT だけによるものよりも正確なものとなる。WAI 技法ではどのような情報が得られるかはあまり明確ではないが、内容分析の結果を見ると、スキーム全般についての情報が得られることが示されている。また、特に指向的側面についての情報が多く得られることもわかっている。テスト・バッテリーにおける WAI 技法の役割の1つ

は、SCT で得られた情報の補足、特に、指向的側面の情報を得ることと言える。

さらに、WAI 技法には SCT がない長所がある。SCT と WAI 技法の違いを簡単に言えば、SCT が聞きたいことを聞く技法であるのに対し、WAI 技法は言いたいことを言わせる技法だということである。WAI 技法は、被検査自身が選択した内容のみが記述される。例えば、仕事のことばかりが記述されていれば、家族や身体などについてほとんど情報を得ることはできないが、その個人の関心が仕事にあり、彼がまさに「仕事人間」であることがわかる。これは、被検査者が何に生きているか、被検査者の心が何に向いているかを示している。これはスキームで言えば指向的側面とも言えるが、別の見方をすれば、スキーム全体、即ち、パーソナリティ全体の中のどこが、個人にとって重要な意味を持っているかを示しているとも言える。つまり、個人が何を中心として自己を統合しているかが示されていると言えるであろう。このように、WAI 技法をパーソナリティ理解に役立てるもう1つの方向は、自己の統合の仕方を知る手がかりとすることである。多くの技法によって得られた様々な情報をまとめあげる際に、WAI 技法から得られた指向性や統合の仕方を考慮することによって、より生き生きとしたパーソナリティとして個人を把握できる。

### 3. 今後の展望

「組織行動研究」に1990年より4年にわたって掲載してきた「WAI 技法を用いた自我の実証的研究」も、本号で一応の決着を見たことになる。しかし、WAI 技法についてもいくつかの課題は残されており、さらに、自我・自己の問題については、まだ研究の端緒にたどり着いたに過ぎない。そこで、本節では、WAI 技法、自我・自己の研究についての展望について述べておく。

WAI 技法については、これまで WAI 反応の内容分析とその頻度分析を中心に行ってきた。

そして、内容分析の結果は「基準書」という形でまとめられている。また、頻度分析については、基準書を用いて小学生から老人までの男女、数千～1万数千の被験者の反応が分析されている。従って、内容と頻度の全体的な把握は一応終了したと言える。ただし、別の視点からの反応カテゴリーの作成や、領域を限定したより細かいカテゴリー作成なども可能と思われる。また、反応頻度と被験者の属性との関連については、これまでに行なわれているのが性別と年齢の分析だけであるため、他の属性との関連の分析は今後の課題と言えるであろう。

WAI 技法による個人理解については、まず、事例の蓄積が今後の重要課題である。特に、より多様なケース、例えば、精神病患者や特殊な経歴を持つ個人を分析することにより新たな知見が得られるものと考えられる。分析手続きについても改善が必要であろう。より容易で、生き生きとした個人像を得られるような分析手続きを考えていく必要があるが、さらに、臨床、教育、人事などの様々な応用場面に合わせた手続きの開発も望まれる。また、これについてはテスト・バッテリーに関する研究も重要となるであろう。

自我・自己の問題に関しては、われわれは多くの研究成果を得ているが、これらはまだ十分に整理されているとは言えない。得られた結果を整理し、自我・自己の問題とどのように結び付けて行くかが今後の大きな課題と言えるであろう。特に、self-image, 自我, 自己, パーソナリティといった基本概念の規定においても、われわれの実証研究の成果を何らかの形で活かすことが可能かも知れない。

自我・自己の問題は心理学において、近年ますますその重要性を認識されつつある。しかしその解決には、これからも多くの実証的研究と理論的な思索が必要とされるであろう。WAI 技法やわれわれの研究成果が、それに少しでも役立つよう今後も研究を続けていく所存である。

## 引用文献

- Allport, G. W. 1937 *Personality: A psychological interpretation*. New York: Holt, Reinhart & Winston.  
(詫摩武俊・青木孝悦・近藤由紀子・堀正訳 1982 パーソナリティ ——心理学的解釈—— 新曜社)
- Allport, G. W. 1943 Ego in contemporary psychology. *Psychological Review*, **50**, 451-478.
- Allport, G. W. 1961 *Pattern and growth in personality*. New York: Holt, Reinhart & Winston.  
(今田恵監訳 1968 人格心理学 (上・下) 誠信書房)
- Baldwin, A. L. 1942 Personal structure analysis: A statistical method for investigating the single personality. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, **37**, 163-183.
- Cattell, R. B. 1946 *Description and measurement of personality*. New York: World Book.
- Eysenck, H. J. 1947 *Dimensions of personality*. London: Routledge & Kegan Paul.
- 古沢厚子・星野命 1962 自己記述にあらわれた自己態度の安定性 国際基督教大学学報 1-A, 教育研究, **9**, 97-124.
- Gordon, C. 1968 Self-conceptions: Configurations of content. In C. Gordon, & K. J. Gergen (Eds.), *The self in social interaction*. Vol. 1. *Classic and contemporary perspectives*. New York: Wiley. Pp. 115-136.
- 岩熊史朗 1986 WAI を用いた自我の研究 ——Self-Image の相互関連性について—— 慶應義塾大学社会学研究科修士論文 (未公開)
- 岩熊史朗 1991 WAI 技法を用いた自我の実証的研究 ——Self-Image の内容と構造の分析—— 慶應義塾大学社会学研究科博士論文 (未公開)
- 岩熊史朗・榎田 仁 1989 個人のセルフ・イメージの構造 ——大学生を被験者とした WAI 反応の相互関連性の分析—— 心理学研究, **60**, 237-244.
- 岩熊史朗・榎田 仁 1991a セルフ・イメージの発達の变化 ——WAI 技法に対する反応パターンの分析—— 社会心理学研究, **6**, 155-164.
- 岩熊史朗・榎田 仁 1991b WAI 技法を用いた自我の実証的研究 (2) 組織行動研究 (慶應義塾大学産業研究所), No. 28. (Vol. 19)
- 川喜田二郎 1967 発想法 中公新書
- Kruskal, J. B., & Wish, M. 1978 *Multidimensional scaling*. Beverly Hills, CA: Sage.  
(高根方雄訳 1980 人間科学の統計学 I 多次元尺度法 朝倉書店)
- Kuhn, M. H., & McPartland, T. S. 1954 An empirical investigation of self-attitudes. *American Sociological Review*, **19**, 68-76.
- Lewin, K. 1935 *A dynamic theory of personality*. New York: McGraw.  
(相良守次・小川隆訳 1957 パーソナリティの力学説 岩波書店)

- 榎田 仁・岩熊史朗 1990 WAI 技法を用いた自我の実証的研究 (1) 組織行動研究 (慶應義塾大学産業研究所), No. 25. (Vol. 16)
- 榎田 仁・岩熊史朗・西村麻由美 1992 WAI 技法を用いた自我の実証的研究 (3) 組織行動研究 (慶應義塾大学産業研究所), No. 30. (Vol. 21)
- 榎田 仁・小林ポオル・兼高聖雄 1992 筆跡性格学入門 金子書房
- 榎田 仁・小林ポオル・渡辺秀樹・岩熊史朗・西村麻由美 1992 現代日本人の生き方 ——生活観の構造と変容その1—— 組織行動研究 (慶應義塾大学産業研究所), No. 31. (Vol. 22)
- 榎田 仁・中野敬子・伊藤隆一 1990 PRT・絵画空想法入門 ——PRT 図版による新しいTAT—— 金子書房
- 榎田 仁・佐野勝男 1965 Dosefu-Test 基本生活領域の診断 ——テスト解説—— 金子書房
- Murray, H. A. 1938 *Explorations in personality: A clinical and experimental study of fifty men of college age*. New York: Oxford University Press.
- (外林大作訳編 1961 パーソナリティ (I・II) 誠信書房)
- Murray, H. A., & Kluckhohn, C. 1962 Outline of a conception of personality. In C. Kluckhohn, H. A. Murray, & D. M. Schneider (Eds.), *Personality in nature, society, and culture*. 3rd ed. New York: Knopf. Pp. 3-49.
- 西村春夫・星野命 1964 自己態度の記述の心理的負荷について 科学警察研究所報告 (防犯少年編), 5(2), 13-28.
- 佐野勝男・榎田 仁 1960 精研式 文章完成法テスト解説 ——成人用—— 金子書房
- 佐野勝男・榎田 仁・坂部先平 1985 精研式 パーソナリティ・インベントリィ 改訂版手引 金子書房
- 高垣忠一郎 1974 TST にあられた反応の心理的負荷について 京都大学教育学部紀要, 20, 209-227.
- Young, F. W., & Lewycky, R. 1979 *ALSCAL-4 user's guide*. 2nd ed. Chapel Hill, NC: University of North Carolina, Psychometric Laboratory.

## WAI・SCT 事例集

この事例集には、WAI技法とSCTを施行した、小学生から老人までの22事例が掲載されている。事例の選択に際しては、なるべく典型的なものの特異なものとの両者を含めるように配慮した。

各事例は、被験者の反応を忠実に掲載しようと極力努めた。WAIの各回答は、回答番号をつけて1つずつ掲載してあり、その回答に自分らしいものとして○が付けられている場合、回答番号を○で囲んである。SCTの刺激文にはアンダーラインを引いた。回答の中には、プライバシーの保護や印刷の都合からそのまま掲載できなかった部分もある。それについては以下のような変更を加えて掲載した。

- ① プライバシー保護の立場から、そのまま掲載することができない固有名詞は、《 》の中に説明を入れて省略を行なった。
- ② 被験者自身が反応内容の削除を行なっている部分は、■を用いてある。
- ③ 文字や文章が、各行の上や下から挿入されているものは、{ }の中に入れて印刷してある。
- ④ その他に説明が必要なものについては、※を用いて回答の後で説明するか、あるいは【注：】として反応の中で説明を加えた。

なお、各事例の後には、パーソナリティ・スキームに従った簡単なパーソナリティ・スケッチを付けた。ただし、紙面の都合もあるので、特記事項がない場合は部分的に省略を行なったところもある。

## 小学生

事例 1 12才 男性 小学校6年生

## WAI

- 1 男です
- 2 《氏名》です
- 3 《現住所》にすんでる

- 4 こんど 中1 になります。
- 5 《生年月日》にうまれた。
- 6 小学校は《学校名》です
- 7 中学校は《学校名》です
- 8 今 12才です
- 9 4人かぞくです
- 10 うさぎをかっています
- 11 にわとりをかっていた。
- 12 マンガがすきです
- 13 サッカーがすきです。
- 14 今、しん長が 137.7です
- 15 今 学校で 前 2番です
- 16 たいじゅうは 32kg ぐらいです。
- 17 くつの大きさは、23.0 ぐらいです
- 18 ビクトロンをならっています
- 19 0さいの時にひっこした。
- 20 《地名》でうまれた。

## SCT (小学生用)

## Part I

- 1 小さい時、私は けがをした。
- 2 家では、けんかをよく します
- 3 私の一番ほしいものは ファミリー コンピューターのカセット 5本です
- 4 私がいやなのは ビクトロンです。
- 5 私の(兄、姉、弟、妹)は なまいきです。
- 6 私の母がもう少し、やさしかったら いいです
- 7 私の父がもう少し、やさしかったら
- 8 友だちの家庭にくらべて私の家庭は いいです
- 9 大きくなったら私は、 店をたてたいです
- 10 私がうれしいのは、みんなで 旅行することです
- 11 父は私のいうことを きくことがある
- 12 私のしっぱいは、 言葉づかいを、まちがえた。
- 13 私はよく、 自転車に乗ります
- 14 私がしりたいのは、お父さんとかお母さんの 小学校のテストの点です
- 15 学校で私はいつも あそんでいます
- 16 私は友だちから、 カセットをかりた
- 17 先生がもっと私に わすれ物をするな
- 18 私がとくいなことは サッカー

- 19 私が努力しているのは、運動です。  
 20 自分でできないことは、よる山道を通ること  
 21 母より父の方が私を、ほめる  
 22 私の父の仕事が、パイロットです  
 23 時々気になるのは、勉強  
 24 家でよくいわれることは、、なんとかをやりなさい  
 25 私は学校の成績が、まあまあです

## Part II

- 1 もしも私が スーパーマンだったら  
 2 学校からかえって私は あそびにいく  
 3 私の家の人は、ふつうの人です  
 4 私のおじいさんは、北海道にいます  
 私のおばあさんは、うつのみやにいます  
 5 母は私に、すぐに仕事やらせます  
 6 父は私に、べんきょうしろといえます  
 7 私は、(兄、姉、弟、妹)を、たまにむかつきます  
 8 私が好きなのは、つりです  
 9 私がきらいなのは、しいたけです  
 10 私がなりたいのは、店をひらく  
 11 私が叱られるのは、、よごしばなし  
 12 私がうらやましいと思うのは、、こづかいをたくさんもらえること  
 13 私は友だちとよくあそぶ  
 14 先生は、男の先生です  
 15 私のクラスでは、1月に1度 せきがえがある  
 16 皆は私のことを、あだなでよぶ  
 17 私がはずかしいと思うことは、まちがえ  
 18 私の母を、にくたらしい  
 19 私のしてもらいたいのは、サッカーです  
 20 私がみなより劣っていることは、背の高さ  
 21 勉強は、好きでは、ない  
 22 どうしても私は、地しんは、好きでない  
 23 私がこわいことは、、どろぼう  
 24 私がくやしかったのは、クリスマスプレゼント  
 25 時々私は、家の てつだいを、する

## パーソナリティ・スケッチ

社会：学校ではよくあそんでおり、友人関係に問題はないうだ。

家庭：家族構成は両親と妹の4人家族。両親はうるさい存在のようだ。

身体：この年齢にしては小柄で、それを気にしている。運動は好きなようである。

知能：誤字やひらがなが多く、小学校6年生にしては、内容が若干稚拙である。

気質：この位の年齢では、性格に言及する者は少ない。従って、よほど典型的なケースでないと言質などは不明なことが多い。

明確にはわかからない。

力動：父母や妹に対する不満が述べられているがこの年齢では珍しいことではない。ただし、若干年齢の割に幼い印象を受ける。

指向：サッカーが好きであり、その他に遊びの記述が多い。この年齢では一般的な傾向と言える。ビクトロン（電子オルガン）を習わされているが、かなりそれを嫌っている。将来は店を建てたいという希望を持っている。

## 事例 2 10才 女性 小学校5年生

## WAI

- 1 私は、母が大好きです。  
 2 私は、にんじんがきらいです  
 3 私は、スポーツが、あまりとくいではありません  
 4 私のしゅみは、げきをする事です  
 5 私は、めんどうくさがりやです。  
 6 私にとって、ネコは、宝物です。  
 7 私は、頭がよくありません  
 8 私は、パーマをかけています  
 9 私は、げたをはくのが好きです。  
 10 私は、友達とけんかする事が、たくさんあります  
 11 私は、頭がオカシイと言われます。  
 12 私は、けしてブツンではありません  
 13 私は、まげずぎらいです。  
 14 私の友達は、みんないい人です。  
 15 私は、時間をまもれません。  
 16 私は、人生は、いい学校に入るだけじゃないと思います。  
 17 私には、本をよもうとするいしがないみたいで

す。

- 18 私は、きんちょうすると、足がふるえます。  
 19 私は、しょうらい、かんとかくになりたいです。  
 20 私は、もつと友だちを作りたいです。

### SCT (小学生用)

#### Part I

- 1 小さい時、私は 頭の毛が、1本もありません でした。「黄色のパイナップル顔」とも言われて ました。  
 2 家では ボーッとしていて、母が帰ってきても、 いつ帰ってきたのか分かりませんでした。  
 3 私の一番ほしいものは、ドラムのたいこやシン バルです。  
 4 私がいやなのは、ネコのうんちのにおいがす ぐくさいことです。  
 5 私の(兄、姉、弟、妹)は、こわい時とやさ しい時があり、中学3年生です。  
 6 私の母がもう少し わかいと、いっしょにプ ルでおよげたりするのに…と思います。  
 7 私の父がもう少し おなかがへこむと、す むうする時、かてるのに…と思います。  
 8 友だちの家庭に比べて私の家庭は、楽 しく、父は、よく母とけんかをしたりします。  
 9 大きくなったら私は、えい画のかん とくに、なり たいです。  
 10 私がうれしいのは、みんな手をつないで、 にくみあうことがないつていうことです。  
 11 父は私のいうことを、いつも、“え らい”とか “すごい”とかいいます。  
 12 私のしつばいは、ついカーツとな ると、友だち にやつあたりしてしまうことです。  
 13 私はよく、ネコといっしょにね たり、遊んだり します  
 14 私がしりたいのは、どうしたらう まくおよげる かです。  
 15 学校で私はいつも、プツツン とか、おかしいと か言われています。  
 16 私は友だちから、な かまはずれにされたことは ありません。  
 17 先生がもつと私に、い けない事とか言ってくれ るといいです。

18 私がつくいなことは、みんなを 楽しませる事 です。

19 私が努力しているのは、 友達関けいや、やりは じめた事をさいごまでがんばる事です。

20 自分でできないことは、 父や母、友達に教えて もらったりします。

21 母より父の方が私を、 あまやかしているの で、母はいつも、父はあますぎるといいます。

22 私の父の仕事が、本に かんけいする事で、すご いな一と思います。

23 時々気になるのは、 へやがちらかっていたり する事です。

24 家でよくいわれることは、 自分でする事をして から遊びなさいといわれる 事です

25 私は学校の成績が、 前よりよくなったので、す ごくうれしいです。

#### Part II

1 もしも私が、エ スパーだったら、世界の人々を、 守りたいと思っています。

2 学校からかえつて私は、 ボーッとしたり、なら い事に行ったり、外で遊んだりしています。

3 私の家の人は、父は《名》 といつて母は《名》、 姉は、《名》といいます。

4 私のおじいさん、 は、87才で、長生きして います。

私のおばあさん、 は、65才で、畑仕事でたい へんです。

5 母は私に、 だらしがない所があると 言います。

6 父は私に、 何も言いません。そこが あまいのだ と思います。

7 私は(兄、姉、弟、妹)を、 そんなけいしていま す。でも、少しこわいので、けんかになります。

8 私が好きなのは、 ねこのテンとけみです。家 で かつています。

9 私がきらいなのは、 人をいじめたり、ひつこい 人がいることです。

10 私がなりたいのは、 かんとかくをしたり、ドラ ム で、楽しむ事です。

11 私が叱られるのは、 あずかった物をなくしたり することです。

12 私がうらやましいと思 うのは、母は、何でも最

後までやりとすことです。

13 私は友だちとよく遊び、よく会をしたりするので、友だちが、たくさん出来ました。

14 先生は、5年2組をふねでたとえれば、この5年生から6年までの1年を、ふねでわたりきるゆめをもっています。

15 私のクラスでは、何かのもんだいをみんなでかいつつしていく事をもくひょうにしています。

16 皆は私のことを、おもしろい人とか、楽しいとか言ってくれます。

17 私はずかしいと思うことは、せきにかんがない事です。

18 私の母を、そんけいしているし、大好きです。

19 私のしてもらいたいのは、ありません。

20 私がみなより劣っていることは、分かりません。

21 勉強で、何かしつもんされると、分からなくてこまってしまうです。

22 どうしても私は、何かをしている時、きがぬけています。

23 私がかわいことは、ゆうれいです。でも、なかよくしたいです。

24 私がかやしかったのは、合唱団で、コンクールの時、金しようとなかったことです。

25 時々私は、自分の心が青空でいっぱいになるのが感じられます。

#### パーソナリティ・スケッチ

社会：友人関係は、時にはけんかもするが、良好のようだ。

家庭：家族構成は、父母と姉の4人家族。父は出版関係の仕事のようだ。母親は父親に比べると厳しいが、両親に対して肯定的な感情を持っている。

身体：現在は、パーマをかけている。また、小さい頃に、髪の毛がなく、「黄色のパイナップル顔」と言われていたのはどういうことなのか、疑問が残る。

知能：この年齢にしては、文章の表現が豊かであり、自分や家族を客観的に見ることもできる。かなり知能は高い。

気質：前事例と同様に不明。

力動：特に問題となる記述は認められない。しかし、「劣っていることはわからない」というのと、

身体に関する記述がないことなどが、若干気になる。

指向：ペットの猫への愛着が強い。また、劇をすることが好きで、将来は映画監督を志望している。少し変わり者であるというself-imageを持っているようだ。

## 中学生

### 事例 3 15才 男性 中学校3年生

#### WAI

① 私は、人間です。

② 私は、男です。

③ 私は、勉強が嫌いな人間です。

④ 私は、スポーツがとくいな人間です。

⑤ 私は、ペーパーテストがにがてな人間です。

⑥ 私は、仕事がきらいな人間です。

⑦ 私は、テレビの好きな人間です。

⑧ 私は、映画の好きな人間です。

⑨ 私は、自分かつてな人間です。

⑩ 私は、わがままな人間です。

⑪ 私は、ミーハーな人間です。

⑫ 私は、バイクにのりたいといっている人間です。

⑬ 私は、音楽の好きな人間です。

14 私は、人を信用しない人間です。

※15～20は無回答。

#### SCT (中学生用)

##### Part I

1 小さい時、私は、いじめっ子でした。

2 御飯のとき、私は、「いただきます」をいわない

3 弟は、いのわい

妹は、いない

4 学校から帰って私は、ねます

5 どうしても私は

6 運動は、小さいころからとくいです。

7 私がからいなのは、おべんきょうです。

8 私の空想

9 私はずかしいと思うことは、かこのこと

10 私の服

- 11 学校の成績は、よくないです。  
 12 もしも私が バイクのレースの4時間耐久レースにでれたら しんでやる  
 13 私の失敗は、せいこうのもとだと思っている  
 14 お父さんは、酒がよわく ひょうきんで 短気な人です。  
 15 私のできないことは、バイクにのれないことです。  
 16 友だちの家庭にくらべて私の家庭は、ばらばらです。  
 17 男の友だちは、自分かってなにくたらしいやつがいます。  
 女の友だちは、いない  
 18 私が知りたいと思うことは  
 19 けんか は、ここ2、3年まったくしたことがない  
 20 私が好きなのは、バイクです  
 21 私がひそかに  
 22 私が皆より劣っていることは、ないと思う  
 23 私のしてもらいたいのは、かわりに じゅけんをしてもらいたいです。  
 24 大人 になりたい  
 25 大きくなったら私は、バイクにのります。

## Part II

- 1 家の人は、バイクにのることを反対しています。  
 2 私はよく  
 3 先生は、いやなやつです。  
 4 働くことは、よいことです。  
 5 私がこわいのは、おばけです  
 6 お兄さんは、おるけに  
 お姉さんは、おらんをや  
 7 私がうらやましいと思うのは、兄キがバイクにのっていること  
 8 本 は、夏休みに、めずらしく読みました。  
 9 時々私は、考えます。  
 10 お母さんは、よい人です。  
 11 私がなりたいのは、とくにきまってない  
 12 うれしかったとき には、おおいによるこびます。  
 13 家では、ねています。  
 14 私の不平は、ないと思います。

- 15 お金 は、あまりありません  
 16 時々気になるのは、友だちです。  
 17 友だちは、おおぜいいます。  
 18 私がくやしかったのは、サッカーの部活の最後の試合で負けたことです  
 19 学校では、明るいほうです。  
 20 私を苦しめるのは、先生です  
 21 私の父の仕事は、サラリーマンです。  
 22 私が叱られるのは  
 23 私が自慢したいことは、とくにありません  
 24 勉強 は、さつきもいったようにとくいではない  
 25 家でよくいわれることは 「はやくおきなさい。」

## パーソナリティ・スケッチ

社会：友人は多いと述べているが、否定的な記述も見られる。また教師に対してはかなり否定的な感情を抱いている。

家庭：家族構成は、父母と兄の4人家族。父はサラリーマンである。家では寝ているという記述や、家庭はばらばらだという記述があり、家庭内の交流は少ないようだ。

身体：運動は得意であると述べているが、全体的にエネルギーがない印象を受ける。

知能：SCTに無回答が多く見られ、拒否的な反応が多いため明確にはわからないが、特に知能に問題があるとは思われない。

気質：対人関係に距離があり、エネルギーが感じられない。おそらく分裂気質が基本と思われる。

力動：反抗的で屈折した印象を受けるが、この年齢層の男子にはよく見られる傾向である。SCTに対しても拒否的なのもその影響であろう。

指向：バイクに対する関心が強いことがよくわかるが、将来のビジョンなどは全く示されていない。自己評価もあまり高くないようだ。

## 事例 4 14才 女性 中学校3年生

### WAI

- ① 私は 女です  
 ② 私は てんびん座です

- ③ 私はA型です  
 4 私は、温和です  
 ⑤ 私はしょう来 小説家になります  
 6 私は 早く 高校生になりたいです  
 7 私は猫が好きです  
 ⑧ 私は事なかれ主義です  
 ⑨ 私の 前世は マリイアントワネットです  
 ⑩ 私は 不器用です  
 ⑪ 私は姉です  
 ⑫ 私は受験生です  
 ⑬ 私は、いなかより 都会が好きです  
 14 私は 新井素子のファンです  
 15 私は マンガがなくては 生きられません  
 ⑯ 私は 家庭科が大きいなくせに 家庭科 R<sup>リダ</sup> です  
 17 私はMADONNAが好きです  
 ⑱ 私は パリに行きたいです  
 ⑲ 私は英けん 3級もってます  
 20 私は はれ女です

## SCT (中学生用)

## Part I

- 1 小さい時、私は 泣き虫でした。  
 2 御飯のとき 嫌いな物があると、食欲がなくなります。  
 3 弟は いません。  
 妹は 変なやつです。  
 4 学校から帰って私は 分単位の スケジュールにおわれています。  
 5 どうしても私は 家庭科ができるようになりません。  
 6 運動 するのは とても苦手です  
 7 私がきらいなのは 日本料理です  
 8 私の空想 へきは、ちょっと異常です。  
 9 私がはずかしいと思うことは、一つもありません  
 10 私の服 は小さくなると 妹にまわります  
 11 学校の成績 は そんなに わるくないと思います  
 12 もしも私が 私でない 何者かであつたら きつと私の事を嫌っていたと思います  
 13 私の失敗は 数えきれないほど あります

14 お父さん は でぶです。

15 私のできないことは、できることより ずっと多いです。

16 友だちの家庭にくらべて私の家庭は 変な家庭です。

17 男の友だち からは とても 変わっていると言われます

\_\_\_女の友だち からは 好かれている方だと思います

18 私が知りたいと思うことは、私の前世についてです。

19 けんか するのは 大好きです。

20 私が好きなのは 本を読むことと 遊び歩くことです

21 私がひそかに 計画していること、それはひみつです

22 私が皆より劣っていることは、体育です。

23 私のしてもらいたいのは、じゅくの宿題です。

24 大人 は子供から見て、かなり ばかだと思う。

25 大きくなったら私は 小説になります。

## Part II

1 家の人 は みんな 変わり者です。

2 私はよく ぼや一つとして 先生に注意されます

3 先生は 私の事を扱いにくい生徒だと思っっているようです

4 働くこと は あんまり好きじゃありません。

5 私がこわいのは、高い所です

6 お兄さんは いません。

\_\_\_お姉さんは ほしいです。

7 私がうらやましいと思うのは、4人姉妹の人です (若草物語みたいだから)

8 本 を読むのは 大好きです

9 時々私は ものすごい へまを やらかします

10 お母さん は 恐しい。

11 私になりたいのは、小説家です

12 うれしかったとき でも あまり表情には出ません

13 家では、いつも マンガをよんでばっかです。

14 私の不平は、いつも ききいれられません

15 お金 使いが最近 荒くなったような気がします

16 時々気になるのは、物が すぐ紛失してしまうこ

とです。

- 17 友だちは すごく多いです  
 18 私が くやしかったのは、理不尽なことで 先生に怒られたことです  
 19 学校では すごくうるさいです  
 20 私を苦しめるのは、夢見がわるいことです。  
 21 私の父の仕事は 今だによくわかりません  
 22 私が 叱られるのは、すぐ口答えすることです  
 23 私が 自慢したいことは、友人関係の広さです。  
 24 勉強するのは 大っ嫌いです  
 25 家でよく いわれることは、とくにありません

パーソナリティ・スケッチ

社会：友人関係は広く、男の友達もいるようだが、教師との関係はあまりよくない。

家庭：父母と妹の4人家族で、母親は厳しいようだ。

身体：運動は苦手のようにだが、健康に関する記述はない。

知能：表現に多様性があり、自己を客観的に見ることもできる。知能は高い方であろう。

気質：明確にはわからないが、思考的な点から基本は分裂気質と思われる。

力動：顕耀性が認められるが、比較的安定している。ただし、夢見の悪い点が多少気になる。

指向：読書とマンガが好きで、小説家志望である。

## 高校生

事例 5 18才 男性 高校3年生

WAI

- 1 私は《氏名》というものだ  
 2 18才の人だ  
 ③ 音楽が好きな人だ  
 ④ HEAVY METALやHARD ROCKが好きな人だ  
 ⑤ クラシックやロックや ブルースなどをきくが ポップスはきかない  
 6 くらい人間だ  
 7 へんな人間だ  
 ⑧ 無口で 人見知りをする 内向的な人だ  
 ⑨ いつも友だちを笑わせてばかりいる人

10 日本やアメリカがきらい

11 ヨーロッパが好き

⑫ 吹奏楽部でトロンボーンをやっている人

⑬ ロックバンドでベースをやっている人

⑭ いつもねむそうなかおをしてボーッとしている人

15 やせてて弱々しい人

16 常識を知らない人

⑰ Mozart, METALLICA, CREAM, BILLY JOELを(ちゃんとういう人たちか調べてね)同じわくの中でとらえている人

⑱ しゃべるのが不得意でいつも悪い印象を他人に与えている人

19 ほんと、誰なんでしょう

20 受験が近づいているのに 全然勉強しない人

SCT

Part I

1 子供の頃、私は 野球と接することがなかった。だから今でも野球にはくわしくない

2 私はよく人から ほのぼのしてるといわれる。しかし そうとは思えない

3 家の暮らしはごく普通だが せまい家であるところがかなしい。でも この地価高騰の世の中ではどうすることもできない こまったもんだ

4 私の失敗は かずおおくある。今となってはいい思い出だ…なんていえないようなのが

5 家の人は私を どう思ってるのかな だいたい甘やかしすぎなんだよな まったくわけわかんねーよ ほんと

6 私が得意になるのは いろんな時になるが まわりのどの人も知らないようなことを知ってたり するととくになるのかな

7 争いにまきこまれたことがないから これからのことを考えるととても恐しい

8 私が知りたいことは 経済のしくみとか ナスカの地上絵の謎とか その他いろいろ

9 私の父は まあいいんじゃないんですか よくわかんない

10 私がきらいなのは 日本人的な、物事の核心をはつきりいわずにあいまいにしまうことです。こういう表現をされても私は理解できません

- 11 私の服 はなぜかへんなはずかしいものしかない  
ので外出するとき困る スヌーピーのTシャツも  
つればアイアンメイデンのTシャツももってま  
す
- 12 死 んだら そのあと生まれかわるまで なにや  
ってんだらう 天国みたいなどころにいくのかな
- 13 人々 がおおすぎていやだ
- 14 私のできないこと は いっぱいある テレキネシ  
スができないなあ
- 15 運動 は苦手だけど好き
- 16 将来 のことはだれにもわからない
- 17 もし私の母が 死んだらどうしよー
- 18 仕事 って楽しいのかつらいのかどっちなんぞ  
でしょう サラリーマンってつらいんでしょ?
- 19 私がひそかに 考えてることは、それは、実は  
なんと おどろいたことに なにもありません
- 20 世の中 狂ってる
- 21 夫 っと なんてしゃれをいってるばあいじゃな  
い
- 22 時々私は われをわすれて考えごとをしてる。  
あぶない奴だと思ふ
- 23 私が心をひかれるのは アイアンメイデンその  
他の音楽 もちろん クラシックも。
- 24 私の不平は いっぱいありそうなんだけど あ  
まりないんだよね 楽観的なのかな
- 25 私の兄弟(姉妹) を説明します。兄が1人で  
す。すごい人です
- 26 職場では、つまり学校ですが、いつもボーッ  
としてます
- 27 私の顔 は他人から見るとどうなんぞでしょう
- 28 今までは くだらないギャグばかりいってまし  
たがこれからはまじめな話題にも参加しようと思  
います
- 29 女 の子のことはさっぱりわからない
- 30 私が思いだすのは 失敗したこと と成功したこ  
とです

## Part II

- 1 家では くらくすごしてます
- 2 私を不安にするのは これからの将来について  
です
- 3 友だち はいい人がたくさんいて幸せです

- 4 私はよく 女の子とよくしゃべりますが あまり  
いいことではないでしょうか
- 5 もし私が 死んだらどうしよう みんなどう思う  
かな
- 6 私の母 は考え方が古いです。なんか早死にし  
そうでこわいです
- 7 もう一度やり直せるなら 中二のころからやり  
なおしたいな
- 8 男 なら 旅立つ時がくるって なんかの歌にあ  
ったな 男女平等の世界なんだからやめようよこん  
なことは
- 9 私の眠り は浅くて困っている
- 10 学校では いつも眠くて困ってます
- 11 恋愛 してみたいけど 今は受験のまっただ中  
ですからねえ
- 12 もし私の父が 死んだらどうしよう
- 13 自殺 するのはやだな だって死ぬとき痛いだし  
よ ナイフとかで手首切つてさ やっぱ死ぬんなら  
寝てるまにしらない間に死ぬのがいいね
- 14 私が好きなのは 音楽を聞いたりプレイするこ  
とです
- 15 私の頭脳 はさいきんどうかしてる。さいきん  
でもないか
- 16 金 があれば家をかうんだけどな
- 17 私の野心 ? そんなこときかれてもわかりませ  
んよ
- 18 妻 をもてる身分だろうか? そうだ18になっ  
たんだ
- 19 私の気持 ってなんか歌の題名みたい
- 20 私の健康 ってなんか作文の題みたい
- 21 私が残念なのは Heavy Metalに対して偏見をも  
っている人が多いことだ
- 22 大部分の時間を 勉強に費やしなければなら  
ないのに こんなことしていいのだろうか
- 23 結婚 できるのかなあ将来。心配だなあ
- 24 調子のよい時 はめったにない
- 25 どうしても私は やりとげなければならないの  
だ
- 26 家の人は どう思ってんのかな よくわからない
- 27 私が羨ましいのは 友だちが クラスの子とつき  
合ってることだ
- 28 年をとった時 金が いっぱいあるように今から

がんばろう

29 私が努力しているのは、勉強ですよもちろん

30 私が忘れられないのは、楽しかった高校生活。

小学校よりも、中学よりも 高校がいちばん卒業したくないよー

パーソナリティ・スケッチ

社会：友人関係は良好のようだ。

家庭：家族構成は父母と兄の4人家族であるが、家族との関係についてはほとんど記述がない。

身体：運動は苦手だが好きなようだ。健康状態については眠りが浅く、あまり良好ではないようだ。

知能：かなり高い。関心の範囲が広く、表現にユーモアも感じられる。

気質：内向的で思考的な印象を受ける。典型的な分裂気質と言えるであろう。

力動：かなり強い顕性度が認められる。将来に対する見通しががないため、不安定さも感じられる。

指向：音楽に対する指向が非常に強い。また、社会や文化に対する関心もある。

#### 事例 6 17才 女性 高校2年生

WAI

1 私はわがままです。

2 動物が好きです。

3 ダンスをするのが好きです。

4 めんどくさがりやです。

5 友達を大切にします。

6 クッキーを焼くのが得意です。

7 最近 けがをしました。

8 彼氏はいません。

9 よく食べます。

10 頭は悪い方です。

11 小さい子供が好きです。

12 ディズニーランドの雰囲気が好きです。

13 良い友達をたくさん持っています。

14 毎日のように好きな歌手の音楽を聞いています。

15 歩くことが好きです。

16 手伝いはあまりしません。

17 集中力がない方です。

18 高校3年生になります。

19 おしやれすることに興味があります。

20 スタイルはあまり良くなく、背は低い方です。

SCT

Part I

1 子供の頃、私は、目玉焼を毎日のように食べていた。

2 私はよく人から、集中力がないと言われる。

3 家の暮し、はぜいたくすぎない方がよい。

4 私の失敗、のせいで大事な行事が大なしになってはいけなさと緊張した。

5 家の人は私を、かわいがってくれているのだろうが勉強のことばかり言う。

6 私が得意になるのは、当然のようにみんなが私をほめた。

7 争い、は人を傷つけ、平和を乱す。

8 私が知りたいことは、山ほどあるが、何から手をつけていいか分からない。

9 私の父、は頑固な面もあるが本当はとてもやさしい人だと思う。

10 私がきらいなのは、文句ばかり言って理屈に合わない行動をする人だ。

11 私の服、はたくさんあるが安物ばかりだ。

12 死、は当然、すべての人に訪れるが、やはり恐ろしいものだ。

13 人々、の間には、最近、信頼と言うものが少なくなってきたと思う。

14 私のできないことは、たくさんあるが、化学的な事が苦手だ。

15 運動、することは体にもいいし、精神的にもいい。

16 将来、なりたい職業が決まっている人は輝いている。

17 もし私の母が、死んでしまったら家が成り立たないだろう。

18 仕事、を生きがいにするのもいいが、たまには息ぬきもした方がいい。

19 私がひそかに、想っている男性がいる。

20 世の中、には、自分と同じ考えを持つ人などいないだろう。

21 夫、となる人は、自分の考えをもったしっかりした人がいい。

- 22 時々私は 自分の性格について考えることがある。
- 23 私が心をひかれるのは やさしさがあって 夢のある人だ。
- 24 私の不平は 無視してもかまわないが 彼女の意見は聞いてあげてほしい。
- 25 私の兄弟(姉妹)の事をひと言で言うと仲の良い友達といった感じです。
- 26 職場では あまりでしゃばりすぎないようにてきぱきと仕事をするようにしたいものだ。
- 27 私の顔は 欠点だらけだが、長所としてみればいいと思う。
- 28 今までは 知らなかったことも 自分で調べていくようにしよう。
- 29 女らしくなるためには性格から直さなければならぬ。
- 30 私が思いだすのは 友達のことばかりだ。

## Part II

- 1 家では いつもボーッとしていることが多い。
- 2 私を不安にするのは やめて下さい。
- 3 友だち は一生つき合いたい大切な宝物だ。
- 4 私はよく 頭が痛くなる。
- 5 もし私が ネコだったら かわいい飼猫になりたい。
- 6 私の母 はよく働くが体は健康だ。
- 7 もう一度やり直せるなら 小学校の頃に戻りたい。
- 8 男 の人はあんなに働いてえらいと思う。
- 9 私の眠り はとても深く、起こされても すぐ起きない。
- 10 学校では まじめなしっかり者だが家に帰るとわがまま娘になる。
- 11 恋愛 はマンガや小説の中のような素敵なのがよい。
- 12 もし私の父が 犯罪者になったら私は恥ずかしくて外に出られない。
- 13 自殺 なんて バカなことは絶対にしたくない。
- 14 私が好きなのは ひなたぼつのような平和的なことだ。
- 15 私の頭脳 はどんなふうになっているのか見てみたいものだ。

- 16 金 がすべてとはいわないが 金は大切なものだ。
- 17 私の野心 が どんなものか私自身も知らない。
- 18 妻 となるには それなりに さまざまな事ができなければいけない。
- 19 私の気持 なんて 誰もわからないだろう。
- 20 私の健康 管理は私がする。
- 21 私が残念なのは 今までの時間をむだに過ごしてしまったことだ。
- 22 大部分の時間を 睡眠で費やしてしまった。
- 23 結婚 するのは6月頃がいい。
- 24 調子のよい時 は笑顔を絶やさないが 悪い時はぶつちよう面だ。
- 25 どうしても私は 旅に出なければならない。
- 26 家の人は 私の事を子供扱いするが気に入らない。
- 27 私が羨ましいのは 自分の部屋で自分の時間を有意義にゆつくりと過ごせる人だ。
- 28 年をとった時 寂しい思いをしたくない。
- 29 私が努力しているのは みんな認めている。
- 30 私が忘れられないのは 幼い頃のケガのことだ。

## パーソナリティ・スケッチ

社会：友人関係は良好であり、しっかり者と見られている。憧れている異性もいるが、片思いのようだ。

家庭：父母と兄弟がいる。父は頑固で、母は働き者、兄弟は友人のような存在らしい。

身体：背が低いことを気にしているが、健康には問題なさそうだ。ただし、幼児期に怪我をしており、最近も怪我をしている。

知能：高校2年生としては、標準的と言えるであろう。

気質：いかにもこの頃の高校生のようなのだが、気質の類型ははっきりしない。miscellaneousと見てもよいが、若干粘着気質があるようだ。

力動：基本的には安定しているが、家庭において依存傾向が見られる。

指向：対人的な関心が強く、恋愛に対する憧れも強い。将来のビジョンはまだ明確になっていないようだ。

## 短大生・大学生

事例 7 20才 男性 短大2年生

WAI

- ① 人間
- 2 動物
- 3 男
- 4 日本人
- 5 知的生物
- 6 学生
- 7 《地名》市民
- 8 長男
- 9 大人
- 10 遊び人
- 11 のんびり屋
- 12 ウェイター
- 13 後継ぎ
- 14 サークル部長
- 15 部員
- 16 短大性
- 17 ロッテ ファン
- 18 《地名》県民
- 19 地球人
- 20 野球好き

SCT

Part I

- 1 子供の頃、私は よくねた。
- 2 私はよく人から 部長と呼ばれる。
- 3 家の暮らし は豊かです
- 4 私の失敗 はない。
- 5 家の人を私を 《名》と呼ぶ。
- 6 私が得意になるのは 成功した時です
- 7 争い ごとには嫌いです。
- 8 私が知りたいことは 情報です。
- 9 私の父 は社長です。
- 10 私がきらいなのは ベン強です。
- 11 私の服 は、はです。
- 12 死 めのはこわいです。
- 13 人々 はいそがしそうです
- 14 私のできないことは ありません。
- 15 運動 が大好きです。

- 16 将来、私は社長を目指します。
- 17 もし私の母が いなくなったら悲しいです。
- 18 仕事 は大切です。
- 19 私がひそかに 進めていることは言えません。
- 20 世の中 は冷たいと思います。
- 21 夫 は大黒柱です。
- 22 時々私は 鳥になる。
- 23 私が心をひかれるのは 尊敬する人です
- 24 私の不平は ありません。
- 25 私の兄弟（姉妹） は優秀です
- 26 職場では 期待されています。
- 27 私の顔 はねむりそうです。
- 28 今までは 楽しかったです。
- 29 女 は大切です。
- 30 私が思いだすのは 子供の頃です。

Part II

- 1 家では 良くねています。
- 2 私を不安にするのは 学校生活。
- 3 友だち は多い方が良い。
- 4 私はよく 部長と呼ばれる
- 5 もし私が 天才だったら今こんなには苦労して  
いないだろう。
- 6 私の母 は心乱性です。
- 7 もう一度やり直せるなら 子供の頃にもどりた  
い。
- 8 男 友達 は 必ず必要。絶対いいものだ。
- 9 私の賤り は浅く少ない。
- 10 学校では サークルに出る以外、友達と話して  
ばかりで授業にはあまり出る事はない。
- 11 恋愛 をしたら自分は変わる事ができると思う。
- 12 もし私の父が 死でしまったらやっていく自信  
がありません。
- 13 自殺 はしたくない。
- 14 私が好きなのは 遊び。
- 15 私の頭脳 はいいとは言えない。
- 16 金 があれば決して困る事はない。
- 17 私の野心 は大きなことです。
- 18 妻 は必要。
- 19 私の気持 は不安定。
- 20 私の健康 状態は最悪。
- 21 私が残念なのは バイトで自分の時間がもてな

い事だ。

- 22 大部分の時間を遊びに使っている。  
 23 結婚をして幸せな家庭をきづきたい。  
 24 調子のよい時はたくさん寝た時です。  
 25 どうしても私は今年中に卒業したいが無理であろう。  
 26 家の人は私を悩みの種だと思っている。  
 27 私が羨ましいのは金持ちです。  
 28 年をとった時幸せであったと思いたい。  
 29 私が努力しているのは勉強です。  
 30 私が忘れられないのは子供のころです。

#### パーソナリティ・スケッチ

社会：現在は短大生であり、アルバイトもしている。父親は社長となっており、経済的にも豊かなようだ。将来は社長を継ぐつもりらしい。

家庭：父母の他に兄弟がいる。家族の悩みの種になっているらしい。

身体：運動は好きなようだが、健康状態は現在良くないようだ。

知能：20才にしてはあまり内容がなく、知能は高いとは言えない。

気質：あまり明確にはわからないが、分裂気質と粘着気質の複合型であろう。

力動：かなり未成熟であり、自我同一性確立の危機もまだ経験していないようだ。

指向：現在の関心は遊ぶことに向けられており、おそらくそれと関連して金銭に対する指向が強くなっている。将来の展望は、肯定的のようだが、現実性が希薄である。

#### 事例 8 23才 男性 大学4年生

#### WAI

- ① 基本的には、すごく真面目な性格である。  
 2 どちらかと言うと楽観的である。  
 ③ これ以上譲れない時は絶対に譲らない。(頑固である)  
 ④ 自分でも、すごく行動力があると思う。  
 5 気が長い。根気強い。  
 6 情に流されやすい。(泣き落しに弱い)  
 7 個性的であるが、まわりの環境への順応性は大。

8 人前では要領がいいように見せたがるが、実際は努力型である。

9 物事を考えるときは、主観的より、客観的に考える方が多い。

⑩ すごく寂しがり屋である。

⑪ 好き嫌いが はっきりしている

⑫ 賑やかな雰囲気が好きで、開放的である

13 枠にはまらず、柔軟に物事に対処する。

⑭ 人間関係を すごく大事にし、他人を絶対裏切らない

15 意志は強いが、強引な面もかなりある。

⑯ 考え方は 現実的。理想よりも 現状をシビアに分析する。

⑰ 義理と人情を重んじる。(地方出身者だからかもしれないが…)

⑱ 都会人のような打算的でドライな考え方は嫌いだである。

19 全体的に まとまっていれば、細かい所はあまり気にしない

20 見栄つ張りで、負けず嫌いである。

#### SCT

#### Part I

1 子供の頃、私は いつも自然の中で遊んでいた

2 私はよく人から どこかに遊びに行こうと誘われることが多い

3 家の暮しを支えるのは男の役割である。

4 私の失敗は、東京の大学に入学してしまったことである。

5 家の人は私を 思い通りにさせてくれる。

6 私が得意になるのは 中国人と 中国語で会話が通じたときである。

7 争いは、嫌いである

8 私が知りたいことは コココーラの成分である

9 私の父は、まじめで尊敬できる人である

10 私がきらいなのは 鳥肉である

11 私の服は、どちらかと言うと 派手である。

12 死ぬときは、TVや新聞で報道されたい

13 人々にとって暮しやすい、社会をつくるのに貢献したい

14 私のできないことは 他人を裏切ることである

15 運動は得意である

- 16 将来 は、平凡でも幸せに暮らしたい  
 17 もし私の母が 長生きをしてくれれば とても嬉しい  
 18 仕事 は、やりがいがあり、社会に貢献できる職に就きたい  
 19 私がひそかに 練習しているのは、カラオケである。  
 20 世の中 には 不思議なことが多いと思う  
 21 夫 になる時が いつかは来る。  
 22 時々私は 昔のことを思い出して、ぼんやりすることがある。  
 23 私が心をひかれるのは 自分に影響を与えてくれる人(もの)である  
 24 私の不平は サークルが おもしろくないことである  
 25 私の兄弟(姉妹) は 姉1人である。  
 26 職場では いつも ニコニコしていたい  
 27 私の顔 は 朝は 不機嫌な表情をしていることが多い  
 28 今までは だいたい満足である。  
 29 女 の友達が 100人いるよりは、1人の恋人の方がいい  
 30 私が思いだすのは 故郷にいたころのことである。

## Part II

- 1 家では、よく、浜田省吾を聞いて横になっている。  
 2 私を不安にするのは 卒論である。  
 3 友だち は 割と多い方である。  
 4 私はよく 音楽を聞きながら本を読む  
 5 もし私が 雲になれば、世界中を旅行したい  
 6 私の母 は、とても やさしいが、物事の筋の通らないことは、絶対にしない人である。  
 7 もう一度やり直せるなら 大学1年生になりたい  
 8 男 の友達は一生の宝であり、大切にしていきたい  
 9 私の眠り は、長い方である  
 10 学校では 楽しいことが少ない  
 11 恋愛 のたびに、いつも違う自分を見つけることができる。

- 12 もし私の父が 私に地元で就職するように言う と、私はどうしていいかわからない  
 13 自殺 をしたいと思ったことは、今まで 1度もない  
 14 私が好きなのは 笑いで開かれた、和やかな雰囲気である。  
 15 私の頭脳 は、今ぐらいが ちょうどよい  
 16 金 メダルを1度取って見たかった  
 17 私の野心 は何もない。平凡こそ偉大であり、そのために今を、一生懸命生きているのだから…  
 18 妻 をめとらば、才たけて 見目うるわしく 情あり…。  
 19 私の気持 をわかってくれる友人がいるのは心強い  
 20 私の健康 には全く不安はない  
 21 私が残念なのは 今まで無駄に過ごした時間である  
 22 大部分の時間を 何かに使うのではなく、色々なことを経験して、自己を高めた  
 23 結婚 は28才ぐらいまでにはするつもりである  
 24 調子のよい時 も そうでない時も、表情はあまり変わらない  
 25 どうしても私は 以前、《大学名》に入りたいと思っていた  
 26 家の人 は みんな いい人ばかりである  
 27 私が羨ましいのは 今は全くない  
 28 年をとった時 田舎で静かに暮らしたい  
 29 私が努力しているのは 今は全くない  
 30 私が忘れられないのは 大雨の日の井の頭公園の風景である

## パーソナリティ・スケッチ

**社会:** 地方出身で、大学入学時に上京した。東京の生活に対しては否定的な感情を抱いている。  
**家庭:** 現在は1人暮らしだが、父母と姉がいる。  
**身体:** 健康・体力に自信を持っている。  
**知能:** 鋭さは感じられないが、自己をある程度客観的に見ることが出来る。  
**気質:** 意志が強く、堅い。その他にも典型的な粘着気質を示す記述が多い。  
**力動:** ヒステリー傾向を示す記述がいくつか見ら

れるが、特に強いとは言えない。

指向：社会に貢献したいという欲求がある一方で、平凡な生活を指向している。全体的に見て伝統的な価値観を持っていると言える。

#### 事例 9 20才 女性 短大2年生

##### WAI

- 1 私は、今、1人で暮らしている。
  - 2 私は、《氏名》という名前をもっている。
  - 3 私は、人である。
  - 4 私は、5人家族の1人である。
  - 5 私は、女性です。
  - 6 私は、アイスが好き
  - 7 私は、グレープフルーツが好き。
  - 8 私は、東京に住んでいる。
  - 9 私の家のそばには、公園がある。
  - 10 私は、コンタクトレンズをしている。
  - 11 私は、最近、とてもいらいらしている。
  - 12 私は、いつも 人にやさしくすることを心がけている。
  - 13 私の兄弟は、妹と弟である。
  - 14 私の実家に、今、カナダからきた人がいる。
  - 15 私の〃には、犬が4匹いる。
  - 16 私の好きなことは、ねること。
  - 17 私は本が好き。
  - 18 私は最近、吉本ばななの“N.P.”をよんだ。とてもおもしろくて、またよみたくなった。
  - 19 私は、今の生活に満足している。今、一番、たのしいと思っている。
  - 20 私は、友だちがいる
  - 21 私は、なんでも相談できる友人が、2人いる。
- ※WAIはレポート用紙を用いて施行されており、この被験者は21答している。

##### SCT

##### Part 1

- 1 子供の頃、私は、消極的な内気な子だった。静かな人といわれていた。
- 2 私はよく人から、明るい人だねといわれる。おしゃべりだねともいわれる。
- 3 家の暮らしは、これといって不満もないが、少し

ずつ自分ですみやすくしていこうとしている。

4 私の失敗は、いつも泣いたりすることで、忘れるようにしている。次はそうならないようにするために。

5 家の人は私を、おねえちゃんと呼び、家族のムードメーカーのような役割をしている。

6 私が得意になるのは、あみものができること。セーターやカーディガンなんかをつくってしまえること。

7 争いごとはきらいで、まして暴力をつかうことはもつときらいです。人が傷つくこともきらい。

8 私が知りたいことは、何でも人にきき、知らないことがないようにしている。

9 私の父は、やさしくていつも、そっと、ささえてくれる人です。とてもきょうで、いろんなことができる人です。

10 私がきらいなのは、プリンと卵豆腐。

11 私の服は、スカートが多い。もつともつと洋服がほしいと思っている。

12 死ぬことは、こわいことだけど、自分の人生の舞台の終えんなんだと思う。

13 人々は、みんな仲間であり、兄弟みたいなものだ。殺しあつたりにくみあつたりしては、いけない。

14 私のできないことは、なんとか努力してできるようにする。

15 運動することは、健康によいことだから、私も運動することを、気をつけている。

16 将来、私は、人に夢を、与えられるような人、そして、勇気の源をつくってあげられるような人になりたい。

17 もし私の母が、有名な人だったら、今私はどうなっていたらろう。

18 仕事をすることは、自分自身の可能性を見出すことであり、自らの成長の場だと思う。

19 私がひそかに、考えていることは、将来、詩や本を、かいたりして、すごしたいということ。

20 世の中は、最近少しずつかわりつつあると思う。でも昔のよき時代のことは、忘れないでほしい。

21 夫になる人は、やさしくて、包容力のある人で、いつまでも夢をもちつづけている人、そして、いつも輝こうと努力している人です。

22 時々私は泣くことがある。自分につかれていやなことがあって、でも、次の日は明るく笑顔になれるよう努力している。

23 私が心をひかれるのはきれいな空。青い空がいちばん好き。

24 私の不平は人と差別されること。そしてこそとわる口をいうこと。

25 私の兄弟(姉妹)は2人 妹と弟。2人ともほこれる兄弟です。

26 職場では明るく、ムードメーカーになれるようにしたい。

27 私の顔は、鼻ばかりがめだつ。どうしたらよいのだろうか？

28 今までではわがままばかりだった。これからはちがうようにしたい。

29 女とは、はかなく、美しい人間であると思う。傷つきやすいが、力強く、くじけない。

30 私が思いだすのは父や母、家族の顔。つらいときは、いつでも、頭にうかびます。

## Part II

1 家では、ぼ一つとする時間が多い。1日に1回は何も考えない時間がないと神経がはりつめすぎてしまう。

2 私を不安にするのは人の言葉。どんなことをいわれてもどうじないがやはり心は傷つき、かなしみであふれているから。

3 友だちはみんな明るく、楽しく、やさしいひとばかりです。とてもうれしく思っています。

4 私はよく、ひとりでなくことが多い。すこしずつ少なくしたいと思っているがどうしてもそうになってしまう。

5 もし私がしんでしまったら、母も父も、力をおとしてしまうだろう。でも私の分まで生きてほしいと思う。

6 私の母は とてもほがらかな人。現代版サザエさんのような人。でもまだまだ若く、かわいらしい人。

7 もう一度やり直せるなら 子どもにもどって今までやってきたよりももっと一生けんめいやりたい。

8 男の人は いつも女の人をやさしく つつめる

ような大きな人にならなければならないと思う。とにかく、やさしくて 思いやりのある人が好き。

9 私の眠りは浅いかも かもしれないと思う。のんびり 1日中ねむっていたいと思う。

10 学校では 変な子でしかなかったように思う。自分でもばかとしかいいようがない。

11 恋愛は 人を生長させる1つの手段だと感じる。

12 もし私の父が 有名な人だったら、私は今ごろどんな生活をしていたろうと思う。

13 自殺するということは よくないことだがしかたのないことだと思う。自分で判断したのだから。

14 私が好きなのは

15 私の頭脳は、ちよつとのことで反応しすぎると思う。すぐにパンクしたりして ほんとうにどうなっているのだろうか。

16 (お)金 は、すぐになくなるもので 自分のところにとどまらない。なんとか ためたいと思う。

17 私の野心は とにかく 人より とびぬけてたことをすること。でもできるかわからないので あきらめかけている。

18 妻とは 夫をつつみこむ 存在だと思う。りんとして、いつも聖母のようにやさしく、ときにはきびしくという母のような人。

19 私の気持を知る人は すくないが すこしずつ心をゆるしていきたいと考えている。

20 私の健康は 自分自身で一番よくしつているようなきがするが、あいかわらずわからない。

21 私が残念なのは 人が死ぬということ。やっぱり もっともつと生きてほしいと思う。傷つけることもいけないし、とにかくみんな仲よくが基本。

22 大部分の時間を あみものとか 料理したりとかでのんびりすごしたい。時間におわれたくない。

23 結婚したいと思うことがときどきあるけれど なんだかちよつぱりこわいような気がする。

24 調子のよい時、いつも、明るく元気でいられる。そんなときこそへまをしてしまう。

25 どうしても私は、1つのことをやりとげられないような気がする。途中でやめることはよくないことなのに。

26 家の人 は、私のことを姉として みとめてくれて いる。たよりにしているといっているが ほんとう

に それでいいのだろうか。

27 私が羨ましいのは、いつも家族といられること。でも 私は自分で家を出たのだから、弱音をはきたくない。

28 年をとった時、そばにいてくれる人がいればそれでいいようなかんじがする。やっぱり 2人である方が 幸福なのかもしれない。

29 私が努力しているのは、人に対する思いやり。とにかく 悪い印象を与えないようにしているが失敗の方が多い。

30 私が忘れられないのは、愛犬の死。いまだに夢の中に出てくる。一緒に生活してきた家族が死ぬことはとてもつらいことです。

### パーソナリティ・スケッチ

社会：友人とは良好な関係があるようだが、対人イメージ一般には否定的な面もある。

家庭：家族構成は父母と妹・弟。現在は東京で1人暮らしをしているが、家族のもとに戻りたいという気持ちもあるようだ。

身体：健康上特に問題はないようだが、エネルギーがあまりない。

知能：知能は決して低くないが、必要以上に華美な表現を用いる傾向があり、見かけほど高くない。  
気質：エネルギーがなく、あまり活動的ではない。また1人で時間を過ごすことが多い。このような傾向から分裂気質と思われる。

力動：いらいらしたり、泣くことも多いなどかなり不安定である。また自己を劇化したり、自己をよく見せようとする傾向など、ヒステリー性格の特徴を示している。

指向：文学、あみもの、料理などに関心を持っている。また、達成要求を示す記述も見られる。

事例 10 22才 女性 大学4年生

### WAI

1 私は、「《あだ名》(ちゃん)」と呼ばれています。

2 " 動物と話ができます。

③ " 絵を描いたり 見たりすることが大好きです。

4 " 音学を聴いたり、自分(たち)で演奏したりすることが大好きです。

⑤ " じっくり考える前に行動する方です。

6 " 初対面の人には猫をかぶるくせがあります。

7 " 説教されるのが 大きいです。

8 " トランプゲームをすると ついつい本気になりすぎて 反感を買いがちです。

⑨ " 実際の年齢より4才以上若く見られがちです。

10 " 文章を書くことが好きです。

11 " 夢の人です。

12 " ときどき うそつきです。

⑬ " 浮き沈みの激しい性格の人間です。

14 " 弱い者の味方です。

⑮ " 本当に美しいものに 魅かれます。

16 " 高いところが大好きです。

17 " 宝石箱をひっくり返した夜空を仰ぎながら死にたい。

18 " 神経質だといわれます。

19 " 宇宙の神秘について考えます。

⑳ " 永遠に13才のままです。

### SCT

#### Part 1

1 子供の頃、私は みかんを食べていて 種を見つけると よく庭にうめて 毎日 水をやっていたものです。

2 私はよく人から 幼稚だとか実際の年より4才以上若く見えるとか 言われます。

3 家の暮らしについては、不満も多くありますが、そんなことばかり言ってもはじまらないので、つつしんでいます。

4 私の失敗は、笑い話として他人に話したり おもしろおかしく日記に書いたりすること以外に、もっと悲惨なものがあります。

5 家の人は私を いつまでも子ども扱いして、昔はよく妹と比較したりしました。

6 私が得意になるのは、見る目のある人から「頭いいね。」と言ってもらうときです。

7 争いのない世の中って 超たいくつだと思う。

8 私が知りたいことは、宇宙には果てがあるのか、

時間って何なのか、死んだらどこに行くのか、ということですよ。

9 私の父は髪がうすいのを悩んでいる、怒りっぽいけど なかなかかわいい おっさんです。

10 私がきらいなのは、自分のことを偉いと思っ  
ている人間、自分に過度な自信を持っている人間  
です。

11 私の服は妹と兼用なものが多いのですが、最  
近妹が太って私がやせたので ウェストが合わな  
くなってしまいました。

12 死んでも また 同じ姿で同じ関係で（母なら  
母、友だちなら友だち）どこかで会えるって信  
じています。

13 人々は一体何を考えて生きているんだろう。

14 私のできないことは 感情（怒り 悲しみ 喜び  
など）を外に表わさないことと、耐え忍ぶこと、  
努力、早起きです。

15 運動 会の徒競争は苦手だったけど、障害物競  
争は好きでした。

16 将来のことって あんまり考えられない、考え  
たとしても夢みたいなことばかり。

17 もし私の母が もっと美しかったら 私だつても  
う少し美人だったと思う。

18 仕事 するなんて信じられない、ずっと学生で  
いたいのに。

19 私がひそかに 何かしようとしても、すぐに {  
だれかに} 見破られてしまうのがオチです。

20 世の中 って醜いことと美しいものに溢れてい  
て、どちらか一方しか見ないで生きることは不可  
能だと思う。

21 夫 にするなら マスオさん。

22 時々私は 一日中 何もしないで 雲を眺めてい  
たくになります。

23 私が心をひかれるのは、ほんとうに純粹無垢な  
ものです。

24 私の不平は 人間が正当に評価されていないこ  
とです。

25 私の兄弟（姉妹）が、もう少し出来が悪かつ  
たら もっともつと かわいがってあげるのに。

26 職場では 遅刻 無断欠席が許されないというの  
が 不安。

27 私の顔は できれば見ないですませたい、と思

う種の顔です。

28 今までは 学生として自由にやってきましたが、  
来年からは もう社会人なんて悲しいです。

29 女 とか男とかって あんまり意識してません。

30 私が思いだすのは、3、4才のころ、おばに銭  
湯に連れて行ってもらった帰りを見た、夕方の寂  
しい下町の風景です。

## Part II

1 家では 半分以上 寝ています。

2 私を不安にするのは とりあえず卒論です。

3 友だち って 一番すばらしい宝物だと（本気で）  
思う。

4 私はよく 決心をしますが、たいてい3日坊主  
です。

5 もし私が 真険に絵を描いたら、きっと ピカソ  
よりすごいのが描けるんじゃないか。

6 私の母 はしっかり者で やさしいけれど、たま  
に 言葉の暴力で夫や娘たちを 傷つけます。

7 もう一度やり直せるなら、中学の頃からバンド  
をやってみたい。

8 男 の人って 一般的に女より大人で、しっかり  
していて、やることも大胆ですごいや、と 大学に  
入って 初めてわかった。

9 私の眠り は超深いので、めったなことでは起  
きません。

10 学校では かわいく謙虚に ふるまっている う  
もり です。

11 恋愛 すると、盲目になる人と、今まで見えな  
かったものが見える人と、2種類のタイプがある。

12 もし私の父が もっと背が高く 足が長かつた  
ら、私だつて もっとスタイルがよくなったのに。

13 自殺 は最大の罪とか自殺する人は最低とか言  
われるけど、その人にしかわからなかった悲しみ  
のことを思うと、絶対にこんなふうに言えない。

14 私が好きなのは、絵と音楽と本と漫画と動物と  
遊園地と自然です。

15 私の頭脳 は知識は少ないけど 回転は速く、記  
憶力はいいが忘れるのも人一倍といわれています。

16 金 さえあれば…と思います。

17 私の野心 は（あるけど）ひとには 教えたげま  
せん。

- 18 妻 はかわいいにこしたことはない。  
 19 私の気持 は他の人にはわかりません。  
 20 私の健康 は 本人にもわかりません。  
 21 私が残念なのは 根柢がないことです。  
 22 大部分の時間を 夢の世界ですごしています。  
 23 結婚 式は何度でもしたいけど、妻にはなりたくない。  
 24 調子のよい時 は何でもうまくいきますが、その反対のときは 何をする気も 起こりません。  
 25 どうしても私は 朝一人で起きられません。  
 26 家の人は もう皆 寝ました。  
 27 私が羨ましいのは 美しい人です。  
 28 年をとった時 のことなんか 考えられません。  
 29 私が努力しているのは 怒りを押さえることです。  
 30 私が忘れられないのは (昔) 母の田舎で見た 縁日の風景です。

#### パーソナリティ・スケッチ

社会：大学生生活を謳歌しているが、来年には就職の予定。社会に出ることに対して不安を抱いている。

家庭：家族構成は父母と妹。家族に対しては依存적である。

身体：健康に関する記述はないが、容姿に対して若干劣等感がある。エネルギーはあまりある方ではない。

知能：誤字が散見されるが、文章表現からは知能の高さが窺える。

気質：未成熟な印象が強いため、気質はあまり明確ではない。しかし、かなりの時間を1人で過ごしており、エネルギーがない点を考慮すると、おそらく分裂気質と思われる。

力動：未成熟で幼稚な印象を受けるが、かなり意図的にそのようにふるまっているようだ。そういう意味では何らかの防衛機制の表れとも考えられる。

指向：興味・関心の範囲は広いが、特に、審美的な指向と神秘主義的な指向が核心にあるようだ。

## 20代～30代

### 事例 11 30才 男性 検察官

#### WAI

- 1 検察官。
- 2 夫。
- 3 男。
- ④ 新任検事で、はやく仕事が できるようになりたい。
- ⑤ 何か作るのが好きだ。
- ⑥ いろいろな趣味を持っている。
- ⑦ 青系の服を好んで着ている。
- 8 最近、ちよつと太つた。
- 9 メガネをかけている。
- ⑩ 長身で、ヒゲと帽子で目立っている。
- ⑪ 本を読むのが、子供の頃から好きだつた。
- ⑫ 出無精だ。日曜は家でゴロゴロしている。
- ⑬ お酒を飲むのが大好きで、一人でも飲む。
- ⑭ はつきりしないことが大嫌いだ。
- ⑮ いつも冷静でいたい。
- 16 なるべく 他人を傷つけたりしないよう 心がけている。
- ⑰ きちよう面だと言われることがある
- ⑱ 時々、大きなミスをするのを、なんとかしたい。
- ⑲ 何でも メモする 癖がある。
- 20 欲しい物が たくさんある。

#### SCT

##### Part I

- 1 子供の頃、私は はやく 大人になりたかつた。
- 2 私はよく人から 冷静だと言われる
- 3 家の暮し は、まあまあだ
- 4 私の失敗 を 人に言うのは はずかしい。
- ⑤ 家の人は私を 頼りにしていると思う。
- 6 私が得意になるのは、人から ほめられた時だ
- 7 争い は、あまり好きではないが、やる時はやる。
- 8 私が知りたいことは どうすれば、幸せな人生を送れるか、だ。
- 9 私の父 は、私に 二つのことを教えてくれた
- 10 私がきらいなのは、感情的になる人だ。
- 11 私の服 は いつも清潔にしていきたい。
- 12 死 は、日常生活の すぐ 隣に いつもいる

- 13 人々は、どうしていつも あんなに おろかなんだろうか
- 14 私のできないことは、自分の失敗を忘れることだ。
- 15 運動は好きな方だが、あまりやる機会がない
- 16 将来は、幸せな家庭生活を送りたい
- 17 もし私の母が突然、死んだら、どうしたらいいだろうか
- 18 仕事は、はやく一人前になりたい
- 19 私がひそかに、やっていることを、誰も知らない
- 20 世の中 {には} いろいろな 人がいる。
- 21 夫が 台所で働いたって、いいじゃないか
- 22 時々私は、一人で旅行へ行きたくなる
- 23 私が心をひかれるのは、仕事の行き帰りに通る公園の花だ。
- 24 私の不平は、仕事のわりに 給料が安いことだ。
- 25 私の兄弟 (姉妹) は、私とはまったく似ていない。
- 26 職場では {仕事そのものよりも} 人間関係に気をつかう。
- 27 私の顔は、別に 不満はない。
- 28 今までは、自分は、何者でもなかったが、これからは 違う
- 29 女が原因で起こる犯罪は、どれくらいあるんだろうか。
- 30 私が思いだすのは、子供のころのことだ

## Part II

- 1 家では、私は、けっこうだらしない 格好をしている。
- 2 私を不安にするのは、先が よめない時だ。
- 3 友だちは、ほんとうに親しい者が 2-3人いればよい
- 4 私はよく、ひとり言を言う くせがある
- 5 もし私が、もう一人いたら、別の人生を送つただろう。
- 6 私の母は、私とよく似ているが、性格はずい分、ちがう
- 7 もう一度やり直せるなら、もう少し 外国語の勉強する
- 8 男らしさを 強調する者は、あまりすきではな

い

- 9 私の眠りは、深いほうだ。ぐっすり 眠ってしまう。
- 10 学校では、一つの ことだけをやっていて、
- 11 恋愛 結婚の方が 見合いよりもいい。
- 12 もし私の父が、私にもっと干渉していたら、今の私はなかったろう。
- 13 自殺なんて するヤツは バカだと思う。
- 14 私が好きなのは、本と酒だ。
- 15 私の頭脳は、理論的な方だと思う
- 16 金 は、欲しい物を手に入れるためには必要だが、それ以上のものではない
- 17 私の野心は、出世するよりも 現場で仕事をしていたい。
- 18 妻は、自分に ぴったりの人だと思う
- 19 私の気持は、自分に正直だ。
- 20 私の健康は、最近、やや太りぎみなどで特に 心配していない。
- 21 私が残念なのは、どうして他人と争う人がいるのだろうか
- 22 大部分の時間を、仕事につかっている。今のところは。
- 23 結婚して、良かったと思う。
- 24 調子のよい時は、とてもうれしい。
- 25 どうしても私は、失敗しないよう 消極的になってしまう。
- 26 家の人には、仲が良い
- 27 私が羨ましいのは、別にない。今のままで、十分満足だ。
- 28 年をとった時、いつも 笑っていられるような年のとり方をしたい。
- 29 私が努力しているのは、自分の感情を 爆発させないことだ
- 30 私が忘れられないのは、自分が失敗して、他人に笑われたことだ

## パーソナリティ・スケッチ

社会：職業は新任の検察官であり、はやく仕事で一人前になりたいと思っている。また、出世するよりも現場で働くことを望んでいる。

家庭：既婚で、妻に対して非常に肯定的な感情を持っている。

身体：最近太ったことを若干気にしている以外は、問題はないようだ。

知能：あまり内容が豊かとは言えないが、鋭い洞察を示すような記述もあり、知能は高い方と言えるであろう。

気質：強い表現が随所に見られ、硬い印象を受ける。粘着気質が基本と見られる。

力動：過去の失敗を気にして、消極的になっている。若干不安定などところがある。

指向：職業生活と家庭生活に関心が向いている。また、多趣味で読書と酒が好きなようだ。

### 事例 12 33才 男性 会社員

#### WAI

- 1 私は、33才の男性で妻と子供が2人いる。
- 2 "、今年3月に転職し、《会社名》人事採用2部で働いている。
- 3 "、生まれは《地名》、今は《地名》で暮らしている。
- 4 "、仕事で得意な分野は営業。
- 5 "、F1（モータースポーツ）とプロレスのファン。
- ⑥ "、冷静でありかつ又よく人を見てると回りから言われる。
- ⑦ "、粘り強い。
- 8 "、プライドが高い。
- ⑨ "、几帳面ではあるが要領が悪い。
- ⑩ "、物事に熱中するタイプである。
- ⑪ "、手堅いやり方をするタイプである。
- ⑫ "、背は普通でやせ型、黒ブチメガネ、服はトラディショナル。
- 13 "、遠山の金さんのようだと言われる。
- ⑭ "、非常に「敏感な面」と「純感な面」を持ち合わせている。
- ⑮ "、負けず嫌いである。
- ⑯ "、人から物事に動じない奴だと言われるが、ただ純いだけかも知れない。
- 17 "、情にもろい。
- 18 "、ロマンチストである。
- 19 "、読書家である。
- ⑳ "、グルメである。

#### SCT

##### Part I

- 1 子供の頃、私は経済的には恵まれ、わがままも許された。
- 2 私はよく人から話しをすると おもしろいと言われる。
- 3 家の暮らしは、中ぐらい。
- 4 私の失敗は、たくさんあって数えきれない。
- 5 家の人は私を帰りが遅くなる時電話をしないと文句を言うが、するようになるとも思っていない。
- 6 私が得意になるのは、F1（モータースポーツ）の話とカラオケを唄うとき。
- 7 争いはあるが、後でほとんど仲直りでできている。
- 8 私が知りたいことは、このテストの目的。
- 9 私の父は、背が高くしてハンサムだった。
- 10 私がきらいなのは、ハンバーガーと脂肉。
- 11 私の服は、地味だけどセンスはいい。
- 12 死 いずれおとずれるものなので あまり考えない。
- 13 人々とは、ごく一般の平凡な人たち。
- 14 私のできないことは、数え上げたらきりがない。
- 15 運動とは、食欲増進剤である。
- 16 将来は、一年の内 10カ月は東京で働き 2カ月はオーストラリアで暮らしたい。
- 17 もし私の母が 与佐野晶子 だったら、もつとうまくこのテストを書けたであろう。
- 18 仕事 いまはまだ面白くてしょうがない。
- 19 私がひそかに 知りたいのは、社長の給料。
- 20 世の中 には、変な奴がいるものだ。
- 21 夫 になって9年 これほどたいへんだとは、僕が結婚する時だれも教えてくれなかった。
- 22 時々私は、タバコを吸う。
- 23 私が心をひかれるのは、きれいな女とスポーツカー。
- 24 私の不平は、後で考えるとつまらぬものが半分、どう考えても頭にくるのが半分。
- 25 私の兄弟（姉妹）は 1人食欲だけは人一倍。
- 26 職場では、結構愉快にやっています。

- 27 私の顔 良くなったり 悪くなったりきまらない。  
 28 今までは、そういうことはあまり考えない。  
 29 女 は車と同じ。高級車は維持費も高い。  
 30 私が思い出すのは、思い出すのに100万年位かかりそう。

## Part II

- 1 家では、結構愉快にやっています。  
 2 私を不安にするのは、浪費家の妻、でも直るとは思っていない。  
 3 友だち は、いい奴ばかり。  
 4 私はよく 顔を洗う。  
 5 もし私が 女だったら、わりともてたであろう。  
 6 私の母 は、いい息子をもって幸せ。  
 7 もう一度やり直せるなら 又 男に生まれたい。  
 8 男 と女の仲は わからない。  
 9 私の眠り は、深く夢はたまにしか見ない。  
 10 学校では 何をしていたんだろう。  
 11 恋愛 は、スリリングで面白いが疲れるのが欠点だ。  
 12 もし私の父が 大金持ちであったなら、僕は夜中にこんなテストはやっていまい。  
 13 自殺 子供の頃は考えたが、今はそれどころではない。  
 14 私が好きなのは、サーロインステーキとおおトロ。  
 15 私の頭脳 は、子供の頃は切れるといわれたが、今はその面影もない。  
 16 金 は、ないと困る。  
 17 私の野心 は、自分の思うままに生きること。  
 18 妻 は、僕より長生きしてほしい。  
 19 私の気持 は、時として善人になったり悪人になったりする。  
 20 私の健康 特に問題なし。  
 21 私が残念なのは、レストランで期待はずれのもので出てきたとき。  
 22 大部分の時間を、有効に使っていると思う。  
 23 結婚 とは、試練である。  
 24 調子のよい時 と悪い時、同じ人とは思えない。  
 25 どうしても私は、人のおだてに乗りやすい。  
 26 家の人は、結構愉快にやっています。  
 27 私が羨ましいのは、宝くじで一等が当たった人。

- 28 年をとった時、きつと今と同じ。  
 29 私が努力しているのは、豊かな暮しができること。  
 30 私が忘れられないのは、このテストを明日の朝まで提出すること。

## パーソナリティ・スケッチ

社会：会社員で転職したばかりである。仕事には情熱を燃やしているようだ。  
 家庭：結婚して9年目で子供が2人いる。妻に対しては不満もあるようだが、家庭生活には満足しているようだ。  
 身体：健康には全く問題なく、エネルギーもある方である。  
 知能：誤字が散見されるが、文章はしっかりしており、知能は高い方と言えるであろう。  
 気質：粘り強く、堅い印象を受ける。典型的な粘着気質と見られる。  
 力動：かなり頭躍性があるが、安定している。  
 指向：現在は仕事に関心が向いている。また、食べ物に対する関心も強い。

## 事例 13 26才 女性 高校教員

## WAI

- 1 私は三四の犬と一羽のふくろうと一羽のダルマインコと数尾の金魚とたにしの飼主です。  
 ② 私は《氏名》の姉で弟子です。  
 3 私は我が家の二階の南面の畳敷きの部屋の住人です。  
 ④ 私は阪神タイガースのファンです。  
 ⑤ 私は あやういところで「あいなめ」という名になるところだった娘です。  
 6 私は この時点では 1年T組の生物の試験の監督です。  
 ⑦ 私は 自分のホロスコープに グランド・トリンをもつものです。  
 ⑧ 私は水屋の性の人です。  
 ⑨ 私はクイック・シルバー（水銀）です。  
 ⑩ 私は自分の中にもう一人、自分を観察する自分を持つ者です。  
 ⑪ 私は山東京伝と蔦屋重三郎に惚れている者です。

- 12 私はDaryl HallとStingの崇拝者です。  
 13 私は熱烈な内田百閒ファンです。  
 14 私は楽天的な観察主義者です。  
 15 私は近頃 血が止まりにくくて ぞっとしている者です。  
 16 私は 詩えない詩人です。  
 17 私は「きわもの同好会」会長です。(会員2名)  
 18 私は まだわからない“何か”を持っている者です。  
 19 私は 自分の中にあるはずの「賢者の石」を捜している者です。  
 20 私は宇宙にはりめぐっている網の、小さな小さな1目です。

## SCT

## Part I

- 1 子供の頃、私は 外見上も考え方も 今よりも老けていた。  
 2 私はよく人から ヘンな人だと言われてしまう。  
 3 家の暮らしは昔から低収入だが、不思議と かなり ぜいたくである。  
 4 私の失敗の最大のものは、アリーナのいい席のチケットをもっていたのに目をまちがえて ダブ屋から買った2階席でコンサートみちやったことだなあ…  
 5 家の人を私を 呼び捨てにすることはほとんどないが、私の友達はいって呼び捨てにされている。  
 6 私が得意になるのは 誰かの似顔絵が上手く書けたとか、タイガースが圧勝したとか 他愛もないことが多い。  
 7 争いはキライだが、ケンカは好きだ。  
 8 私が知りたいことは 私のことだ。  
 9 私の父は私の人格形成の上で大きな役割を果たしている。  
 10 私がきらいなのは スプタと 玉ネギのはいったジャガイモ・サラダと 俄万智の短歌だ。  
 11 私の服は「私」の表現方法の1つだ。  
 12 死は富める者にも貧しき者にも、幸福な者にも不幸な者にも、善人にも悪人にも、ありとあらゆる命のうちに 平等に訪れる。  
 13 人々がそれぞれに「個」とであると改めて気が

- 付く折々、自分の傲りをつくづく思い知らされる。  
 14 私のできないことは、少しずつ減っている。  
 15 運動も嫌ってわけじゃないんだけどなあ…。  
 16 将来 という言葉を口にするのが年甲斐もなく思える。そんなことじゃ、いけないのに。  
 17 もし私の母が 男だったら、私の父は女なのかなあ。いやだなあ。  
 18 仕事があるから 休みがうれしい。  
 19 私がひそかに 世界征服を狙っていた小学生だったことは 今の自分には いささか脅威だ。  
 20 世の中 わけわかんないから おもしろい。  
 21 夫 どうこいほいさっさ…なんて書くのは回避ですね？  
 22 時々私は 軽い記憶喪失になった気がする。  
 23 私が心をひかれるのは 宇宙とシンクロしている人間の中の潜在能力に関することだ。  
 24 私の不平は 江戸文化の評価が不等なことだ。  
 25 私の兄弟(姉妹)は 私より生活年齢が上だと思っているらしい。癪だ。  
 26 職場では 一つても真面目ですって言うことばたれそう…  
 27 私の顔は似顔絵になりにくい。  
 28 今までは 運の悪い目にあっていない。  
 29 女と男は精神構造が全くちがうだろう。  
 30 私が思いだすのは、いつどこかわからないけど、スナップ写真のようにくっきりするある光景が多い。

## Part II

- 1 家では 食べることと寝ることと その仕度ばかりに費している感がある。  
 2 私を不安にするのは 日常性に埋没してしまい そうな 平和な日々の繰り返しだ。  
 3 友だち ヘンな奴ばかり。  
 4 私はよく 食べる。  
 5 もし私が 今死んだら、保険金がかかなりあるはずなので、その3/4をW・W・F(世界野生動物基金)に寄贈してほしい。  
 6 私の母は かなりのものだ。  
 7 もう一度やり直せるなら 3年前の夏の日に戻りたい。  
 8 男は どのつめ めんどくさいんだ、きつと。

- 9 私の眠り は私の覚醒時よりもある意味で重要だ。
- 10 学校では 授業の無い時間は 好きに使えるのがいい。(学校=職場)
- 11 恋愛 は理性のタガをはずし、平生の主張をくつがえし、エゴイステイックなロマンチストを作りあげる。
- 12 もし私の父が 普通の勤め人のように 家にいつもいなかったなら、父は不可解な存在であっただろう。
- 13 自殺 するなら やっぱり楽かな。
- 14 私が好きなのは 何かを「好きだなあ」としみじみ感じ入ることのできる時間だ。
- 15 私の頭脳 はすでにかなり おとろえているのだろうか。
- 16 金 を使いきれないほど持ちたいとは思わない。しょせん物欲を満たす手段だ。
- 17 私の野心 は眠らない。
- 18 妻 の理想像は 松にからむ藤づるだ。
- 19 私の気持 は私にもわからない。
- 20 私の健康 は いちおう維持されている。
- 21 私が残念なのは 学芸員をあっさり あきらめてしまったことだ。
- 22 大部分の時間を 前の日と同じ様に費している。
- 23 結婚 した後も 「個」である自分を持ち続けたい。
- 24 調子のよい時 は何を見ても美しく感動してしまう。
- 25 どうしても私は ダイエットを続行しきれない。
- 26 家の人 は やっぱり みんなデブです。
- 27 私が羨ましいのは 甲子園球場にすぐ行ける所に住む人達だ。
- 28 年をとった時 カッコいい 生き方をしたい。
- 29 私が努力しているのは 積極的に行動をおこそうとすることだ。
- 30 私が忘れられないのは あの人のはんなりと笑む目の中に咲いていた桜の花だ。

#### パーソナリティ・スケッチ

社会：職業は教師であり、この職業に対して肯定的な態度が窺える。以前は、学芸員を志望していたこともある。

家庭：家族構成は父母と弟で、家族関係は親密なようだ。

身体：健康上の問題は特にないが、太っていることを若干気にしている。

知能：興味の範囲が広く、また、表現も機知に富んでいる。精神分化度と知能はかなり高い。

気質：記述が具体的で、日常的な事柄についての記述が多い。また、表現にやわらかさを感じる。基本は循環気質と思われる。

力動：表現に若干顕耀性が見られるが、比較的安定している。ただし、自己同一性は十分確立しているとは言えない。

指向：占い、文学、野球、野生動物の保護など広い範囲に関心を持っている。また、自己に対する関心が強く、自己を深く理解したい、「個」としての自己を持ち続けたいという欲求が示されている。

#### 事例 14 30才 女性 イラストレーター

#### WAI

- ① わたしが育った土地の地形。
- ② 架空の小石。
- ③ 描くという行為。
- ④ 様々の動く言葉。
- ⑤ 黄色い顔をした、わたしに似た誰か。
- ⑥ 刻々に（とめどなく）変容する構造。
- ⑦ 記憶。
- ⑧ たくさんの人、たとえば知り合いだったり、■■■■会ったこともない土地に住む人々であったり。
- ⑨ 指や歯。
- ⑩ 出現の連続。
- ⑪ 生命。
- ⑫ 太陽のつま先。
- ⑬ 流れ。
- ⑭ ～から～。
- ⑮ チタニウム・ホワイト。
- ⑯ 昼と夜。
- ⑰ 神話によって わたしは（あなたは）多くの出来事、多くの人々となる。
- ⑱ 運動のなかのある一点。
- ⑲ 場処。

## ⑳ 声。

SCT

## Part I

- 1 子供の頃、私は 川を渡った。
- 2 私はよく人から 贈りものをもらう。
- 3 家の暮し をこそ私は好む。
- 4 私の失敗 には 時として実に興味深いものがある。
- 5 家の人は私を とんぼだと考えている。
- 6 私が得意になるのは 珍しいことではない。
- 7 争い はいたるところにあり、それがあなたやわたしを悩ませる。
- 8 私が知りたいことは それほど多くない。
- 9 私の父 はかつて一匹の犬を飼っていたらしい。
- 10 私がきらいなのは 陸で死んだままになっている魚類。
- 11 私の服 は風でふくらんでいる。
- 12 死 んだ男 という小説がある。
- 13 人々 は黄色い服を着て、わたしの家へ来る。
- 14 私のできないことは いくつかある。
- 15 運動 会の万国旗が不思議。
- 16 将来 性をかわれて わたしは主婦になったのだが....
- 17 もし私の母が 退職したらと思う間もなく、彼女は退職した。
- 18 仕事 と■きくと、わたしは黙る。
- 19 私がひそかに 買ったイタリアの皿は中にイタリア料理の絵が描かれていてとても素敵。
- 20 世の中 や世の中 たくさんの世の中が行進している。
- 21 夫 の息子は 今 8か月だ。
- 22 時々私は 無性に楽しくなる。
- 23 私が心をひかれるのは 風と梢がつくる動く魔法の城。
- 24 私の不平は 一方にこれがあり、もう一方にあれがあるといったことに発している。
- 25 私の兄弟 (姉妹) はいつもけっこう忙しそう。
- 26 職場では となると これはもうなんとも答えようがない。
- 27 私の顔 は「顔への帰還」という詩をわたしに書かせるほど常につきない考察の対象だった。

28 今までは バナナを買っていたが この頃はバナナとキウイを買う。

29 女 の靴は安い。

30 私が思いだすのは 光線の具合いや感触 それに匂い。

## Part II

- 1 家では いま サボテンの花が咲いている。
- 2 私を不安にするのは しばしば 声であったりする。
- 3 友だち とわたしは1枚の画布に描いた。
- 4 私はよく 眠る。
- 5 もし私が 壁だったら、きっと落書きだらけだ。
- 6 私の母 は今日 電話で紫の靴の話をした。
- 7 もう一度やり直せるなら といった考えにどんな意味があるだろう。
- 8 男 はあるとき、写真の中に落雷を見つけた。
- 9 私の眠り のために いろんな素敵夢が用意されている。
- 10 学校では スリッパをばたばたいわせて歩き回っていた。
- 11 恋愛 小説は楽しい。
- 12 もし私の父が 壁だったら、おそらく落書きだらけだ。
- 13 自殺 した猫のことを わたしはいつまでも よく覚えている。
- 14 私が好きなのは いうまでもなく 太陽だ。
- 15 私の頭脳 とは よい友人関係にある。
- 16 金 曜日は 何となく なつかしい感じがする。
- 17 私の野心 は お話にならない。
- 18 妻 の足は平たい。
- 19 私の気持 {ち} は引越しに傾いている。
- 20 私の健康 は どうも不健康だ。
- 21 私が残念なのは 日曜の雨降り。
- 22 大部分の時間を わたしは 息子と過ごす。
- 23 結婚 式の招待状が届いた。
- 24 調子のよい時 もあればそうでない時もある。
- 25 どうしても私は 同じ角で転んだ。
- 26 家の人は 元気だ。
- 27 私が羨ましいのは 美しい椅子。
- 28 年をとった時 わたしは日なが一日、絵を描いて暮らす。

- 29 私が努力しているのは、それが好きだからだ。  
 30 私が忘れられないのは、と何度も 何度も話したい 愉快的出来事がある。

### パーソナリティ・スケッチ

社会：明確な記述が見られない。

家庭：両親は健在で、兄弟もいるようだ。現在は結婚しており、8ヶ月の息子がいる。

身体：健康にはあまり自信がないようだ。

知能：WAIにはメタファーが多用されており、その表現からも知能の高さが窺える。

気質：表現が抽象的であり、現実性・具体性に欠けている。これらは分裂気質の特徴である。

力動：表現に顕耀性が顕著に認められるが、全体的には安定している。

指向：視覚的なメタファーが多く、また、絵画に関連する記述も多く見られる。審美的な指向が強いことがわかる。

## 40代～50代

### 事例 15 45才 男性 会社員

#### WAI

- 1 私は、建設会社に勤務するサラリーマンです。
- 2 勤続26年になり、現在の役職は課長職の会社員です。
- 3 《地名》生まれで、7人兄弟の三男坊です。
- 4 27才で結婚して、現在二児（男2人）の父親です。
- 5 妻よりいつも子供にあますぎるというも ぼやかれている父親です。
- 6 運動神経にぶく、スポーツ嫌い人間です。
- 7 短気ですが、また反面楽天的な性格の持主人間です。
- 8 音痴で、音楽嫌い人間です。
- 9 遊びは一通り何でもやりますが、弱く皆に喜ばれる人間です。
- 10 一応、会社人間です。
- 11 丸顔で色黒で、肥満型の体型の持主人間です。
- 12 酒好き人間で、時々二日酔いになる人間です。
- 13 消極的人間です。

14 高血圧の持病持ちで、将来の健康に不安を持っている人間です。

15 食物に好き嫌いなし、何でも食べる人間です。

16 家では、何もしない人間です。

17 人に誘われたり、頼まれると、なかなか断われない人間です。

18 清潔を求める人間です。

19 休日は、ごろごろしてテレビばかり見ている人間です。

20 早寝、早起人間です。

#### SCT

##### Part I

- 1 子供の頃、私は 気が弱く、またわがままで、親をよく困らせたものだ。
- 2 私はよく人から 少し消極的ではないかといわれる。
- 3 家の暮らし は世間でよくいう中の生活であると思います。
- 4 私の失敗 は、短気で、すぐかあーとなる性格にあると思う。
- 5 家の人は私を 酒を飲みすぎないように、体に気をつけるよういつも言う。
- 6 私が得意になるのは これといって、別にありません。
- 7 争い は、みにくいものであり、避けて通りたいいものである。
- 8 私が知りたいことは 自分に関わりのあることではあるが、無理には知ろうとは思わない。
- 9 私の父 は、よく仕事をし、よく酒を飲んだ。人の面倒をよくみた人であった。それなりに尊敬の念がある。
- 10 私がきらいなのは みにくい争いごとです。
- 11 私の服 は、いつも地味（紺、黒系統多い）で、派手を好みません。
- 12 死 天命を待つ。
- 13 人々 それぞれに、各々がでよいと思う。
- 14 私のできないことは 運動、音楽、etc.
- 15 運動 運動神経にぶく、スポーツ嫌いであるが、せめてもう少しゴルフの練習をしなければと思っておる。
- 16 将来 とも 平凡で健康であれば良い。

- 17 もし私の母が 元気であれば、家族と一緒に旅行したいと思う。
- 18 仕事 5/1付で転勤になり、現在勉強中であり  
ます。
- 19 私がひそかに 思うことは、昔の思い出である。
- 20 世の中 平穏無事であるように祈ります。
- 21 夫 家ではなにもしない夫ですが、自分  
なりにまあまあだと思っております。
- 22 時々私は 酒を飲みすぎます。
- 23 私が心をひかれるのは やはり 女性でしょう。
- 24 私の不平は 今の日本の政治であります。
- 25 私の兄弟(姉妹) 男兄弟3人 女姉妹4人 私  
は三男坊であります。
- 26 職場では 転勤してきたばかりで、いまいちと  
いう感じです。
- 27 私の顔 は、丸顔、色黒赤ら顔でありますが、  
まあまあ並だと思っております。
- 28 今まででは 体にあまりいとわなかったが、これ  
からは気をつけていきたいと思う。
- 29 女 は、なにとなく、口うるさいものです。
- 30 私が思いだすのは 高校時代の思い出です。

## Part II

- 1 家では 何もしない夫であり、子供に甘い二児  
の父親であります。
- 2 私を不安にするのは 高血圧の持病があり、将  
来健康的に不安を持っています。
- 3 友だち 高校時代の悪友4人と年に数回家族ぐ  
るみで団らんしてます。今年の夏は長島温泉1泊  
の予定で、楽しみにしております。
- 4 私はよく、酒を飲み、たびたび二日酔いに襲わ  
れ、翌朝反省に及ぶ。
- 5 もし私が 子供時代に戻れたら、何々がしたい  
と思うことがある。
- 6 私の母 は明治43年生まれ、高血圧、心臓の  
持病持ち。できるだけ長生きしてもらいたいもの  
だ。
- 7 もう一度やり直せるなら サラリーマンでなく、  
自分で商売をやってみたい。
- 8 男 は、いつも堂々と生きたいものです。
- 9 私の眠り 高血圧のせいでしょうか、早寝早起、  
床に入れば2~3分で眠りに入るそうです。

- 10 学校では それなりに、できの良い方であつた  
と思う。
- 11 恋愛 学校時代、会社入社後それなりに。
- 12 もし私の父が 生存していたならば、時折一緒  
に酒を飲む機会を持ったことでしょう。
- 13 自殺 なぜ自殺するか、理解しがたい。
- 14 私が好きなのは 家族です。
- 15 私の頭脳 それなりに記憶力はまあまあである  
と思うが最近歳のせいかな、鈍くなつてきておりま  
す。
- 16 金 多くあるにこしたことがない。
- 17 私の野心 ない。現在の状況で満足しておりま  
す。
- 18 妻 二児の母親としてまあまあ及第でしょうが、  
最近口が少々うるさくなつてまいりましたが、よく  
やっている方でしょう。
- 19 私の気持 は、いつも不安定
- 20 私の健康 30代中から血圧高く、また酒の飲  
みすぎによる肝臓が心配、将来不安あり。
- 21 私が残念なのは 家に女の子がいないこと。
- 22 大部分の時間を ただ なんとなく過している感  
じがする。
- 23 結婚 昭和46年 社内結婚
- 24 調子のよい時 は、うれしく、楽しいものです。
- 25 どうしても私は 減量することに対して意思が  
弱い。
- 26 家の人は 母親、兄弟、姉妹、妻 皆私の体を気  
づかう ありがたいことです。
- 27 私が羨ましいのは ゴルフが上手な人です。
- 28 年をとった時 ただぶらぶらと過していると思  
われます。
- 29 私が努力しているのは 何もありません。
- 30 私が忘れられないのは 盲腸で手術した時の痛  
みと1ヶ月の入院生活が記憶によみがえります。

## パーソナリティ・スケッチ

社会：建設会社の課長であるが、転勤直後のため  
職場にまだなじめないようだ。高校時代からの友  
人と現在も家族ぐるみで交際している。

家庭：7人兄弟(男3人、女4人)の3男として  
生まれた。父は既に死亡。母は存命だが、病弱の  
ようだ。27才で社内結婚し、現在は男児2人が

いる。女の子も欲しかったようだが、家庭生活には満足している。

身体：高血圧の持病があり、飲酒による肝臓の病気が気になる。減量を試みてはいるがうまくいっていないようだ。運動は好きでない。

知能：平均的と言えるであろう。

気質：対人指向が強く、循環気質が基本と思われる。

力動：高血圧、肝臓など心気的な傾向が認められる。また、消極的で、あまり自分に自信が持てないようだ。

指向：仕事と家庭を中心とした人間関係に関心が向いており、他の趣味はほとんどないようだ。

#### 事例 16 57才 男性 会社役員

##### WAI

- ① 私はかなり自分勝手な方だと思う
- 2 真面目そうだが結構軽いのも好きだ。
- ③ 先のことを考えるのは入れ込むが過ぎたことはすぐ忘れる。
- ④ こまかいことはあまり気にしない方
- ⑤ 食事については極めて大切にすし、うるさい方
- 6 運動は大好き、あの集中力は必要と思う
- 7 女性は大好き、生き〜してうらやましい
- 8 友人は人を選ぶ。
- 9 父親としては一緒に遊ぶ努力不足で反省している
- ⑩ 夫としてはお互いによく努力しよく成長したと思っている
- 11 仕事は銀行員として、色々と幅広い経験をし、まず〜だったと思う
- 12 第二の人生も張合いがあり、我が人生運のある方だと思う
- ⑬ 大学、結婚、就職、再就職と節目での運は強い方か
- 14 第二の人生では、仕事、趣味、社会の三つを均しく大切にしたい
- ⑭ 健康には気を使う。元気でないと楽しくないし、人に迷惑をかける
- 16 ヤセの大喰い、勝手に喰べるが、53kg程度

で変らず

⑰ 悪筆は長い間、今でもコンプレックス

18 水泳と懸垂がダメ、100m11秒7が大切な誇り。

19 両親には良い次男だったと思う。親孝行がもつとしたかった。

⑱ これからの夢は八ヶ岳の小屋で月2回位ゆくりすること

##### SCT

##### Part I

- 1 子供の頃、私はよくいたずらをして先生に叱られました。
- 2 私はよく人から一見神経質そうだが案外そうでないと云われる。
- 3 家の暮らしは夫婦各々、子供3人各々が好きにやっている。母親の明るさが何よりである。
- 4 私の失敗は字を下手なまゝで、終らせたこと水泳を覚えそこなったこと
- 5 家の人は私を勝手なことを云うと文句を云うが、折目〜には一応敬意を表してくれる
- 6 私が得意になるのは特にない。中途半端が多い 唯 これからの人生で、得意になれるものを築き上げたい
- 7 争いは好まない。男として、腕力で勝負をつけねばならない場面は必ずあることは覚悟してきた。
- 8 私が知りたいことは世界中で、人種問題からの、トラブル流血が続いているこの解決の道。人間に進歩はあるのだろうか
- 9 私の父は貧乏旧家の長男意識の権化であった。きびしかった。もつと楽に本人が行動出来たらと、子供として父に同情する
- 10 私がきらいなのは人前で字を書くことである
- 11 私の服は、自分で考える方である トータルな、TPOを考えた、組合せを大切にす。
- 12 死は止むを得ない、充分生き切れることを心がけたい。
- 13 人々は皆それぞれでよい
- 14 私のできないことは水泳と懸垂
- 15 運動は大好きで、水泳以外は殆んどこなした
- 16 将来夫婦二人になっても、楽しくやって行け

そうなのは嬉しい。

17 もし私の母が 父の死後、もっと長く元気でいたら母らしい人生の楽しみ方を出来たのにと 残念である。

18 仕事 は嫌いでない。しかし仕事がなくとも 人生を楽しみ 社会へ役立てることが出来るようにしたい

19 私がひそかに、毎年夏に夢見るのは、都立高の星として甲子園へ出場している主将の私である

20 世の中 ここ2-3年の変り様は凄いいことである

21 夫 は夫、妻は妻、そして夫婦は夫婦 これでありたい

22 時々私は 試験に追われて、やっと解放された夢を見る 人生最後の挑戦だから、と云うことなのか。

23 私が心をひかれるのは 最近の女性に多く見られる 知的で、豊かな表情である。

24 私の不平は 次男坊がもっとガムシャラであってほしいこと。又父として幼年の彼と強く遊んでやらなかったこと

25 私の兄弟(姉妹) 兄、弟、妹の3人 もうすこしまとまりがあって良い。

26 職場では 明るく、正しく、仲良く と心がけている 大変だが 張合いはある

27 私の顔 は写真で、昔より今の方が 良いと思う ギスギスしなくなった様だ

28 今までは 流れに任せて来た気がする これから、自分なりに選択することになると思う

29 女 は女として、なくてはならない 今の日本女性は立派にやっていると思う

30 私が思いだすのは 九州・八幡の昭和20年の空襲の夜、大学入試発表の日

## Part II

1 家では 家庭料理中心に 一家で賑やかである。

2 私を不安にするのは 皆元気で順調なだけに、交通事故、病気など思わぬピンチが来るのでないかと 云うこと。

3 友だち は程々、年令柄 友達づき合いが大切になってきた。

4 私はよく 家内と世間話をするようになった。

お互に同じセンス、違うセンス とあって、各々に非常に面白い。

5 もし私が 海外駐在をしていれば 家内の夢も叶えてやれたのに残念である。

6 私の母 は東北(岩手) そのものの線の太い、芯の強い人で、立派であった。父が厳しく、好きなことが出来ずで、もっと私が親孝行すべきだった。

7 もう一度やり直せるなら 大学のとき 野球部に入って 神宮で試合に出てみたかった

8 男 に生まれてよかったと思うが 最近の女性の頑張りには頭が下がる。

9 私の眠り は深いが短い。最近では、3時頃に一旦目が覚める

10 学校では 勉強、交友、クラブ と程々と云う所上に行くにつれて、フツの生徒となってしまった。

11 恋愛 は当然で、必要な物 年令に拘わらず あって当然と思う

12 もし私の父が 次男の私の所で老後を通したなら、家内共々 父と母にもっと楽しんでもらったことゝ残念である

13 自殺 迄考えたことはないが、考えたとしたら、途中で止まるのは、誰でも難しいことかも知れない。

14 私が好きなのは 山でひっくり返って 緑の葉のそよぎ越しに、光とくもを感じる

15 私の頭脳 は記憶力がなくて困るが、体系的な理解はまあ一とと思われる

16 金 には、あまりこだわらない。才覚はないし株屋には向いていないか

17 私の野心 と云う野心はない。人の役に立つと云うことで、私自身幸せを感じるようになれば良いと思うが

18 妻 は明かるく、元気な妻である 幸いにその点、我が家は 恵まれている。

19 私の気持 は割合安定している。悪いことは適当に忘れることが出来る。

20 私の健康 はまあまあ。タバコを止めたが 思うようにならない

21 私が残念なのは 出身の、《会社名》の最近のあり様である。トップの決断の重要性を改めて感

じることである

22 大部分の時間を 仕事で使ってきた。趣味への時間がこれから増えるのが楽しみである

23 結婚 は 男にとっても、女にとっても、1人の人間として、豊かになれる大きな道である。

24 調子のよい時 にボカをやるクセがある 注意してる

25 どうしても私は 人を押し分け、踏みつけて進むことが出来ない。\*\* [注：判読不可能]、公正で必ず道があると思う。

26 家の人は お互に 云えないことを云う でも、大切な部分は大切にしよう

27 私が羨ましいのは 品良く、ふんわかとした老夫婦

28 年をとった時 元気で、身内に迷惑をかけないように 今から努力している。

29 私が努力しているのは 仕事での責任全う と 老後でのゆとりへの設計構築。

30 私が忘れられないのは ローマの空の青さ。

パーソナリティ・スケッチ

社会：元銀行員であり、再就職をしている。現在の仕事責任を果たすことに努力している。

家庭：4人兄弟（男3人、女1人）の次男として生まれ、両親は既に他界している。両親に対しては肯定的な感情を抱いている。現在は、妻と子供がおり、家庭生活に満足しているが、次男のことは気にしている。将来は、妻との生活に楽観的な見通しを持っている。

身体：禁煙したが健康上若干問題があり、体には気を使っている。運動はほとんどこなし、特に野球に関する記述が目につく。水泳と懸垂ができないことも気にしているようだ。

知能：自己に対する客観性や将来に対する見通しもあり、知能はかなり高い。

気質：対人関係に距離があり、基本は分裂気質と思われる。

力動：頭脳性があるが、全体的に安定している。

指向：仕事と家族におもに関心が向いている。また、現在は、老後の生活設計をしているところのようだ。

事例 17 49才 女性 主婦

WAI

- 1 私は 手先が器用です。
- 2 私は 色が白い。
- 3 私は よく眠れる
- 4 私は 暑がりです。
- 5 私は 目が悪い
- 6 私は 太陽が大好きです。
- 7 私は 野菜が好きです。
- 8 私は 人に親切です。
- 9 私は 家の中の 仕事が好きです。
- 10 私は 人見知をする。
- 11 私は よく読書をします。
- 12 私は 新聞をていねいに読む。
- 13 私は 食物をムダにしない
- 14 私は きれい好きです。
- 15 私は 洗濯が大好きです。
- 16 私は 勤めに出た事がありません
- 17 私は 人ごみは 嫌いです。
- 18 私は 物を大切に取扱いあつかいます。
- 19 私は 朝が早いです。
- 20 私は 老人の話しをよく聞きます。

SCT

Part I

- 1 子供の頃、私は 男の中の女の子1人ということで家族、親せきからたいへんかわいがられ、不自由なく育てられました。おけいご事をたくさん習った。
- 2 私はよく人から かわいがられました。
- 3 家の暮し その当時としては上の部ではなかったかと思う
- 4 私の失敗 早とちりして、物事を先ばしりしやすいところ
- 5 家の人は私を、一見しっかりしていると見る。親切、年よりを大事にする
- 6 私が得意になるのは 整理、整とん
- 7 争い 事はさげたい。野ばんなことはきらい
- 8 私が知りたいことは 別になし
- 9 私の父 勤勉で 多趣味な人である
- 10 私がきらいなのは いんぎん無礼、非常識な人

- 11 私の服 年令に合っている。  
 12 死 安楽死。えん命そ置はいらない  
 13 人々 十人十色で いろいろな人が 世の中にはいるものである  
 14 私のできないことは 人の前で演技すること  
 15 運動 あまりすきではない。  
 16 将来 長男夫婦と一緒に住みたい。  
 17 もし私の母が 病気になったら引き取ってめんどうをみてあげたい。  
 18 仕事 いままでについた事がないのでわからない。  
 19 私がひそかに 絵でも習ってみたい。  
 20 世の中 十人十色でいろいろな人が居るものだ  
 21 夫 勤勉で、私の父に似ているところがある。家庭を大事にする  
 22 時々私は あまり苦勞をしない星の下に生まれたのだと思う  
 23 私が心をひかれるのは 鍵っ子が最近多いこと老人のこどく  
 24 私の不平は ありません。  
 25 私の兄弟 (姉妹) 男ばかりなのでさっぱりしたものです。  
 26 職場では 仕事をしたことがないのでわからない  
 27 私の顔 丸顔  
 28 今までは たいした苦勞もなく生活してきました。これからもこのままでいくと思う  
 29 女 性の友人  
 30 私が思いだすのは 戦争当時のこわかった事

## Part II

- 1 家では このままで良いと思う  
 2 私を不安にするのは ありません。  
 3 友だち 現状のままで良い。  
 4 私はよく しっかりしていると人に言われる  
 5 もし私が 病気になったら家族の者がこまるでしょう。  
 6 私の母 いつまでも元気でいてほしい  
 7 もう一度やり直せるなら 結婚前に勤めてみたい。  
 8 男性にはあまり関心がありません。  
 9 私の眠り すぐねむれる。

- 10 学校では まじめであった。  
 11 恋愛 したいとは思わない  
 12 もし私の父が もっと元気だったら旅行に連れて行ってあげたい。  
 13 自殺 きょう味ありません  
 14 私が好きなのは 花  
 15 私の頭脳 普通かな  
 16 金 別にこまらない  
 17 私の野心 ありません。  
 18 妻 元気で夫の世話をしたい。  
 19 私の気持 人の好ききらいをなくしたい。  
 20 私の健康 まあまあ元気  
 21 私が残念なのは 人のためにした好意がうらぎられた時  
 22 大部分の時間を 読書にあてている。  
 23 結婚 あまり早かったので勤めてからしても良かったかなと思う  
 24 調子のよい時 清掃 洗濯をやりすぎる  
 25 どうしても私は めぐまれていると見られる  
 26 家の人は 私のことをのんきでいい身分だと言う  
 27 私が羨ましいのは 別がない  
 28 年をとった時 かわいいおばあさんになりたい  
 29 私が努力しているのは いつまでも家族のために家事が出来ます様に  
 30 私が忘れられないのは 戦後の食料不足。

## パーソナリティ・スケッチ

社会：社会的な活動はほとんどなく、近隣との付き合い程度と思われる。また、勤めた経験がなく、それを若干後悔している。

家庭：男ばかりの兄弟の中で、甘やかされた育てられたようだ。現在は、夫と既に結婚している子供が居る。両親は健在だが別居している。将来、長男夫婦と同居したいと考えている。

身体：健康上問題はないようだが、エネルギーがない。

知能：ほぼ平均程度。

気質：エネルギーがなく、現実感が希薄である。基本は分裂気質であろう。

力動：未成熟で依存的な印象を受ける。また、現状満足を強調する点が気になる。

指向：日常生活に関心があり、家事と家族を中心に生活している。

事例 18 54才 女性 会社員

WAI

- 1 女性である。
  - 2 母である
  - 3 OLもしている。
  - 4 時々、社外に出て講師らしきことをしている。
  - ⑤ 一人で長く生きてきたせいとか我がままなところがある。
  - 6 自分に関係のある人のことを あんがい気にしてしまう人
  - 7 遊ぶために仕事をしている
  - 8 白黒がはっきりしていることが 好きな人
  - 9 いざという時に役に立つ人
  - ⑩ おだてに乗りやすい
  - 11 美しいもの、こと、を好む
  - 12 時々疲れて頭の中が真白になる
  - ⑬ 人から頼りにされる。
  - 14 ハシの持てない人を見るのが嫌や
  - 15 母性的である
  - 16 自分が愛したい人には愛されず、愛されたくない人に愛される。
  - 17 人から明るい人だとよく言われる。
- ※18～20は無回答。

SCT

Part I

- 1 子供の頃、私は 食料不足で、足におできができ、そのあとが気になるのでズボンをよくはいていた。
- 2 私はよく人から やさしいとか 親切とか言われるが 本当はそう言うことを言ってほしくない
- 3 家の暮らし はまあまあだけど、(きれいな)カーテンを入れ壁紙も自分好みにして、女性が住んでいる家という感じにしたい。
- 4 私の失敗 は、色々ある。すごく気になるが 努めて気にしないようにしている だから人の失敗はあまりせめたくない
- 5 家の人は私を でぶで ボテボテしていて格好が

悪いと言う

- 6 私が得意になるのは 自分で生きてこられたこと位か
- 7 争い 事は嫌いだ
- 8 私が知りたいことは 人に迷惑をかけているのに気がつかないのか しらん顔しているのか そのような人の神経はどうなっているのか知りたい
- 9 私の父 はやさしかった。手先がきょうで何んでも作ってくれた。その血を受けたか 私もきょうである。
- 10 私がきらいなのは 知ったかぶりをして話す人と、自分の自慢話を何日までもしている人
- 11 私の服 は、少し派手目だが自分では その方が似合っていると思うし 気分が明るくなって好きだから
- 12 死 ぬことはまだ怖い、しかし、何日かは死ななければならぬ、自分の人生はこのときまる
- 13 人々 の中にはいろいろの人がいる 好きな人もいれば、嫌いでどうしようもない人もいる
- 14 私のできないことは あまりない。ただやらないだけ、で若さをとり戻すことは出来ない 残念ながら
- 15 運動 することは好きだ。観ることより 自分がやりたい。スキー、ゴルフ、水泳、登山 etc 気が多い
- 16 将来 広い庭に犬を飼って、アトリエで絵を描いていたい
- 17 もし私の母が 長生きしていてくれたら、甘えてばかりいたであろう
- 18 仕事 は生活のためにしないでよいようになったら 楽しく出来るようになった。
- 19 私がひそかに 秘密にしていることがある。それは誰にも言えない
- 20 世の中 は思うようには ならない。だから工夫することが必要なのだ
- 21 夫 は、頼りになる人がよい
- 22 時々私は 一人で旅をしたくなる。
- 23 私が心をひかれるのは 素敵な生き方をしている人と出会えたとき
- 24 私の不平は 自分の時間が持てないことである
- 25 私の兄弟 (姉妹) は沢山いて それぞれ 自分を主張しているので面白い

26 職場では、なるべく明るく振る舞うようにしている。だけど時々男の人のだらしなさが頭に来る  
 27 私の顔は普通だと思っている。子供の頃は目が一重だったので二重になりたくて仕方なかった。  
 28 今までは、もう人生生活長くやっているのでこれからあまり変わらないと思う。  
 29 女であったために、惜しい思いを随分して来た。だからと言って男になりたいとは今は思わない  
 30 私が思いだすのは、子供の頃の楽しい思い出、純粋に人を愛したときのこと

## Part II

1 家では、疲れてよく寝ている  
 2 私を不安にするのは、健康を害すること。  
 3 友だちは多過ぎて均等につき合えない。もつと時間があれば、ご無沙汰している人に逢いたい  
 4 私はよく、もの忘れをするようになった。  
 5 もし私が、家庭人であつたら今の私は居なかつたであろう。  
 6 私の母は、美人だつたと聞く。母の働く姿を知らないだけに、よけい美化されているのかも知れない  
 7 もう一度やり直せるなら、やりたかつたことが沢山ある。その中でも一番やりたかつたことはデザイナーになることである。  
 8 男の人と付き合うと、世の中のことをいろいろ知ることが出来て、身になる話しが出来るのが嬉しい。  
 9 私の眠りは浅いことが多い。もつと深い眠りが出来れば睡眠時間が少なくて人生長生き出来る  
 10 学校では、勉強が嫌いでよくさぼつた。それなのに何かの役をやらされると、ことわる事が出来なかつた。  
 11 恋愛は、人間を成長させてくれる。  
 12 もし私の父が、やさしくなかつたら、早くから家を飛び出していたであろう  
 13 自殺する人は、とつさに飛び落ちたり、薬を飲んだりするのであつて、あまり考えてから自殺はしないと  
 14 私が好きなのは、美しいものを見ることである  
 15 私の頭脳は、はげつて良くない。少し人より感度がよいだけだと思っている

16 金があればあるだけ使いたい。実際使いたいだけ使っている。もし大金持だつたら、かえつて使わないのかな  
 17 私の野心は、半分仕事をして、半分遊んでいられるだけの器量がほしい  
 18 妻という字は安住という字に見える  
 19 私の気持は、いつもハッピー。脳天気のせいから、体調が悪い時は気持ちも悪い  
 20 私の健康は、自分で気をつけていないと体がつくなくなる。だから、あまり無理はしたくないのについ無理をしている  
 21 私が残念なのは、もう一度自分の家を買ひ替えることだが、マンションの値上りでそれが出来ない  
 22 大部分の時間を、自分の趣味と仕事についやされている  
 23 結婚は一度はした方がいい。相手を思いやる気持ちや大人になることが出来る  
 24 調子のよい時こそチャンス。何をやっても、きつとうまく行く  
 25 どうしても私は、女をやめることは出来ない。女性らしさを身につけていたいし、その方が気がよい  
 26 家の人は、勝手に私に協力的ではない。しかし仕方がない。自分の子供だから。  
 27 私が羨ましいのは、美しく老いている夫婦づれを見るときである。  
 28 年をとつた時、美しく年を重ねたい。そして愛されるオバアチャンになることである。  
 29 私が努力しているのは、ゴルフのスコアを上げること  
 30 私が忘れられないのは、学生時代の先生である。私に人生に喜びのあることを教えてくれた。

## パーソナリティ・スケッチ

社会：会社員であり、社外で講師もしている。しかし、女性であるためのハンディもあつたようだ。交友関係は広く、友人に会う時間ももつと欲しいと述べている。

家庭：両親は既に他界しているが、兄弟は多い。両親に対しては肯定的な感情を持っている。現在は子供と暮らしている。配偶者については不明で

ある。

**身体**：容姿はあまりよくないようだが、それほど気にしていない。健康状態は必ずしもよくないが、無理をしているようだ。スポーツはかなりやっている。

**知能**：誤字や脱字が散見されるが、かなり知能は高い。

**気質**：活動的で、対人指向も強い。循環気質が基本であろう。

**力動**：かなり頑固性が強く、また、周囲に対する不満もあるようだ。若干安定性を欠いている。

**指向**：主な関心は対人関係や審美的なものにあるようだ。また、スポーツはかなり広くやっており、現在はゴルフをしているようだ。

## 60才以上

### 事例 19 61才 男性

#### WAI

- 1 人間である。
- 2 日本人である。
- 3 この世の生物である。
- 4 高等生物である
- 5 意思のある 考えのある生物
- ⑥ 行動に責任を持てる人
- 7 自制■心のある人間
- 8 家族の幸せを願っている人
- 9 常に向上心をもっている人間
- 10 少しでも新しい知識を吸収しようとしている人。
- 11 誰からも愛されたいと願っている人。
- 12 家庭の発展に努めている人
- 13 人生を有意義に過ごしたいと思っている人。
- 14 社会に迷惑をかけない人間として気を使っている人。
- 15 社会のルールに反しない様、努めている人間
- 16 子孫にほこれる人間になりたいと思っている。
- 17 自分の歩いてきた道にほこりを持てる人間
- 18 自分を大切にしたいと思ってる人間。
- 19 残りの人生を無難に過ごしたいと思ってる人
- 20 自分の考えを持ってる人間

#### SCT

##### Part I

- 1 子供の頃、私は 幸せであった。
- 2 私はよく人から 一言多いと云われる。
- 3 家の暮し 若い時は経済的に苦労もあつたが、現在は良い方だと思っている。
- 4 私の失敗 酒席で口が多くなる。
- 5 家の人は私を 良いお父さんと思っている。
- 6 私が得意になるのは 得にない。
- 7 争い ごととはきらいであり、できるだけ、さける様にしている。
- 8 私が知りたいことは 政治家の税金、特にパーティの利益に対する課税の問題
- 9 私の父、生きていたら、もう少し、楽しませてやれた。
- 10 私がきらいなのは 人の気持を迷惑を考えず行動する人
- 11 私の服 全般的に地味である。
- 12 死 必ず訪れるものであるが淋しいものである
- 13 人々 幸福を願う。
- 14 私のできないことは 体力、知識以上の事である
- 15 運動 好きだが下手である。
- 16 将来 苦あれば楽ありで、いやな事は先に手をつけ 将来は楽に暮らしたい。
- 17 もし私の母が 何時までも元気であれば親孝行■に努めたい。
- 18 仕事 忙しくても、やりがいのあるものであれば。
- 19 私がひそかに 得になし。
- 20 世の中 世代の違いを感じる。お互いにルールを守り向上を願っている。
- 21 夫 家族の発展と幸せの為、責任をもっている
- 22 時々私は 老人となった時の自分はどんな生活をしているか
- 23 私が心をひかれるのは 美しい心を持った人と接した時。
- 24 私の不平は 自分だけ良ければ との若い人が多くなった。
- 25 私の兄弟（姉妹） それぞれの家庭があり、別個の世帯である。
- 26 職場では 常に存在を認められたい。

- 27 私の顔色が黒く魅力に乏しい。  
 28 今までは順調にきたが、将来はどうなるか。  
 29 女 和服を着せたいと思う。  
 30 私が思いだすのは、戦時中の苦労。

## Part II

- 1 家では家族の団らんがほしい。  
 2 私を不安にするのは、自分が死んだあとの家族の生活  
 3 友だち 年令をゆく程、遠のいてくる。  
 4 私はよく一人で山の中に自然と共に住みたいと思う。  
 5 もし私が若かったら、もう少しやりたい事を自由にできたとと思う。  
 6 私の母 常に他人を意識して、生活している様だ  
 7 もう一度やり直せるなら、又、違う人生を歩いていたと思う。  
 8 男 自分の行いに責任をもつこと  
 9 私の眠り 早寝、早起き。  
 10 学校では 良く遊べ 良く学べ。  
 11 恋愛 夢を持てる。人生が楽しくなる。  
 12 もし私の父が生きていたら、今の自分を見て貰う。  
 13 自殺 人間一度は死ぬものである。自分でたつことはない。  
 14 私が好きなのは、酒を飲みながらの家族との団らん。  
 15 私の頭脳 決して良くない。  
 16 金 あれば良いと思っている。  
 17 私の野心 子供に残してやれる財産を作りたい。  
 18 妻 私より永生きしてほしい。  
 19 私の気持 真面目で素直だと思っている。  
 20 私の健康 今のところは健康であるが、将来は心配である。  
 21 私が残念なのは、若い内にもう少し、いろんな遊び(趣味など)をやっていたらと思う。  
 22 大部分の時間を 仕事についやしている。  
 23 結婚 人生の出発点である  
 24 調子のよい時は何んでも自信が持てる。  
 25 どうしても私は 体力の衰えが目立ってきた。特に視力が弱った

- 26 家の人々は、皆んな家庭の為に努力している  
 27 私が羨ましいのは、財をなし、子供も独立、夫婦で余生を送っている人を見て。  
 28 年をとった時、どうなっているかと心配である  
 29 私が努力しているのは、高齢化社会に対する将来の生活を考えて。  
 30 私が忘れられないのは、親友を事故で亡くした時

## パーソナリティ・スケッチ

社会：職業は不明であるが、仕事に大部分の時間をついやしている。社会全体に対する関心は強い。  
 家庭：父親は既に他界しているが、母親はまだ健在である。妻と子供がおり、家庭に対する責任感が強い。  
 身体：現在は健康であるが、視力が弱くなっている。身体の衰えを感じ、将来に不安を感じている。  
 知能：平均程度の知能と言える。  
 気質：社会規範を強く意識しており、粘着気質が基本であろう。  
 力動：社会全般に対する不満、将来に対する不安などがあり、若干不安定さを感じる。  
 指向：家族のために生きてきたという自負がある。しかし、違う人生もあったのではないかという気持ちも持っている。

## 事例 20 80才 男性 無職

## WAI

- ① 老齢年金をもらっている  
 ② 民間会社功労年金をもらっている。  
 3 国民健康保険に加入している。  
 4 市の老人クラブに入っている  
 5 自分の所有地の自分の住宅に住んでいる  
 6 郷里に宅地がある。  
 7 高原に別荘がある  
 8 子供が3人いる  
 ⑨ 孫が9人いる。  
 10 3つのゴルフクラブの会員である  
 ⑪ 老齢になってからは、年50回以上ゴルフをやっている。  
 12 3つのアメリカ学会と、1つの日本の学会のメ

ンバーである

- ⑬ 20年以上海外に駐在したことがある  
 14 大東亜戦争中は、技術者として動員された。  
 15 技術的功績で 陸軍省より額一面を授与された  
 16 国際会議の執行委員を6年勤めたことがある  
 17 原発黎明期のアメリカ情報を日本政府のために調査したことがある。  
 18 昭和14年学位論文通過、理博  
 19 昭和14年秋、ニールス、ボア先生や、アインシュタイン博士を訪問した。  
 20 戦後2ヶ年間、米国コロンビア大学に留学したことがある。

SCT

Part I

- 1 子供の頃、私は 泣き虫だった  
 2 私はよく人から 弱虫といわれた  
 3 家の暮し は貧乏だった  
 4 私の失敗 は泳げないのに、悪童の仲間に入って川に飛び込み溺死寸前で助けられたこと  
 5 家の人を私を 末えつ子として甘やかした。  
 6 私が得意になるのは 小学5年から中学に入学したこと  
 7 争い ごとに負けるのがきらいだった。  
 8 私が知りたいことは 祖先のこと。  
 9 私の父 小役人で、酒が好きだったが、趣味は豊富な方だったらしい  
 10 私がきらいなのは 犬、猫、へび  
 11 私の服 はアメリカの既製品でも間に合う。  
 12 死 んだ後の事は、心配しない。  
 13 人々 のうわさは無視する  
 14 私のできないことは 力仕事  
 15 運動 は健康保持のためにやる。  
 16 将来 は成り行きにまかせる。  
 17 もし私の母が 生きていたら、心配ばかりしているだろう。  
 18 仕事 は、むつかしいことに 挑戦する。  
 19 私がひそかに 願うことは 21世紀まで生きのびること  
 20 世の中 のいやな事は 出来るだけ避けて通る。  
 21 夫 として がんこ  
 22 時々私は 奇想天外なひらめきを感じる。

23 私が心をひかれるのは 極限の世界である。

24 私の不平は 無くなることはない。

25 私の兄弟（姉妹）には世話になりっぱなしである。

26 職場では 他人には干渉しない。

27 私の顔 は他人に不快を与へない。

28 今までは 大病はしなかった。

29 女 はおとぎ話では若い時は おひめさま、年をとると、魔法使いか、いじわるばあさん。

30 私が思いだすのは 5才の頃 ほめられると思っ  
てしたことで、ひどく母に叱られたこと。

Part II

1 家では わがまゝを通す。

2 私を不安にするのは 仕事に自信が無くなること

3 友だち は無制約にすべきもの

4 私はよく 複雑なことを詮索するくせがある。

5 もし私が 今急死しても 仕事の上で迷わくする者は無い。

6 私の母 はユーモアが好きだった。

7 もう一度やり直せるなら 同じテーマについて別なアプローチを試みる。

8 男 は、腕力よりも判断力が物を云う。

9 私の眠り は深いが 断続的である。

10 学校では 誰もノートを借りに来なかった。

11 恋愛 至上主義は 青年だけに通用する。

12 もし私の父が 生きていたら、よい飲み相手になってやれたらう。

13 自殺 出来る人の勇氣は、尊敬に値する。

14 私が好きなのは 最先端の存在

15 私の頭脳 のサイズは平均より大きいだけのねうちがある。

16 金 は使つてこそ ねうちが解る。

17 私の野心 は消耗品である。

18 妻 は優雅に老いるベシ。

19 私の気持 はいつも非現実的である。

20 私の健康 は灰色

21 私が残念なのは 理論的研究を戦時研究のために中断したことである。

22 大部分の時間を 管理的な仕事に費やした。

23 結婚 当時は満足するのが当然

- 24 調子のよい時 はよく学び よく 遊べる。  
 25 どうしても私は 21世紀にたどり着きたい。  
 26 家の人は 私に協力してくれるだろう。  
 27 私が羨ましいのは 私の持っていない能力にめぐまれた人  
 28 年をとった時 でも、新しい事に興味を失はない。  
 29 私が努力しているのは 自分の過去の仕事を 現在の基準で見直すことである。  
 30 私が忘れられないのは 自分の間違っていた事だけが 永久に残ると云ったアインシュタインの言葉

#### パーソナリティ・スケッチ

社会：企業の研究者として第一線で活躍してきた人物のようだ。現在は、老人クラブにも入って、老後を送っている。

家庭：具体的な家族構成については、子供が3人、孫が9人いること以外は不明である。しかし、家族に対しては、父母や兄弟を含め肯定的な感情が示されている。

身体：この世代でアメリカの既製服で間に合うというのは、かなり体格の大きい方である。現在は、ゴルフを頻繁にしており、かなり健康のようにも見えるが、「灰色」と述べており、不安があるのかも知れない。

知能：短い文章で明解に記述されており、かなり知能が高いことがわかる。

気質：抽象的な表現を好み、対人関係にも淡泊な方であるが、現在も仕事に情熱を持っており、かなりエネルギーが感じられる。基本は粘着気質と考えられる。

力動：顕耀性がかなり強く現れている。しかし、不安定さはなく、達観しているようにも見える。

指向：自分の研究業績に対する誇りと、現在でも研究に対する情熱が感じられる。

#### 事例 21 60才 女性

##### WAI

- 1 私は二児の母親です
- 2 私は60才の女性です。

- 3 私は料理の好きな女です。
- 4 私は夜更かし型です
- 5 私は子供の頃 虚弱でした
- 6 私は猫の好きな女です
- 7 私は建築に興味をもっています
- 8 私は多少おせっかいかも知れません
- 9 私は子供好きではありません
- 10 私は二人の女の孫をもっております
- 11 私は娘の家へ孫をお守りに参ります
- 12 私はヨーロッパの古い建築を見たいと思っている女です
- 13 私はつまらぬことにくよくよする性質です。
- 14 私はぼんやりと無為に過すことは好みません
- 15 私はピアノを弾くのが好きです。
- 16 私は推理小説をよむのが大好きです
- 17 私は雨の好きな女です。
- 18 私は物が定位置にないと気がすみません
- 19 私は健康でありたいと切に思っております。
- 20 私は好奇心のある人間です。

##### SCT

##### Part I

- 1 子供の頃、私は 身体が 弱かったので 家の中で遊んでいました。
- 2 私はよく人から 器用な人だと云われます。
- 3 家の暮し について私は心配しておりません
- 4 私の失敗 は 数限りなくあります
- 5 家の人は私を やはり頼りにしていると思います
- 6 私が得意になるのは ちよつとした知識を活して ほめられるときです
- 7 争い ごととのあとで 空しい気持ちに なる程いやなものはありません
- 8 私が知りたいことは なるべく早くしらべるようにしています
- 9 私の父 はきびしい人でした。
- 10 私がきらいなのは だらしないことです。
- 11 私の服 は ほとんど 自分で作ります
- 12 死 について この年になると 或程度 覚悟が出来るようになりました。
- 13 人々 というと ~の人々というような 小説がありましたね。

- 14 私のできないことは、商売です  
 15 運動 をしたい気持はあるのですが 下手だと思  
 っておりますので。  
 16 将来 ヨーロッパ旅行をしたいのが夢です。  
 17 もし私の母が、いつまでも 生きていたら 尋ね  
 たいことが いろいろあります  
 18 仕事 中寿の日本人といいますが 私も その一  
 人。  
 19 私がひそかに 今 志しているのは、彫金を習い  
 始めて 作品を作ること。  
 20 世の中 何とバカバカしいことが多いですが、  
 でもそれが また好いところでもありますね。  
 21 夫 について 私は殆ど 満足しております。  
 22 時々私は、大へんな自己嫌悪に陥ります  
 23 私が心をひかれるのは、上品な女性です  
 24 私の不平は、大てい夫や子供に ぶちまけて終わ  
 りです  
 25 私の兄弟(姉妹) は とても 仲良く過してい  
 て幸せです。  
 26 職場では、私は 若い頃 よく働いた方だと思  
 います  
 27 私の顔 は 馬がアンドン…という位 長いので  
 す  
 28 今までは、脂こいものが好きでしたが この頃は  
 健康上控えています。  
 29 女 でいられることは幸せです。  
 30 私が思いだすのは、小さい頃の 家庭環境です

## Part II

- 1 家では、私が一ばん おしゃべりです。  
 2 私を不安にするのは、夫が亡くなったあとです  
 3 友だち は、沢山あるほうだと思います。  
 4 私はよく、テレビドラマなど見ます  
 5 もし私が 男だったら 大した仕事は出来ないで  
 しょう  
 6 私の母 は 頭のよい、しっかりした気性の人で  
 した。  
 7 もう一度やり直せるなら、私は 台所を改築した  
 い。  
 8 男 の人の厚かましいのは最低です  
 9 私の眠り は浅い方だと 自分では思っています  
 10 学校では、わりあい 成績がよい方でした。

- 11 恋愛 というのが至上 だとは思いません  
 12 もし私の父が、今でも 生きていたら ちよつと  
 手こずりますね  
 13 自殺、なんて考えたことはありません  
 14 私が好きなのは、手仕事です  
 15 私の頭脳 は、今のところ まだ健全です  
 16 金 は あればある程 いいでしょうね。  
 17 私の野心、といわれても 困るほど ありません  
 18 妻、としての私は、どの位 点が 頂けるでしょ  
 うか  
 19 私の気持、を一ばんよくわかってくれるのは娘  
 です  
 20 私の健康、を家族が 気づかってくれるのは、三  
 年前大病をしたからです  
 21 私が残念なのは、男の孫が出来なかったこと  
 です。  
 22 大部分の時間を、私は手芸に ついやしています  
 23 結婚、してから 37年もたちました  
 24 調子のよい時、ほど嬉しいものはありません  
 25 どうしても私は、ヨーロッパへ行きたい  
 26 家の人 は、私にやさしいです  
 27 私が羨ましいのは、スマートな体型です。  
 28 年をとった時、なるべく健康でいたいと思  
 います  
 29 私が努力しているのは、物事にくよくよ しない  
 でいたいということ。  
 30 私が忘れられないのは、やはり母のことで

## パーソナリティ・スケッチ

社会：職業は不明であるが、おそらく主婦であろ  
 う。

家庭：父母は既に他界しているが、兄弟は健在の  
 ようだ。兄弟に対しては肯定的な感情を持っている  
 ようだが、父親に対しては否定的で、母親に対  
 しては複雑な思い入れがあるようだ。夫に対して  
 は肯定的であるが、娘の方に愛着があるようだ。  
 孫に男子がいないことを残念に思っている。

身体：子供の頃は虚弱であり、3年前にも大病を  
 している。健康には気を付けているようだが、エ  
 ネルギーはあるようだ。

知能：平均よりやや高い方であろう。

気質：全体に堅さが感じられ、意欲がある。粘着

気質であろう。

力動：くよくよする傾向があり、依存性もある。また、若干強迫的な傾向も見られる。全般に不安定さが感じられる。

指向：料理や手芸などの女性的なことが好きなようだ。また、ヨーロッパに旅行し、建築を見たいと考えている。その他に、ピアノ演奏、推理小説なども好きなようだ。

## 事例 22 68才 女性 不動産業

### WAI

- 1 主婦です。
- 2 おばあちゃんです。
- ③ スポーツマン です。
- 4 スタイリストです。
- ⑤ ファッション・メーカーです。
- 6 エステ・ティッカーです。
- ⑦ 家事整理屋です。
- 8 家族の健康管理者です。
- 9 Cookerです。
- 10 家族のリーダーです。
- 11 良きおぢいちゃんの心の友です。
- ⑫ 一家の支柱です。
- ⑬ 孫の遊び友達です。
- 14 私は浪費家です。
- 15 私は遊び人です。
- 16 私は食道楽です。
- 17 私は無芸抱食家です。
- ⑭ 私は楽道家です。
- 19 私は声楽家です。
- 20 私はギョウ舌家です。

### SCT

#### Part I

- 1 子供の頃、私は 親の愛情一杯に育ちました。
- 2 私はよく人から 明るい…と云われます。
- 3 家の暮し 満足しています。
- 4 私の失敗 も少し何事でも 総て真面目に取り組めばよかったと思います。
- 5 家の人には私を お人好し、昔の蛍光灯の様だと 思ってるでしょう

6 私が得意になるのは 大好きな スポーツをやる時。

7 争い あまりに常識以外の発言・行動を平気でやる人

8 私が知りたいことは 経済の事。

9 私の父 会社員・温厚で家庭的なよき父。

10 私がきらいなのは 約束を守らない事。

11 私の服 自分自身に納得のゆく 着用して楽しくなる様な粧いを心がけてます。

12 死 後5・6年で おだやかな死を迎へたい。

13 人々 なるべく博愛の気持で接したい。

14 私のできないことは 手先の器用さを必要とする仕事。

15 運動 事情が許せば何でも挑戦してみたい。

16 将来 家族とおだやかな日々を過したい。

17 もし私の母が 実在していたら思う存分孝行をして上げたかった。

18 仕事 不動産の仕事は大好き。

19 私がひそかに サンフランの娘の所で3ヶ月位 東京の家の事を考へないで 過して見たい。

20 世の中 あまりに自己中心になり過ぎている。

21 夫 理想像ではないが年なので暖く見守って上げたい。

22 時々私は 現在の煩雑な毎日から逃れて静かに暮らして見たいと思う。

23 私が心をひかれるは 肌の綺麗な人、憧れです。

24 私の不平は 家の中の整理、言葉遣いが今一の所。

25 私の兄弟(姉妹) 姉はアメリカ永住。弟は《地名》で悠々自適生活。

26 職場では 家事の合間にオフィスに時々出ます 楽しいです。

27 私の顔 嫌いではありません

28 今までは (人生に) 努力が少し足りなかった (精神的に)

29 女 である事に満足しています。

30 私が思いだすのは 家族との過去何年かの楽しい旅行です。

#### Part II

1 家では 存在感のある年寄りです。

2 私を不安にするのは 現在の商売が今迄の様に

順調であるかどうか?...

- 3 友だち 大事になるべく多く持ちたい。
- 4 私はよく 後で後悔する様な発言・行動を心ならずもする事がある。
- 5 もし私が 今より頭良く生まれて居たら、人生がもつと変わったかも...
- 6 私の母 賢夫人で私の好きな手本でした。
- 7 もう一度やり直せるなら 新しいベターハーフと人生を歩んで見たい。
- 8 男 包容力のある、頭の良い、思いやりのある人。
- 9 私の眠り は深い時の方が多い。何所でも眠れる特技がある。
- 10 学校では あまり積極的でなく 流れに従う方。
- 11 恋愛 思い思はれより片思いで成功率が少なかった。
- 12 もし私の父が 現在元気であつたなら親孝行をしたい。
- 13 自殺 絶対否定的。然し誘惑にかられる事もある。
- 14 私が好きなのは 心の糧になる様な音楽を聞き好きなスポーツ・ダンスをやる事。
- 15 私の頭脳 手遅れとは云い乍らひらめき良い頭でありたかつた。
- 16 金 あり余る程は必要なし、然し程々の楽しみは持てる程度のお金は持ちたい。
- 17 私の野心 孫に囲まれた庭の広い、環境の好い住居を構へたい。
- 18 妻 やはり夫を大切に自分もある程度活かされるタイプが理想。
- 19 私の気持 家族円満ファミリーの健康を切望
- 20 私の健康 概ね良好
- 21 私が残念なのは 私の考へてる事が相手に通じない時。
- 22 大部分の時間を 家事に費すより自分自身の事にも少し専心したい。
- 23 結婚 努力、努力の積み重ね。
- 24 調子のよい時 体調の好い時は普段出来なかつた家の中の整理を徹底的にしたい。
- 25 どうしても私は 睡眠を充分取りたい。
- 26 家の人 は 物理的には私を頼りにしてます。
- 27 私が羨ましいのは 家族ぐるみで和やかに友達

同志のお附合いが出来る家庭

- 28 年をとつた時 健康第一、好きなスポーツを続けたい。
- 29 私が努力しているのは 体の老化を少しでも遅くしたい。
- 30 私が忘れられないのは 何回かの楽しかつた家族旅行 主人が大怪我をした時

パーソナリティ・スケッチ

- 社会：不動産業を営んでいる。仕事が好きで、経済的にも家庭を支えているようだ。
- 家庭：父母は既に他界しているが、姉と弟は健在である。現在は、おそらく夫と二人暮らしで、娘がサンフランシスコに在住している。家族を一人でまとめてきたという自信がうかがえる。
- 身体：スポーツを幅広く行なっており、この年齢にしては体力がある。しかし老化に対する不安はあるようだ。
- 知能：広い範囲に興味があり、知識の範囲も広い。少しおかしな表現もあるが、知能は高い方であろう。
- 気質：エネルギーにいろいろなことに取り組んでおり、意思の強さを感じさせる。粘着気質が基本と言えるであろう。
- 力動：かなり強い顕性があるが、自己と他者に対しては肯定的な感情を抱いているようだ。
- 指向：仕事と家事をやる一方で、幅広くスポーツもしている。また、音楽を聴くことも好きなようだ。しかし、最も大きな関心は依然家族に向けられているような印象を受ける。